



大仏殿（雪景）

昨夜から舞い始めた雪が
屋根や樹木を薄く化粧した
逆光を受けた濃い雪は
キラネウ輝きながら
はらはらと降ってくる
初春を春ごころのように
もう一度薄化粧をしながら
春の調べと芳香に誘われ
松箱の音に春を聞き
お抹茶と花びら餅をいただく
暖かい風が吹き寄せると
梅花の雷がはじけ
本堂の大きな屋根根から
流る水は日の先に帯んで
音も賑やかに壁に流れ込む

雷の法華堂



Photo essay

初春



題字 中田 蘭石
撮影 由井 収一
文 松 永 恵一

観心寺（紅梅）





雪ダルマ

季節の



クコ

実景

山野の赤い実

新春

撮影 武市通治



ヒヨドリジョウロ

赤い実 (名は不明)



コロ柿





冬の壁（金剛山） 三浦 弘幸



霧氷の高見山（台高） 中川 光郎

霊仙山西南尾根を行く（鈴鹿） 一芝 義雄

霊仙山頂は広い風紋模様（鈴鹿） 今村 悦子



奥田 英一郎



樹肌には雪細工



樹水のトンネルに行く



幻想的な雪模様

●目次

表紙：松田敏男「西岳(ハヶ岳)より北岳(南アルプス)を望む」

●作者プロフィール ●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1967年より山岳新聞、山岳の星多勢新聞、(京都平安通風、南アルプス山岳)小説、東京ギャラリー(百号、他) 京橋山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

新伴ダ 8冊 関西の山
04年1・2月 新春 第74号

サービステニエン せせらぎ.....	89	84	84
新ハイ関西山行計画.....	89	84	84
新ハイ関西山行報告.....	112	110	98
バス路線案内.....	112	110	98
編集後記・広告案内.....	112	110	98
●グラフィック	初春.....	撮影 由井 収 文 松永 恵一	4 2
(口絵) 中川光郎 今村悦子 三浦弘幸 一芝義雄 奥田英一郎	季節の実景(新春)「山野の赤い実」.....	武市 通治	4 2
随想(山のエッセイ)	四国「与作街道」を行く.....	西尾 寿一	10
紀行	氷ノ山(伯馬)	篠山 誠峰	13
蘇武岳と行者遺岳(伯馬・大峰)	田中 明	20	
若古谷山(奥三岳)	妻鹿ひろ子	16	
運載 標高による山の紹介シリーズII △△74の山	松田 敏男	24	
三重嶽・野伏ヶ岳・木ノ実や塚・向山	木村 太郎	26	
天の森から三輪山東尾根(大和)	小山 誠次	30	
細川から釣瓶岳北西尾根登行(比良)	鷺見 守康	34	
飯塚山と戸隠森林植物園(信濃)	磯部 純	57	
運載 三角点を訪ねて			
貝ヶ平山から額井岳(室生)			
●エリヤ別荘研究 高野参詣道を歩く(第三回)			
●不動坂口 ⑥長坂道 ⑦黒河口 ⑧粉撞峠道.....	長坂 文男	40	
●旗振り通信の研究			
●研究の経緯と文献.....	柴田 昭彦	61	
●布引滝から黒岩尾根・摩耶山(六甲)	中村 敏文	49	
●文学歴史探訪ハイク④			
●二条城から北野天満宮へ.....	松永 恵一	64	
●「山のレポート」山の地名を歩く③京丸山	西尾 寿一	68	
●「山のレポート」十二支の山 甲年の山	生駒 巖峰	70	
●「山のレポート」△山・時・夢△帆柱山	紀平 龍雄	71	
●山組山(紀尾)	長佐次盛一	74	
●武神山南麓(湖北武蔵ヶ野(前巻))	栗谷 清司	76	
●土蔵岳(湖北)	金谷 昭	77	
●鈴ヶ岳・鈴ヶ岳・茶野(鈴鹿)	磯部 純	81	

巻頭言

身近な道で見つけた自然や動植物をもとにして自分なりの観察路を考え出し、絵地図と解説文で紹介する「自然は友達 私の自然観察路コンクール」が、国立公園協会などの主催でおこなわれていて、先11月15日、今年で第20回目の審査結果が発表されました。新聞によると、小学生82、中学生170、高校生150、合計408の応募作品があったという事です。

子供たちがいったいどのような観察路を見つけ、どのような絵地図にしているのか興味を持ちましたが、作品の紹介は詳しい載っていないので残念でした。

ハイキングを愛好する私たちも山道やアプローチの路傍で多くの自然に触れますが、それらは季節ごとに変化していて、四季折々の自然にいくつか魅せられていきます。歩きながら周りをキョロキョロし、新しいものを発見する人がいますが、きっと家に帰ってから今日歩いた道を「観察路絵地図」にして楽しんでおられるのではないかと思います。

今年から自然観察例会が増えますので、興味はなかつた人も参加してみてください。

新ハイキング関西(代表) 村田 智哉



随想 (山のエッセイ)

克

を實踐して成功している。中国地方を丹後半島から山陰路を下関までたどり、燗りて山陽路を瀬戸内海の大島や江田島などにも渡り、一周してくる間に周辺の山に数十山登ってこられた。内陸部のやぶ山は手強いので別の機会としたが、前述の方式が有効なことが実証できた。

四国の山は昔から随分登って主要な所は終わっているが、気になる山がまだたくさん残っている。そこで今回選んだルートは、「与作街道」と地元で言っている国道439号線(徳島から土佐中村まで)をたどることに決めた。このルートは西へ行くほど道が細く一車線となるので走る人は少ない。しかし周辺の山はすごいのだ。剣山系から石鎚山の南一帯の重々たる山岳の間を串し刺しにして曲折し、峠が12個もある厳しいルートである。

ツーリングだけでも相当苦しまられるのに、登山が目的となるとさらに厳しくなるが、それをクリアすることの気分がまたこたえられない。無料キャンプ場・道の駅・温泉・名水など、旅の恩恵には事欠かないし、歩き道路の多いこと、地元民の旅人に寄せる温かい心もうれしい。

この旅は西へ行くほど自然・人情とも高揚してくる。仁淀川の鮮烈な水は四万十川を上流でいたし、漢谷の美しさはまさに南面の趣さえあった。そこで出会った中年男は、東京でリストラにあい、田舎に戻って子供時代から手練のウナギ捕りをして暮らしていた。

広島から来たという巡礼者が一人でテントで自炊生活しながら70日間かけて八十八ヶ所を巡っていた。話を聞くうち、山も巡礼も探みたいとした違いのなことがわかってきた。彼は遠

ず特定方面の地形図の束を持って出かける。例えば、北海道なら40枚程度の地形図に分類してその部分に集中する。範囲を広くすると散漫になってしまう。初めての人はいずれもこれと異なるが、効率としては最悪となる。

資料を集め、便利なキャンプ地と道路状況(小生はバイク専門のマップを愛用している)を知る。そしてどのルートを使うかを決める。後は、そのルートの近くの山を巡って行くことになるが、そこで良好なキャンプ場があれば、それを基地として使うことになる。休養も洗濯もその地で可能となる。

いわば「巡回と定着」の合体したものとなるわけだ。これが大事なことで、どちらか一方ではうまくいかないのである。

最近では北海道・東北だけでなく、長期山行向きでないといわれている西日本へも、この方式

船所の廃業によって職を失い転職も不可能と知り、毎年春になると巡礼に出るのだという。50歳というむつかしい年齢を考えると気の毒でもあるが、先のウナギ捕りの男にしても、それほどの悲憤感がないのが救いでもあった。

四万十川の水質はよくない。情報過多によって今や天下の川となっていて、支流のダムが水質を悪くしていることはあまり知られていない。

しかし、川そのものは、本物の川らしい豪快な姿をしている。仁淀川の急峻な流れと水質の良さとは対照的であるが、四万十川の良さはそれを差し引いてもなお光っている。

支流の流れる大野見村へ旅する人は皆無だと思いが、数十年前の良き時代の日本の姿がそこに存在している。これといって名物があるわけでもないし、目的があるわけでもないのに行っ



克

四国「与作街道」を行く

西尾 寿一

人が山へ登る動機はさまざまである。日本百名山、二百、三百名山と類似の名山巡礼があるかと思えば、一等三角点の山・十二支の山、さらに三角点の置かれている山を風濤しに登る人もいる。しかし、そうした登山には特定の点から点へと移動しなくてはならない強制的な宿命が課せられている。

点から点へ移動する際の間に存在する「好ましい存在」にはいっさい無関心で通り過ぎてしまふのである。その「好ましい存在」とはいったい何だろう。未確認飛行物体のようなそのものこそ、実は最も価値あるものだったかも知れない。

長年登山でも旅でも続けてき

た人ならわかってもらえらると思ふのだが、情報誌やインターネット上にも登場しない、その「好ましい存在」が年を経て浮上してくることである。しかも厄介なことに、点から点として価値付けされていたものより価値が上位になることが多いことである。当時の価値判断が甘かったことは当然として、その価値の基準が自己のものでなく、他に依存していたこと、言わば、他人の定めた価値の受け売りであったことを恥じるばかりである。

しかし、登るべき山の価値を自分で決めることが可能となった分だけ成長しているのであるから、それも悪くないことかも知れない。

小生の登山も随分進化してきた。最近では時間が自由になったことから、今まで考えられなかったスタイルを実行することが可能となった。

それは、登る山を細かく決め

ず特定方面の地形図の束を持って出かける。例えば、北海道なら40枚程度の地形図に分類してその部分に集中する。範囲を広くすると散漫になってしまう。初めての人はいずれもこれと異なるが、効率としては最悪となる。

資料を集め、便利なキャンプ地と道路状況(小生はバイク専門のマップを愛用している)を知る。そしてどのルートを使うかを決める。後は、そのルートの近くの山を巡って行くことになるが、そこで良好なキャンプ場があれば、それを基地として使うことになる。休養も洗濯もその地で可能となる。

いわば「巡回と定着」の合体したものとなるわけだ。これが大事なことで、どちらか一方ではうまくいかないのである。

最近では北海道・東北だけでなく、長期山行向きでないといわれている西日本へも、この方式



随想 (山のエッセイ)

てみたくなってしまふ所である。湧水に至る所にある。「飲めるか」と聞くと、「当たり前だ。川の水も飲める」と怪しいことを聞くヤツだ、と言わんばかりの剣幕である。

地元で情報を仕入れ、めずらしい山でとても無理だろうとあきらめていた山なども合わせ数十山をものにして、与作街道の終点のキャンプ場に三連泊することになった。ここは温泉・買物何でもそろふ天国のような所だった。

広大な芝生が1日も続くこのキャンプ場に、東京から4000キロも自転車走ってきたという中年男と2人だけなのは、何とも不思議だった。

川霧の立ち込める四万十の支流群もくまなく走って、名物の沈下橋を何回も渡り返して心ゆくまで楽しんでみた。そして足摺岬、宿毛、宇和島へと……ある日の夕方、目のキラキラ

輝く体格のよい女の子が、仲間数人とテント脇の樹に登って遊びだした。「あぶないよ」と顔を覗かす。「どこから来たん」と返してくる。もう数年もすれば「親月ありさ」みたいないい女に成長するはずとみたが、5年生だと言う。父親は市役所、母親はドーナツのチェーン店をしているらしい。塾も行かずに分分に野外で遊べる子供は今どきめずらしい。

ひと通り遊んだ後「もう帰るが」(「が」は方言で「帰るよ」の意)とテントに首を突っ込んで報告にくる。小生は別に時間制の若者と呼んでいるわけではないし、勝手に帰ればいいものをと思ったが、この率直さがさわやかな心地で響いてくる。

「さようなら」と言うやクモの子を散らすように走って芝の波間に消えて行った。

ここの子供は見知らぬ他人にも方言で早気で話すことができ

る。この国が失った美風が土佐の片田舎にはまだ残っていたのだ。幕末のようおそろしく未来を切り開いてくれるのは、都市ではなく田舎の子供たちに違いないと、何か確信のようなものを感じたのだ。

最近の小生の山旅は、山に登って行くだけでなく、もっと大きな自然と人間の演じる大河ドラマを観ているような気分ひたっている。帰路は旧土佐街道を、これも残された山々を拾いながら、ゆったりと東へ走るのだ。

小生の脳裏には今も、子供たちの笑顔や巡礼・山・川・漁師・市場の風景が浮かんでくる。

名峰に憧れ親しんだ35年

氷ノ山

人は皆、心のなかに自分の山を持っているのではないだろうか。私の場合、兵庫県の最高峰氷ノ山(1510.0)であったわけで、積雪期を中心に四季を通じて、憧れ親しんできた。

① 憧れの氷ノ山に初めて登る
昭和44年(1969)の2月だからもう35年も前のことになる。その頃学生だった私は社会人の山岳会に入会したばかりで、装備もろくに持っていなかった。あらかたの物を先輩から借りて、JR神戸駅から急行に乗り込んだ。当時は仕事を終えてからスキーに出かける人も多く、洗面所にまで人が乗っていた。八鹿駅か

篠山誠峰

但馬

らバスで丹戸まで入り、夜道を大久保経由でハチ高原まで歩いた。

ロッジのそばの農業試験場のような建物の横にテントを張った。翌朝は天気もよく、スキーにシールをつけて鉢伏山をまだ頂上リフトのない頃で全く人はいなかった。正面には氷ノ山が大きくそびえていた。

稜線をおぼつかないスキーでテントに戻った。テントは3人が交互に並んでやっとな寝ることが出来るアタック用のもの、夕食に小さいテントの中で焼肉をやったので、目が開けられず、首を外に突き出して食べた。

尾工ヒュッテ入口にて (昭和50年1月18日)



次の朝はスキーで福定までくだり、八木川を渡って氷ノ山に取りついた。2月のわりに雪は少ななくて東麓根に出た所でスキーをデゲした。

山頂に着いてもやはり雪は少なく、湖景用の櫓にもエビのしっぽはついていなかった。

当時の山頂避難小屋は青いトタン屋根の二畳ほどで、吊り棚があるだけの狭い

小屋だった。向かいの厄工ヒョウテをのぞくと3人組のパーティがいた。この小屋で人を見たのはこれが最初で最後だった。そのうちの1人の女性はわれわれがテント泊と聞いて目を丸くした。よほど前夜の山頂小屋が冷え込んだらしい。下りは順調だったが、デボ地からが悲惨だった。スキーなどろくにすることがないのでコースは外れるし、板を付けたり外したりで、東尾根末端の向山ゲレンデにくだったときは暗くなっていた。また夜道を歩いて、ハチ高原のテントまで戻った。(昭和44年2月8日、11日歩)

② 冬はルートファイティングに苦勞する
 民宿は福定の笑路やさんにとお世話になった。今は息子さんが主人だが、当時は父親の与一郎さんで、おばさんは学生だからといって、宿代をまけてくれたりした。
 朝、出発のあいさつをして民宿前の福定のバス停前をくだって、八木川にかかる橋を渡って入山ののだが、厳冬期は雪が深く、ルートファイティングに苦勞させられた。



最近、秋が深まるとブナの実を拾いに山に出かけることが多い。歩きながら拾ってきたものを、乾燥しないようにポリ袋に入れて自宅に持ち帰り、すぐにプランターにまいておくと翌春に芽を出すから楽しい。庭には6年〜8年ものが高さ1m、根指位の太さに育っており、山に戻す日を楽しみにしている。

今は水ノ山国際スキー場になっているが、当時は谷の中を行くルートで、深雪で方向がわからず、標田の石垣に出くわして、乗り越えるのに難渋した。奥まった所で東尾根に取りつき、一旦切ると東尾根避難小屋に着く。一日かかってここまでというときもあった。
 積雪は多く、湿雪のうえに3〜4日程もあり、ラッセルに苦勞した。道がしつかりと踏まれていて楽に登山できたという経験は少ない。
 この日は民宿を早く出発したこともあって順調に登れた。山頂に着くとガスって何も見えなかった。槍にはエビのしっぽが大きく発達して張り付いていた。
 厄工ヒョウテの入口は雪が天井にまで吹き込んでいた。視界もなく、寒いので記念撮影をして東尾根の小屋まで早々に下山することにした。この時、初めて幻想のようなホワイトアウトらしいものを経験した。

④ 晩秋に春米から登る
 神戸を車で早朝出発し、国道29号線から戸倉峠を目指す。若桜町の手前で標識があるので右折する。春米の集落を過ぎ、「水ノ山高原の宿水太くん」という新しい公共宿泊施設などを横目に見て、わかさ水ノ山キャンプ場の駐車場に着く。ここで身仕度をして登山開始になるが、ここから少し西に登山口がある。ジグザグの急登を繰り返して、水ノ山越に着く。昔からの交通の要衝であり、石仏が行んでいる。避難小屋は以前には山頂と同タイプのものが建っていたが、斬新なものに新築されている。
 気になっていたのだが、鳥取県側の標識は水ノ越になっている。昔から水ノ山越のはずだが……あるガイドブックでも水ノ越と紹介されている。
 ここからブナ林のなかのゆるやかな山道を進むが、ブナの実は落ちていない。ここ何年か不作の年が続いている。
 右側から仙谷コースが合流する仙谷分岐を過ぎ、こしき岩を越えて山頂に着いた。
 水ノ山山頂避難小屋は登山者で満杯なので、新築されたばかりの展望台で休む。

東尾根の小屋は板間に水が張っており、ビッケルで割がして、シートを敷き、やっと思えることができた。
 (昭和50年1月17日、19日歩)

③ 最近の水ノ山のこと
 水ノ山を取りまく環境は少しずつ変化してきている。ルート面では大幹線林道が開通し、戸倉側のやまめ茶屋から、そして大久保から車で入れるようになり、標高の高い所まで容易に到達できるようになった。
 大段ヶ平に駐車場ができ、神大ヒョウテまでルートが確立して所要時間が大きく短縮された。小屋は山頂避難小屋・水ノ山越避難小屋などが新築された。大段ヶ平コースにも大屋町の小屋ができた。山頂の厄工ヒョウテは撤去され見通しがよくなった。山頂から二の丸側にくだった所に鳥取県が展望台付きのトイレを新設した。山頂にトイレというのは環境保全上も必要だと思うのだが、山頂からの眺望だとか、貴重な植物の刈り込み、あるいはヘリポート設置の問題で、鳥取県当局と兵庫県の自然保護団体が紛糾した。

⑤ コースタイム
 ③ 大段ヶ平駐車地点(1時間10分) 水ノ山
 ④ わかさ水ノ山キャンプ場(1時間40分) 水ノ山
 ▲地形図 5万 1:25,000 村岡・若桜
 ▲地図 昭文社 『水ノ山・鉢伏・神鍋』 (問い合わせ先)
 ○ 民宿 福定「笑路や」
 ☎ 07996 (67) 82255
 (1泊2食 6500円)
 ○ 若桜ゆはら温泉「ふれあいの湯」
 ☎ 08558 (82) 1177

が、風が容赦なく吹き込み、視界もなく、0度近くと寒いので早々に下山することにした。
 時間のある時には、482号線を春米から下山途中の湯原にある「ふれあいの湯」で山行の疲れを流すことにしている。無色透明、無味無臭の単純温泉(弱酸性・弱アルカリ性低温泉)で、効能は神経痛・関節痛・冷え症などによいそう、よく温まる。町外の人には大人400円、子供200円。(平成13年11月4日歩)

「関西百名山」を完歩

蘇武岳と行者還岳

田中 明

但馬・大峰

植村直己さんが少年の頃に登ったことで知られる蘇武岳の姿は、登山口のあるスキーで有名な神鍋の名色付近からは見ることができない。

昭和31年、彼が高校1年生になったばかりの春、残雪の10000坪そこそこの蘇武岳にクラスメイトと息を切らせながら競争して登り、雪をガブガブ食べて舌を荒らした記憶があると「青春を山に賭けて」の中で記している。その冒険家植村直己さんが、北米マッキンリーに登頂成功を伝えた翌日（昭和39年2月13日）に不帰の客となってから、もう19年の歳月が流れた。

この偉大なる高校の大先輩が踏んだ頂

上に立ちたいと、JR江原駅に1人降り立った。駅前広場にはあの懐かしい故郷の全但バスが私だけの乗客を待っていてくれた。

にこやかに発車させた運転手さんに「蘇武岳登山口に一番近いバス停は？」と尋ねると、「名色ですよ、おひとりですか、鈴を持っておられますか、熊が出るといけませんからね」と矢継ぎ早にやさしく心配の声をかけてくれる。名色バス停に到着すると「お気をつけて歩いてくださいね」と、ますますうれい言葉。ああやっぱり故郷の素朴な人情味あふれる出合いは最高だなと、ひとりご満悦で登山口まで快調な足どりが続いた。

林道にはイヌタデ・ハナタデ・ミノソバ・ノブキ・オトコエシ・アメリカセンダングサ・フリフネソウ・クロバナヒキオコシなどがあちこちに咲いており、舗装されている林道は勾配も相当のものだが、秋の野の花たちがたくさん見られる嬉しさで辛さを忘れさせてくれた。

やがて、車止めあたりから上は地道となって、道が細くなると傾斜もさらにきつくなった。そこに蘇武岳への道標が整備されていて不安はない。

名色バス停から1時間20分で林道からの登山道取付点である。尾根にのると雑木林の続く山道で、石コロなどなくて歩きやすい。半時間も歩けば、そんなに太くはないブナ林が目やさしく、気持ちほぐしてくる。そして登り下りを何度かすると、目の前がぱっと明るくなって、丸く開けた蘇武岳（10744m）山頂に到着である。

それにしても何と静かな山なのだろう。小広い山頂は芝生がきれいに生えており、日高・村岡町が合同で埋めた山座同定盤や木製の大きな山名板が立てられ、整備が行き届いている。

周囲にはオオバギボウシ・ウツボグサ・

ヨツバヒヨドリが実をつけており、あたりにはアキノキリンソウ・ツリガネニンジン・シオガマギク・オミナエシ・シラヤマギク・イナカキク・キンミズヒキ・ゴマナなどが一杯おめかしするかのよう

に咲き誇っている。空はどこまでも青く、47年も前に植村直己さんがここに立っただけのかと思うと、ぞくぞくするほどの喜びがわいてきた。

遠き少年の日、雪を頂く神鍋山・三川山・床尾山・妙見山を豊岡盆地から見



上げていたものだが、頂上から山座同定をひとり口にする、その山名が幼少の思い出を導き出してくれ、なぜか暑い夏の思い出でなく、雪深きふるさと豊岡を走馬灯のように思い出させてくれた。

そうあの頃、小学校へ上がった頃は、背丈を超えるほどの1層以上の積雪は当たり前で、毎日の寒さとちっちゃな名ばかりの長靴の中へ入ってくる雪の冷たさに、泣きながら学校へ向かった思い出が悲しくも懐かしい。

感慨深き思い出を胸におさめ、山頂を後にした。下り道ではクアザミ・ツルリンドウ・ヤマジノホトトギスなどの花にも話しかけるように一つ一つをゆつくりと確認した。プロペラのような実をたくさんつけたウリハダカエデも見つけた。春は一面に咲くであろう、オオイワカガミ・シヨウジョウバカマの薨が群落となっていて続いていた。

帰りのコースはピストンでなく、阿瀬溪谷をとりたかったが電車の時間がなく、やむなく往路を引き返したため、金山峠からくだる溪谷美の探索は次回のお楽しみとなった。

それにつけても、あの冒険家植村直己

さんのご冥福をお祈りするばかりである。

(平成15年9月10日歩く)

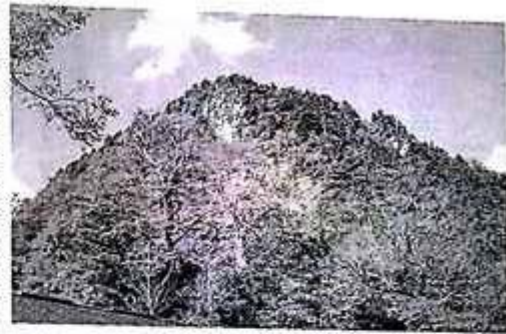
世はまさに百名山ブームであり、深田久弥氏はすばらしい「日本百名山」を生み出されたが、私にも山歩きは数字にこだわらない。みんなが登るから俺もいくという発想はいかがかな、とは常々思っている。

しかしながら、偶然山溪の「関西百名山」が目に入ってから、今まで40・50山なら、いつかはみな登れるのではないのかと気にも留めずにいたが、百番目はさすがに意識した。

自分の人生で「〇〇記念」など、ことさら気にすることもなかったが、山にはまったこの数年のなかで、完歩記念は特別な思いとなった。

予定した何回かが雨にたたられた。同じ登るのなら晴天下、山頂で自らをほめてやりたいと考えていたのだが、ついにその日がやってきた。

私の百番目はなぜか大峰山脈北部の行者還岳（1546m）となった。全国に10万カ所設置されているという三角点なるものをとくに普段から意識していなかっ



避難小屋から見上げる行者還岳

ため、この山は市15号四方の標石が埋まる3等三角点で、18号の1等の山ではなかった。
同行してくれた花遊り仲間のIさんと早くから話が出来ていた。それを聞いた個人的な山仲間の1人であるMさんから、完歩祝いだ、ぜひいっしょに祝いたいとのうれしい参加で、元気いっばいの行者還トンネル西口登山口スタートとなった。



言えはウソになるが、関百完歩で、この計画もきっぱりと心の葛藤に暮をおろした。
やはり、人生何ごとにおいても数ではないだろう、その一つ一つの中身こそがその人自身の喜びにつながるのではなからうか。
こんなことを考えながら頂上での大休止を切り上げ、三角点に別れを告げて下山にかかった。
2時間登った行者還岳も下山は1時間30分という関百の最終にしては簡単な山行であった。登る時には目に入らなかったヤクシソウ・ホソバノヤマハハコを見つければ、車のそばにはノコンギクがさきょうの完歩記念山行を祝うがごとくあ

た。

直進すれば弥山、八経ヶ岳に向かう取付口からすぐに左へ急登を始める。花後のミカエリソウ・コウヤボウキなどのほかは、ブナ・ヒメシャラ・モミ以外めばしいものはなく、ただ登るばかりの40分間だった。

急な登りが終わり、奥駈道に駆け上るとそこにはすばらしい稜線が待っていた。短いササ原のなかに踏み跡はしつかりとあり、足にやさしくゴロやガレ場など全くない、周囲や上下をキョロキョロしていても十分歩けるのだ。

花好きのIさんがトツプを引いて、あっ、ミンホウズキだ、イネトウバナだと小さな山野草を見つけて案内してくれる。さらにはヒナノウスツボ・タニソバ・アキノキリンソウ・アケボノソウと、数えるほどしかない花でさびしい稜線ではあったが、同行の友から花名を聞きながら歩くのもまた気持ちいいものである。

花時を終えた立ち枯れ状のバイケイソウ・マムシグサ・クサタチバナ・トリカブトなどもきっちりと同定しながら歩くに楽しい。
関電の鉄塔を過ぎると、行者還ノ宿に

たり一面に咲いており、ナギナタコウジュ・リンドウ・ミコシグサなどの秋花も「やっだね!」と言ってくれているように思えた。
きょうの日を迎えられたことに対し、忘れてならないのは家族の理解で、感謝の念でいっばいだが、同行していただいた多くのメンバーの方々への感謝も忘れはしない。

とりわけ、平成12年9月1日〜2日の期折から明神岳を経て池木屋山へのテント山行時、自らの不注意によるアクシデントに遭い、リテーラーや外科医の先生たちメンバー全員の皆様に多大なご迷惑をおかけしたことがあり、それへのお詫びはこのような形で許されるであろうか。
池木屋山への心のわだかまりを払拭するために、早い時期のリベンジによって納得できる登頂を済ませるつもりである。

こんなことから、私の「関西百名山完歩」は全て期調とはいかなかったが、多くの出会いによるいろいろな方たちとのコミュニケーションもあって、感謝とうれしさでいっぱいである。

真新しい避難小屋がどっしりと立っている。中を覗くときれいな板の間に毛布も用意されており、縦走する人には心強い小屋である。ただ水場は無理なようだ。休憩もどかしく、少しガレた場所を木製の階段で登り、縦走路の東の肩から登り返すとすぐに行者還岳の頂上である。

展望はないが、三角点の少し先は絶壁になっており、これが山名の由来で、役行者があまりの峻険さに登ることをあきらめ、還らざるを得なかったとのことである。

岩場には大きなナナカマドが背空をバツクに真っ赤な実をたわわにつけて、紅葉の準備にかかっている。もうひと月もすれば真紅の景色が目当たりにできるだろう。

用意した「関百完歩記念」の標識を写して、あっけない祝いのセレモニーを挙げた。これでいいのだと思っていれば、それから次の日本百名山が待っているのだからとの声もあったが、私はその筋書きにはのらない。このことはずっと前から心している。
だが、花の百名山は気にしていないと

せめて全部とはいかないまでも、これまで歩いた百の名山に、前はあんなこんなことがあったと当時を思い出しながら、今もお陰様で速者に歩けているよと、それぞれ頂上に再び挨拶に行くことができればよいなと、ひそかに思いながらも花遊りの山旅を続けているのである。
(平成15年10月4日歩く)

△参考タイム▽

蘇武岳 JR京都駅5・38(電車)江原駅9・16(バス)名色10・12(登山口)11・33(蘇武岳)12・25(13・05)名色バス停15・27(バス)江原駅15・55(16・17(電車)京都駅19・42)

△地図▽昭文社「水ノ山」

△参考タイム▽

行者還岳 JR大阪駅7・00(電車)天王寺・近鉄あべの橋駅7・34(電車)藤井寺駅7・50(8・00(車)行者還トンネル西口10・20(奥駈道分岐)11・00(避難小屋)12・00(行者還岳)12・20(13・05)行者還トンネル西口14・40(車)近鉄藤井寺駅17・30(電車)JR大阪駅18・30

△地形図▽2万5千1:10000 弥山

岩古谷山

妻鹿 ひろ子

奥三河

山間の小さな温泉宿の朝は、冷え込みがきつくてコタツから離れられない。やっと重い腰をあげて機場に下りると女将が待っていた。

「こ出発ですか。あいにく雪になってしまつて。山は大丈夫でしょうか」

「そんなに降っていますか」

「もう道は真っ白です。なかなかお部屋から出てこれないので、どうされたかと思っております」

「寒くてコタツから出られなくて」

靴を履く間に女将が玄関を大きく開ける。道はうっすらと白いが、空は思ったより明るい。

「これなら大丈夫でしょう。たいしたこ

となさそうです」

「そうですか。行かれますか……お気をつけて」

女将の声に送られて私たちは宿を出た。もう8時を回っている。予定より1時間も出発が遅れた。どこかで火が吹え立っている。雪は霰に変わって、小さな雪の玉がコロコロと肩を滑る。

村の奥に続く道を10分ほど行くと、右手に石仏が立っている。そこが岩古谷山の取付点だ。道は杉林のなかをゆるく登っていく。霰はいつのまにかやみ、凍てた土が足元でさくさくと崩れる。手入れの行き届いた美林はまっすぐに天にのび、見事な幾何学模様を描いている。こんな

て 屋 東



にも美しい杉林はめったに見えない。おもわず仰ぎ見ると、空は明るさを増していた。

30分ほどで隙子岩の基部についた。たかが789mの低山に、1泊で出かけるのはもったいないと、ためらいながら、それでも見たかった隙子岩がこれか。初めてこの岩の写真を見た日から、何年か過ぎただろう。見上げる岩壁のあちこち



に、滝のようにつららが下がっている。その下は砕け散った氷が白く地をおおい、70、80cm程のつららが一本、垂直に地面に突きささっていた。

「おお、恐い」

「あぶない、あぶない」

「2時間ドラマの、つらら殺人事件なんていうのができそう」

と、山友達とはしごきながら岩壁を捲いていく。オーバーハング気味の絶壁は道に沿い、鞍部に出るまで20分以上も続いた。私には隙子というより、屏風の連なりのように見えた。

ベンチとトイレのある鞍部(塩津峠)

から、南に進めば鞍掛山から観米寺山へ、北に行けば岩古谷山だ。鞍掛山をビストンしてからの予定だったが、宿を出るのが遅くなったのでカットし、岩古谷山に向かう。東海自然歩道になっているコースはよく整備されて、所どころにベンチやテーブル、喫煙所まで設けられている。30分程で御殿岩に着いた。「危険、登らないで下さい」と札が下がっているが、岩の上までしっかり踏み跡がついている。岩上から覗くと100m以上もすっぽりと切れ落ちて、昨夜泊まった塩津の宿が見えた。

御殿岩からは大下りになった。幅の狭い急階段で、凍った落ち葉が滑る。至れり尽せりの道は、かえって歩幅に合わずどうしてこうも歩みにくいのだろう。

麓かと思うくらいまでくだった、ようやくミヨジ峠に着いた。枯れススキの向こうに平山明神山が見える。明神山(平山明神山とは別)から見たときは、それほど思わなかったが、ここから見る平山明神山はすばらしい急角度で迫り上がり、登高意欲をそそる。一歩登れば周囲の山が二つ三つ目に留まり、登れば登るほど行ってみたい山が増えてきりがな

い。ミヨジ峠あたりから薄日が差ししてきた。「どうして私はこんなに心がけがいいのかしら。究極の晴れ女だ」と、自画自賛しているうちに、岩古谷山の崖下にとどろいている。崖の外壁に設置された非常階段のような鉄階段が山頂に向かってのびている。三段に向きを変え、岩肌を這う階段は高度感十分で馴れない者は足がすくむだろう。手すりから下を覗くと用済みになった鉄梯子が岩にぶら下がっていた。

山頂は鎖の柵に囲まれた、360度の展望を誇る岩峰だ。風もなく陽は暖かい。西を見れば、雨だれが砂地にあげた窪みのような、小さな山間の一つ一つに集落がある。集落をつなぐ道路が走り、その向こうに田口の町が見える。時の流れからはずれたようなひっそりとした村々にかえって強く悠久の時を感じる。二千万年前に隆起した海成火山の、最案の山々が地球の息吹そのものだ。雨を眺めれば鞍掛山から明神山、北東には南アルプス深南郡、そして雲との境、遥かに南アルプスが横たわる。朝は諦めていた眺望が

新ハイ関西74号

標高△△74mの山

三重嶽 (974m・野坂山地)
野伏ヶ岳 (1674m・白山系)
木ノ実ヤ塚 (1374m・台高)
向山 (1074m・湖北)

三重嶽

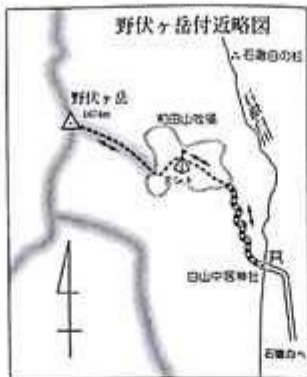
三重嶽は洗い魅力にあふれた山だった。野坂山地と呼ばれる若狭と湖北をつなぐ山塊の最高峰だ。自然林が多く残り、山頂一帯のうねるような枝ぶりのブナ林が非常に印象深かった。

山頂までの距離が最も近いルートを、岩井さんと田辺さんと私の3人で登った。東方には長い山稜を左右にのぼしている大御影山が望まれた。広葉樹の林が続いているそのスカイラインを見つめていると、何ともおらかな気分になった。三重嶽は大自然の懐に優しく抱かれる

ような、ひなびた懐かしさに満ちあふれた山だった。(平成10年4月5日歩く)
 ▲コースタイム▼
 河内谷林道河内谷を左岸へ渡る手前(3時間) 三重嶽(2時間) 往路を下山
 ▲地形図▼2万5千1熊川

野伏ヶ岳

初めて野伏ヶ岳に登ったのは1990年の4月15日だった。石徹白の民家から往復したが、途中の和田山牧場に点在する池にはまだ水が張っていて、雪も斑に残る冬景色さながらの荒涼とした光景が印象深かった。初めて入るその山域は、



和田牧場より野伏ヶ岳

ンで登って行く時の心地よさは、もうほかでは到底味わえない異次元の、表現不可能な気分だ。下りに滑る斜面には足跡を付けないようにして、尾根のできるだけ左端を登る。山頂直下の急斜面を登り切れば北方の展望が開け、全方向白い山々の大展望の山稜となり、山頂に着いた。
 (平成13年3月10日11日歩く)
 ▲コースタイム▼
 石徹白山中居神社(3時間) 和田山牧場、テント泊(4時間) 野伏ヶ岳(1時間) 和田山牧場(40分) 神社(タイムは山スキー時間)
 ▲地形図▼
 2万5千1願教寺山・二ノ峰・石徹白

木ノ実ヤ塚

副岳への途中のピークだが、樹林の佇まいがすばらしくて、晩秋に続き、今回はまだ秋の気配が少しばかりの時季に時高さんと田辺さんと私の3人で再訪した。

林道が標高1100m付近地点まで上がっているの、ほんのひと登りの山である。林道は全く静かで、清々しいドライブ気

高度からしても緯度を考えても、さして寒冷地とはいえないと思っていたのに、登山口の石徹白の春の風情とはうって変わった変化の大きさに驚嘆したものだ。それから10年以上経て、スキー登山という格段に論しい技術を身に付けてから通うようになった雪の和田山牧場は、関西圏から比較的近い所にしては最高の山岳展望地と思えることがわかった。秀麗な形の野伏ヶ岳、その左奥には小白山、石徹白川を隔てて芦倉山や丸山、大日ヶ岳の連嶺が居並び、別天地という形容がぴったりなのである。

高橋さんと明石さんと私の3人で行った2001年の一回目の山行は、白山中居神社に車を置き、3時間かけて林道をスキーで登った。泊まりの荷物を背負っているの、ゆっくりしたペースだったが、スキーなのであまり疲れない。昼前には和田山牧場に着いた。いい天気なのか、標高1100mの雪原にテントを張り、のんびりと半日を過ごした。翌日も天気恵まれ、東南尾根に取りつく。ほどよいやわらかな雪質で、ジグザグにキックターンを繰り返して登る。先行者のない雪の大斜面を、キックター

分が味わえる。尾根ののった所で注意深く左側を見て進むと、入口を示す標識がある。踏み跡はしっかりして自然林のなかに続いている。自然の香りに満ちた道程だ。(平成14年9月29日歩く)
 ▲コースタイム▼
 林道要谷嶺登山口(1時間) 木ノ実ヤ塚(40分) 往路を下山
 ▲地図▼昭文社「大台ヶ原」

向山

台風が通過したあとの日だったので、木々の葉が強風で裏返り、せわしく白く光る光景が印象的だった。

私の400山目登頂記念に選んだ山で、7人で登った。少しやぶ漕ぎ的な踏み跡をたどったが、自然のなかでちょっと遊び気分には格好の山だった。
 (平成7年9月17日歩く)
 ▲コースタイム▼

甲津原より向山谷を経て向山南尾根(3時間30分) 向山、向山南尾根・927より東尾根を下り中津又谷林道(2時間30分) 甲津原
 ▲地形図▼2万5千1近江川合

『万葉集』歌枕紀行 泊瀬と巻向の道(上)

天の森から三輪山東尾根

大和

木村 太郎

籠もよ み種持ち ふくしもよ みぶくし持ち この國に 葉摘ます兒 家聞かな 名告らさね そらみつ 大和の國はおしなべて 我こそ思れ しきなべて 我こそいませ 我こそば 告らめ 家をも名をも (巻二一)

万葉集全二十巻四千五百余首の巻頭に置かれた、第二十一代大泊瀬稚武(雄略)天皇の御製である。

よい籠と、葉を掘り採るよい籠串を持ち、岡で若菜を摘む娘さんよ、家を開きたい名を覚えておくれ。大和の國に君臨しすべてを支配しているのが私なのだ、わが宮居をもわが名前をも私こそが告げよう。

万葉集開巻を飾る、高らかな人間賛美の万葉歌の故地を訪ねてみるべく、二十日過ぎの秋の気配が近づきつつある日に、近鉄大和朝倉駅に降り立った。

雄略天皇が若菜摘みの少女に恋を告げた舞台である、泊瀬朝倉宮内の天の森(黒崎小字天の森)を目指して歩き始める。台風14号の余波をうけた小雨が降りしきるなか、雨衣を着こみ雨傘を差し、初瀬川を渡る。朝食富士の外鎌山を横に見て、常夜燈が立つ初瀬旧街道を東に進む。国道に突き当たり、白山神社の東側に見つけた小道を登る。

栗や柿が実る畑地を抜けると木標が立てられており、泊瀬朝倉宮跡を示してい

天の森宮跡への道標



る。花々のやぶ地を雨傘を閉にして進入していくと物置小屋があり、藪蒼と樹木が茂る山地に「雄略天皇泊瀬朝倉宮伝承地」の標柱がかくされていた。かなり昔の写真で見た天の森宮跡地は、木々も疎らな広々とした段丘の風景だったが、古代には若菜や季節の花が咲き乱れる原野であったのだろう。

雄略天皇については、中国の宋書倭國

伝の記録に「倭王武」と書かれている。埼玉県桶川山古墳から出土した鉄剣に、ワカタケル大王と読みとれる文字が発見されており、その実在は信じるに足りるものがある。

雄略の人となりについては、皇位継承者を次々と亡きものにしたので、雄略紀には大黒天皇と記述されている。名の知れた各地の支配者を滅ぼし、戦利品のように皇后の草香崎媛を始め、吉備程媛や葛城傾媛たちを強引にわがものにしてきた大王である。



恋物語にはほど遠い存在にみられる勇者の大王が、春の野原でスマシレやヨメナを摘んでいる少女をみそめ、恋歌を告げ求愛している情景を想像してみた。天の森まで登ってきた道の途中を振り返ると、棚田の稲穂が雨に濡れて光っている。雨の舞いしきる棚田を見ていて、ごく自然に陽光が降り注ぐ花野を思い浮かべるこ

とができた。
雨の向こう側に光が燦々ときらめく春景色を想像していたためか、天の森から白山神社までくだったとき、不思議な

ことだが雨が上がり、日が差してきた。地元が生んだ評論家保田與重郎書による「万葉集発掘論碑」と「籠もよ」の万葉歌碑が立つ神社の境内は静寂で明るかった。加賀白山より勧請した白山比咩をまつる霊社は朝日に包まれ、こもりくの泊瀬に営まれた宮の形影を浮かび上がらせていた。

こもりくの泊瀬小園に妻しあれば
石は踏めどもなおし米にけり (巻十三三三三二)

泊瀬の枕詞のこもりくは「隠口」であり、秘められた土地という意味がある。また泊瀬は瀬の果てる場所のことであり、大和盆地の「国中」とは異なる山峡地の奥深い小園であった。辺境といえなくもない泊瀬小園に住む妻のもとへの道であれば、石コロの悪路でも遠いに来るのが愛するものの真実の気持ちだったのだろうか。

泊瀬川の山峡に宮が築かれた泊瀬國は、南面は青崎の忍阪の山、北面は隠口の泊瀬の山にはさまれた立地にあった。その当時、天の森に登り立てば、西方の大和三山のかなたに、大和と他國とを隔る葛城連山が望めたという。瀬の果ての閉じ



三輪山東尾根コルの道標

根を歩き始める。三輪山への登山道というよりも、参道のような尾根道は踏み跡もはっきりしている。狭井神社から三輪山までの登山は許されているが、神城ゆえに三輪山から白山や巻向山への縦走は禁じられている。胸のうちで許しを乞いつつ、あこがれていた三輪山東尾根を巻向山への方へ急ぎ足で歩く。

雄略天皇は狩猟を好んで各地の山野を

定められた泊瀬朝倉宮の雄略天皇が、小国から飛翔し、外国へと遠征を志した気持さえわかるような思いがした。

三諸つく三輪山見ればこもりくの
泊瀬の檜原思はゆるかも

(巻七 一〇九五)

三諸つく神をまつる三輪山の麓に聖なる泊瀬の檜原があったという、三輪山賛美の歌にも泊瀬の地名があらわれている。この古歌からもうかがえるように、万葉集の泊瀬の山とは初瀬山単峰を指すものではない。巻向山や天神山など初瀬山周辺の山々の総称とみるべきであろう。雨が上がったので白山神社で雨衣を脱ぎながら、泊瀬の山々で万葉歌に詠まれた巻向山まで歩こうと考えていた。

巻向山登山口がある奥不動寺へは、黒崎の大日堂そばから短時間で行けそうだった。地形図を見ていて、以前に歩いた三輪山の道統きになる東尾根を踏んでみたくなり、遠廻りになりそうだが、臨本の朝倉小学校と春日神社の間の道をたどることにした。

黒崎バス停から脇道にそれて、「こもりくの泊瀬の山」歌碑がある朝倉小学校のグラウンドを横切らせてもらう。春日

神社横の集会所前には「夕されば小倉の山に」の歌碑が立っていた。

過ぐる年、春日神社付近で五世紀後半のものと思われる宮殿遺跡が発掘された。宮跡としては最古の発掘例であり、雄略天皇の朝倉宮跡とみられている。朝倉小学校の敷地からは石組みの排水溝もみつかっており、三輪山の南麓にひらかれた大和王朝黎明期の形が姿を現したのである。

臨本集落を後にして田園地帯を抜け山道にかかる。道標もなく入口にテープを一つ見つけただけである。ほとんど人が歩かない道のように、随所にクモの巣が張っていた。植林帯の道が沢治いの道になり、左岸から右岸に朽ち折れそうな丸太を組んだ木橋を渡る。

たんだ雨傘でクモの巣をはらい、ゆるやかな沢筋を進んで行くと、突然道がなくなってしまう。胸を超える草が地をおおいつくし、道があったという形跡すらない。植林地はそれなりの入山者があるのだろうが、三輪山中腹より上になると、神域として入山者もまれになるのだろうか。

とても前進できそうになく引き返そう

縦横無尽にかけめぐった。捕らえられて、三輪山の神の正体をつきとめようとしたという話も伝えられている。吉野山の蜻蛉の話や葛城山の猪の話など、雄略天皇の狩猟にまつわる説話が多い。泊瀬朝倉を宮居とした雄略天皇は、日夜青山の泊瀬の山々を眺めつつも、時として狩猟に出かけ、武腕を磨いていたのであろう。

三輪山東尾根をくだりきった三叉路のコルに出る。奥不動寺と黒崎を矢印で結んでいる木標が立てられていた。山中に入って初めて目にする道標であった。おそらく黒崎集落側からの奥不動寺への本道なのだろう。すぐに山道は、東谷から登ってきた市道の終点巻向山奥不動寺の石段下広場に引き着いた。

ずぶ濡れのシャツと切り裂かれたズボンの無様な姿になってしまったが、いま歩いてきた山中もふくめた泊瀬の道がなつかしかった。三輪山を横断して、その頂点を踏んできたわけではないが、苦闘してきたブッシュ地さえも美しい光景のように思ひ出された。

『日本書紀』によれば、雄略天皇の六年春2月4日、大王が泊瀬の小野に清遊した時、周囲の山々の風景を見、感動し

かとも考えたが、左方向を見上げると支尾根が同方向にのびている。退却はいつてもできると思い、とにかく支尾根のつてみるべく雨傘を杖に坂を登る。尾根はやせており樹木も疎らで、やぶ漕ぎができておなじ気がした。臨本から30分以上歩いており、あと少々がんばれば三輪山東尾根の稜線に出られると判断した。

尾根通しに進むにしたがい樹木が密集し、藪が身体にからみつき、刺が痛めつけてくる。雨後で木々の汚れは少なかつたが、雨露と汗とでずぶ濡れになってきた。無我夢中がむしやらに直進していたら、東尾根の広げる谷におりそうになり、慌てて右廻りに尾根にのりなおして前進する。

おおよそ予想した時間で三輪山東尾根に出合うことができた。しかし、気分的には実際の倍以上の時間が過ぎていくように思えた。身体が燃えるように熱く、渴き切った喉奥にペットボトルの水を流しこむ。ズボンのあちこちに切り裂きができており、脚部には擦り傷がついていることに気づいた。

長目の休息をとり、呼吸をととのえてからテープを追って、起伏の少ない東尾

て「泊瀬山の歌」を詠んでいる。

こもりくの泊瀬の山は 出で立ちの宜しき山 走り出の宜しき山の こもりくの泊瀬の山は あやにうら麗しあやにうら麗し

(古記歌謡一七七)

籠り隠れた泊瀬の山は、立ち上がったその姿の美しい山。走り出そうとするその姿の美しい山。泊瀬の山はなんと見事な山であることよ。

雄略天皇が賛美した泊瀬の山は、長い時代を経て緑をいや増し輝いていた。巻向山塊の緑のなかにいて、自分にとって忘れられない山行になったように思えた。

(次号につづく)
(平成15年9月12日歩く)

Aコースタイム

近鉄大和朝倉駅(30分)天の森(10分)白山神社(10分)春日神社横集会所(50分)三輪山東尾根出合(40分)奥不動寺(40分)白山往復林道入口(40分)巻向山(50分)東谷出合(50分)穴師大兵主神社(20分)相模神社口(奈良交通バス15分)JR・近鉄桜井駅北口
A地形図V3万5千II桜井・初瀬

釣瓶岳北西尾根登行

比良

小山 誠次

8月3日の滋賀県の降水確立は、南・北部共に午前中は10%、午後は20%だった。

本日は、先に細川から八幡谷道を登行したの続いて、もう一つ北の尾根を登ろうと計画を立てていたので、前回と同じく細川を起点とすることになった。

7時45分出町柳発朽木村行き京都バスは増便が出たので、後のバスに坐ることができた。坊村で筆者ともう1人の乗客以外は全て降りてしまい、前のバスに乗り移るように指示されたが、前のバスも全員が坊村で降りてしまっていた。

8時59分、細川に到着した。今回はここからさらに国道367号線を朽木村方

を通りかかった。

そのすぐ北側はちよっとしたガレ場で、最初は小さな谷かと思えた。そして、ちよっと谷沿いのユリ道のような形で東に向かった後、ガレ場を掘くようにして再び北に進路をとった。この後は北に踏み跡が続いているので、小さな溝を二つ程越えて進んだが、途中で踏み跡も不明瞭になってしまった。

本コースは最初から赤いテープが道案内をしてくれたが、ここで不明瞭となったので、昭文社の「比良山系」によ



面に歩く。釣瓶岳北西尾根を正面に見据えて、直線道路が左へカーブするが、筆者はそのまままっすぐに通り過ぎ、地道に入った。

そこから水路の上のコンクリート道に移り、アラ谷に架かる橋を渡ってからようやく山道に取りついた。踏み入った場所は造林会社の杉の植林地帯で、周囲の樹林は鹿による皮剥き防止対策が講じられている。

それから約15分間、アラ谷沿いの山道を進んだが、アラ谷は沢登りで有名なよう、途中4人と2人の沢登りの「ダブル」が相前後して筆者と同行し、「一言三言」交した。その後、彼等はアラ谷に沿って

る黒い点線路を想定して、ある程度そのまま北に向かった後、東に進路を変えた。すると、再び確かな踏み跡、否、山道が現れ、北に向かっている。また、赤いテープもしっかりと目印になっていた。この地点は標高4600m程であった。今回のコースは、地図上の黒い点線路にもかかわらず、一部は不明瞭な道があり、目印もはっきりしないが、それ以外はしっかりしているのだからやすい。

出現した山道をたどってさらに北に進んだが、印象としては地図上の黒い点線路よりもいっそう北に進んだようである。といっても、アラ谷・ツルベ谷とハタケ谷に挟まれた釣瓶岳北西尾根道は、ハタケ谷のユリ道と表現しうるほどにハタケ谷に接近することはない。基本的には幅広い尾根上の道なのである。

確かな踏み跡はある程度まで北に向かった後、突然90度東に方向を変え、釣瓶岳に進路を向けた。この道は、最初は造林会社の杉の植林地帯の中を通るが、以後は植林と自然林の境界を通ったり、自然林のなかを通ったりしながらも、常に造林会社の石柱を目にするようになる。しばらく登行したとき、ふと目をやる

熊の爪跡と思われる傷 (写真1)



上流へと通行して行ったが、筆者はアラ谷を離れて本格的な登路に従った。ここまでの約1000mの高度を稼いだことになる。

このあたりでアラ谷通行は東に向かうが、登山コースはこれと直角に北へ向かっている。初めての急坂を登り切った後、小さなピークに達して、杉の植林が折れたり倒れたりしてかなり荒れている箇所と、コース横の樹木に熊の爪跡と思われる傷をみつけた(写真1)。そして、コースはその10分後から急登となり、高度を稼いでいる感が強くなった。

造林会社の杉は今回のコースの最初の場所と同様、鹿の皮剥き防止対策がよく施されている。また、杉の植林のなかでミズナラの太木とよく出会うのも本コースの特徴のように思えた。さらには、地面を這うヒカゲノカズラがよく繁茂している姿も絶えず見かけた。

このあたりまで来れば、後方を振り返ると白倉岳連峰が木々の間から望みできるようになる。ここでようやく標高6500mである。

登行はさらに順調に進んでゆくが、おもしろい現象に気づいた。それは、赤いテープの設置者には道案内上、感謝すべきであるが、必ずしも同一者がマークしているとは限らない。当然といえば、どの山道でも同様であるが、本コースは尾根筋をたどるようになる上、通りのマーカーが出現し、それぞれが一定の距離を保って略平行に続いている点である。テープの汚れ具合からどちらが古いかわかるとは、新しいマーカー



鮮やかな紫色を呈するキノコ (写真2)

グは、設置者がより有用と考えたのでマークしたものであろう。逆にいえば、それだけ広い尾根筋だともいえる。
白倉岳がよく望見できるように、約40分後、標高8100で最初のピークに達した。昭文社の登山地図上のちょうど、滋賀県の「遊」字に相当する位置と思われる。このあたりでは、踏み跡は不明瞭であるが、大まかに尾根筋さえ把握していれば問題ないと考えて、南東→東南東方向に登路を求めた。
ちよっと休憩のため肩の荷物を降ろし、

地面に腰を下ろした場所で、全身紫色のホウキタケ科の一種と思われるキノコを偶然足元に見つけ、カメラに収めた(写真2)。なかなか鮮やかな紫色である。ムラサキホウキタケか。腰を下ろさなかつたら、とても気づかない。

さて、出発から3時間後の正午、地図上の8860でピークと思われる地点に達した。筆者の高度計も8880を指している。これで、まず間違いないものと考えた。これからもいくつかのピークを経て、前方の山の端に空の光を見るようになってしばらくしてから、いよいよ頂上近くで、クマザサの繁茂するやぶに突入することになった。一箇所程赤いテープのマーキングを確認したが、その場所が特に通過しやすいわけでもなかった。また、その後はマーキングもないまま方向を定め、「縦走路は近い」と、確信しながらも、「これぞやぶなるやー」と、いい加減かき分ける両手がだるくなった頃、突然縦走路に飛び出した。標高10500程の地点で、右に行けばすぐ釣瓶岳の頂上のはずである。
飛び出た所をカメラに収めたが、逆のコースで下山しようとするとき、目標が

見当たらないことに気がついた、一見何の変哲もないやぶのなかに突き進むのは勇気がいることだろう。

本日の第一目的は達したが、交感神経がまだ興奮していて空腹を覚えないので、これからは少しのんびりと歩くことにした。釣瓶岳には登らず、反対に北稜を北向きに進路をとり、少し日陰の得られた場所ですと遅まきながらの昼食を楽しんだ。縦走路に飛び出てから高度10000位位だった地点である。

この時期は、筆者の目が悪いのである。北稜を彩る花や実をあまり見かけなかった。せいぜいリョウブの花とヤブデマリの実ぐらいであった。

イクワタ峠に到着した。峠の案内柱には、桐生と笹峠との分岐点がイクワタ峠と表示されているが、昭文社の登山地図では、9230の分岐点とイクワタ峠の文字との間隔が開きすぎ、分岐点とは別にイクワタ峠が存在するかのように見えるが、いかがであろうか。

本日は直接尾根道を橋生に向かうのではなく、まず笹峠に向かい、それからコマカイ道をたどることにした。というのは、梅雨も明けて本格的な夏となり、予

定よりも少し難渋したため、持参した飲料水が不足し、尾根道では補給できないので、山腹を捲く道で水を補給しようと考えたからである。期待通り、約1時が補給できたのは幸いであった。

コマカイ道の途中で、眼下約30分に、一見裸体の男子かと見紛う姿態を瞬間だけ瞥見した。恐らく事実、鹿の後ろ姿を見たのであろう。その後は深い樹林のどこかへ走り去ったらしく、物音さえも聞こえなかった。

コマカイ道は、以前はその名称通りの意欲深い山道であったはずだが、現在はほとんど荒れるにまかされているようである。道を塞ぐ倒木はそのまま、支谷の源頭を横切る箇所と狭い山腹道が崩壊しつつある。途中、茶店の建物跡かと思われる箇所も確認できた。

朽木山行会により開拓された新しいコマカイ道との合出地点以後はとも歩きやすい道で、先程の山腹の巻き道とは雲泥の差である。その反面、歩きやすさが昂じると、つくられた自然への警鐘をも生むのではなからうか。なかなか難しい問題である。
本日は沢登りの二グループに出会って

イモック山行くらぶ
1月11日(日)
兵庫名山シリーズ
行者岳 (786m)
南位馬の曹山に登ります。
詳細はお問い合わせ下さい。

イモックを
楽しんで下さい

IMOCK.
KOBÉ

〒653-0028 神戸市東灘区日立町1丁目1番3号
カフゾビル2F
TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528
営業時間/10:00-22:00 日曜日休業

オリジナルザック & 登山用品専門店
◆里山ザック◆
神戸ザック
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

新製品紹介
味わい深い、
綿帆布の小型ザック

蓄積がしい綿帆布と本革を使い
内外のポケットに工夫をこらした
小型のザック。
登山歩き、街歩きに
ご費用下さい。

☆うさぎ18☆
カラー
サンドベージュ×キャメル
重量 780g
素材 綿帆布、牛本革
価格 ¥15,000

☆たんぽぽ18☆
カラー
サンドベージュ×キャメル
重量 850g
素材 綿帆布、牛本革
価格 ¥15,000

以後は登山者と出会うことはなく、下山後に里人を見かけるまでは全く人の姿を目にしなかった。その意味では、単独行を満喫できたといえる。
15時52分、朽木橋生バス停に到着した。16時21分発の安曇川駅行きの江若バスに乗り、17時14分発の新快速で京都に戻った。
本コース及び前回の八幡谷道(73号)は、朽木山行会がコマカイ新道を開拓したとの話を聞くにつけ、難路ではあるものの、これらのルートをつかっただけで日帰りで釣瓶岳に登下りする場合の実例を提示することにもなるだろう。
(平成15年8月3日歩く)

- △コースタイム▽
- 細川バス停(8分) 山道(16分) アラ谷沢登り道分岐(45分) 4600地点(13分) 熊の爪跡(10分) 急坂(24分) 白倉岳望見(36分) 8100ピーク(22分) 8860ピーク(45分) 縦走路合出(12分) 昼食地(7分) イクワタ峠(24分) 笹峠(59分) 新道合出(13分) ヒジキ滝道分岐(24分) 朽木橋生バス停
- △地図▽昭文社「比良山系」

飯縄山と戸隠森林植物園

信濃

鷺見守康

冬の例会山行にスノーシューを取り入れたのは、平成14年2月の白馬岩岳が最初であった。

スノーシューは「西洋かんじき」という別名をもっているように、北米で雪上歩行の道具として発達したという。かんじきと比べて雪上での威力は総合的に優れ、肝心の沈み具合にしても、かんじきの場合膝まで沈むとすれば、スノーシューの場合にはくるぶしあたりですむなど、その差は歴然としている。

けれど、新しい道具なので価格も割高であり、ハイカーの中の普及率はかんじきとちがって格段に低い。新ハイ会員の中でも所持している人は珍しいのでは

ないだろうか。

そんななかでのスノーシューイング（スノーシューで雪上を歩くこと）は、まず何より多人数分のスノーシューレンタルが可能なのを探すことから始まった。

長野県戸隠村には、オーナーが山岳ガイドでもあるペンションがいくつもあり、スノーシューのレンタルも比較的よく揃っている。森林植物園の入口の店には「スノーシューのレンタルあります」という看板も掲示されているくらいで、冬の季節の「遊び」としては、アルペンスキー（グレンデスキー）・クロスカントリースキーなどの各種スキーに続き、広く認知されているといってもいいのかもしれない



瑪瑙山よりの登り

恒例の夜行発で戸隠村には未明に到着。宿泊予約したペンションに早朝からチェックイン。暖房のきいた部屋で休息し、朝食をとった。飯縄山には、瑪瑙山手前のピークまでスキーリフトを利用するので、リフトの始発時間までゆっくりした。

山岳ガイドのオーナーから飯縄山の情報をもらう。「山頂直下の急斜面ではアイゼンが要るかもしれない、全体的には降雪直後なのでトレースがあるか心配だが、昨日歩いたパーティがあるとの情報もある」とのこと。そして、「スキー場のパトロール隊に一応届けたほうがいい」との助言をもらった。「スキー場のパトロール隊？」と私は心の中でいぶかり「雪が多いからとかで、逆に禁止されるようなことはないですか」と尋ねると、冬期でも飯縄山は登山禁止措置がとられることはないと言う。「雪の状態がどんな風であろうと、登山可能かどうか、それは登山者自信が決めることですから」ときっぱり。

8時にペンションを立ち、9時に戸隠スキー場に到着した。オーナーの助言にしたがい、とりあえずパトロール隊の小屋を訪ね、「登山届」などと聞いて、相手

フィールドとしては、やはり森林植物園がもっともポピュラーのようだが、深田クラブ二百名山、標高1917mの飯縄山もよく登られている。

今回、夜行で到着した日に飯縄山に登り、翌日の半日は森林植物園を歩くこととした。

はキョトンとするばかりか、「スキー場には立ち入らないように」などと注意されるのがオチではないか、と案じていたが、用件を伝えると、とてもいいねいな応対であった。ただ、たまたま届出の用紙が切れており、そのことをしきりに恐縮しておられたのが印象的だった。

リフト終点からスキーゲレンデを歩き、9時20分瑪瑙山に到着。晴れていれば、すばらしい山岳展望なのだろうが、ガスが巻いて飯縄山の山頂も見えない。飯縄山へは、いったん鞍部に100m程度くだり、東南にのびる尾根を登って行く。ダケカンパのきれいな尾根はけっこうな急登で、積雪量も多くトレースはない。「登れるかな……」不安が頭をかすめた。

一般的に、スノーシューはかんじきより登りに弱いといわれている。けれど、私はそうは思わなかった。この年の4月初旬、例会山行で奥美濃の野伏ヶ岳に登った時、ダイレクト尾根の上部でアイゼンに履き換えるつもりだったが、結局スノーシューのまま登高できた。山岳用のものでなく、ハイキング用のスノーシューでもそこそこはいける。むしろ、

飯縄山頂



禁断のアフガーニスターン・パミール紀行

一ワハーン回廊の山・湖・人

平位 剛 著

【新刊】

A5判上製美装 四八八頁 三三〇〇円 カラー32頁 写真・地図多数
アフガン北東部に盲腸のようにつきてたワハーン回廊。秘境と名のつく唯一残された山域に、近年、三度に亘って潜入した世界的に類のない貴重な探検記録。

★表示の価格は消費税を含みません
ナカニシヤ出版
http://www.nakanishiya.co.jp/
京都市左京区吉田二本松町2
☎075-751-1211 〒606-8316

スノーシューは平坦地では面白くない。この年の翌2月には、厳冬の上高地を歩いたのだが、なだらかな上高地は、ダイナミックさに欠け、逆に疲れが大きかった。上高地のような所は「歩くスキー」の領域と考えるべきなのだろう。

飯間山への登りは、尾根もやせてくる。パウダースノーの急斜面は、スノーシューを蹴り込んでも雪が崩れて容易に足場ができない。スノーシューも深く滑ってしまい、ラッセルに苦悶する。途中から男性陣が先頭を交代し、ラッセルしながら前進する。まさしく本格的な雪山の登高である。見晴らしはないものの、天候がおだやかなことが救いだ。

私たちの後から、数人の山スキーのパーティが追いついてきた。雪上では、登り

であってもスノーシューよりスキーのほうが速い。興味をもった私たちメンバーの問いかけに、快活な返事が返ってくる。シルルをつけての登りはともかく、このやせ尾根を滑走するのはちょっと難しいのではないかと。そんな私の疑問にも「スキーで登るだけですから」と笑った。頂上部が近くなると岩場も出てきた。雪が多いので、スノーシューのままクリアする。

11時過ぎ山頂に着いた。スノーシューを履いて全員が無事登頂できた。ひとまず、ヤレヤレである。「飯間山」の標識が広い雪原に突き差されたように立っている。標識のほかには何もなし。全てを雪に隠した山頂である。この山頂で昼食の予定であったが、寒風に身体が芯から

冷えるため、各自で記念写真を撮り、20分ほどの滞頂で出発した。

山の斜面の下降は、最もスノーシューの醍醐味が味わえる。トレースの全くないうまっさらな雪面に、コースを選ばず、自在にテールから踏み込み、そのまま体重を乗せる。雪の上に乗って行くのだ。その時の浮遊感は独特なものである。

この浮遊感をまだ身体でつかめないメンバーは、おっかなびっくりでくっついていて、慣れてしまえば、急斜面でも平気でこなせるようになる。

しばらく進むと、下からスノーボーダーが1人登ってきた。私たちの姿を認めるのと礼儀正しくあいさつの言葉をかけてきた。どこを滑走するつもりなのかと尋ね

ると、谷沿いをスキーゲレンデまで滑るのだと言う。「立木があって大変でしょう」と言うので、「ゆっくり行きますから」と笑った。

馬場山との鞍部で風を避け、ランチタイム。50分程の休憩の後再出発した。下りのリフトは搭乘できないので、スキーゲレンデを歩くことになる。となれば、最短で、かつ、アップダウンの少ないコースを選択したい。そこで、ダメでもともととばかり、リフト係員のおじさんたちに聞いてみた。すると、意外と「私は申し訳ないが、実に親切な対応であった。先ほど指示した方向のガスが切れたからと、動き出そうとしていた私たちを呼び止め、忙しいなかわざわざ改めて説明してくれたのだ。」

しばらく、わりと平坦なコースを歩き、やがてよく圧雪された斜面の下りになった。と、突然、ヘルメットにゼッケンをつけた少年スキーヤーが滑走のまま大接近してきた。後ろのメンバーから注意されるまで気がつかなかったのだが、うかつにも、私たちは回転競技練習中のゲレンデに入り込んでいたのだ。登り返して回避するのも大変なので、下り気味にゲ

レンデ横の林に逃げ込むこととしたが、何せ21名の集団である、とてもすんなりとはいかない。

いつ非難の罵声^{のち}を浴びるか、私は気が気でなかったが、そんな雰囲気はまったくない。ウロウロしている私たちの姿は、ゲレンデの下方の係員やスキーヤーたちの視界に間違いなく入っているはずなのだが、黙って見ているだけだ。それほどばかりか、スキーヤーを待機させているような感じさえあった。

逃げ込んだ林は、日本海型ブナ林であった。大木は少ないものの風格のあるブナ林で、大木にはツキノワグマの爪跡が鮮明にあった。ブナ林を放棄し、ゲレンデの下部に出てから、私たちはスキーヤーを眺めながらティータムにした。

戸隠スキー場は、大変快い雰囲気だった。パトロール隊にしろ、リフト係員にしろ、決して客とは言い難い登山者であるのに、応対はとても親切だった。そして、一般スキーヤーにしても登山者慣れしているというのか、いかにも自然な態度であった。それらは全てたまたまのことだったのかもしれないが、これほど登山者に好意的なスキー場は初めてであっ

た。

スキー客で混雑する駐車場を離れたとき、時刻は15時を回っていた。

翌日はすっきりと晴れ渡った。ベンションオナーの助言で、目的の森林植物園に行く前に、戸隠神社の参道北側に広がる森を歩くことにした。参道から見ると森林植物園の反対側になる。戸隠連峰の展望がいい、と言うのだ。

戸隠神社奥社の駐車場からスノーシューを装備。平坦なフィールドだから気持ちも楽なもので、いわばルンルン気分である。

深い雪が全てを包み込み、葉を落とし、樹木が立ち並ぶ世界を自由自在に進む。積雪期でなければ踏み込めない森の中心部にもいとも簡単に入り込む。雪がキラキラとまばゆいばかりに輝いている。雪国の雪は、驚くほど表情が豊かで美しい。やがて、木立ちがまばらになり、見上げると戸隠連峰がくっきりと姿を現した。何という美しさだろう。何という神々しさだろう。神々の座にふさわしい崇高さだ。秀麗で、凛として、限りなく気高い。言葉を尽くしても言い表せないほど

ヴィラ風花 2004年の御案内

夜行での登山、ハイキングは慣れるものです。山に登る前に温泉に入って充分に温めをとって下さい。東京駅から2時間20分で密に暮らしますので準備が済んでから出発。お車でおいでの方は深夜チェックインOK！
 当館前より随時特設のバスが出ます。(朝5:00から 特設20分)
集合 JR尾瀬(朝) 上越新幹線 上毛高原駅 21:40分頃
 (東京発 20:30分頃 谷川号オール自由車)
 お帰りは16:00発 新館直行高速バスを御利用下さい。(¥3,700)
催行日 週末の金・土曜日 11月1日迄 1名様から(1名は相部屋です)
 5/28~6/19日 7/9日~8/21日 9/17~11/1日
宿泊料金 素泊り 4,000円 朝食付 5,000円 弁当 600円 入湯税 別
 (朝食弁当可 足湯の方は尾瀬ヶ原から尾瀬沼⇒大清水迄 日帰り可)

平日・特選 谷川岳の信濃トレッキングと尾瀬ヶ原1周又は至仏山へ
 憧れの山日本三大岩壁を見ます。

JRで集合(送迎無料)
初日 上毛高原駅 11:15分 → 谷川岳集合 → 一の倉沢散策 → 吹割の滝 → 戸倉 風花泊り
2日目 至仏山又は尾瀬ヶ原へ各自で(ガイド料 相談可)
尾瀬ヶ原から 三条の滝を見て新館方面へ戻られます。→ 尾瀬沼を見て会津松枝峠方面へ出られます。
催行日 月・火・水曜日の5/31~6/16日 7/12~8/18日 9/13~10/28日 (2名様以上でお申し込み下さい)
費用 ¥11,500 (1泊2食と特設バス代一の倉沢ガイド料含む)

歴史をたどる峠越の旅
 旧街道に秘められた歴史のドラマをたずねる山旅です。
 上州と会津を結ぶ旧街道に戊辰戦争のロマンをたどりませう。
 沼田 → 戸倉 → 大清水 → 尾瀬沼 → 沼山峠 → 松枝峠 → 解散
催行日 6/7~8日 7/19~20日 8/3~4日 (集合は平日コースと同じです。)
費用 ¥13,500 (1泊2食とお弁当、ガイド料込)

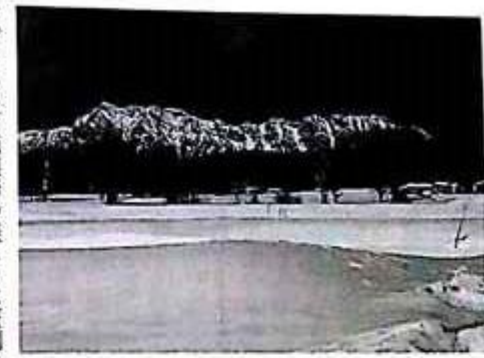
群馬の日本百名山をのんびりと登りましょう
 毎日温泉に入れて浴衣でくつろぐ登山です。
 至仏山 (20分) 日光白根山 (35分) 武尊山 (30分) 皇海山 (60分) 谷川岳 (60分) 赤城山 (60分) ()内は風花から登山口迄の時間です。
 ◆ 同宿ですので軽いザックで出発 ◆ 荷物は宅急便で送り、行き帰りは軽装で
 ◆ 毎夕食に登った山の地酒サービス ◆ この頃天候が安定している時期です
催行日 8/17~22日 9/1~6日 **費用** ¥77,000 (5泊15食・送迎費・ガイド料・ロープウェイ代)
集合 第1日の10:30分頃 上越新幹線高崎駅 集合のち赤城山に登ります。

2004ゴールデンウィーク春山スキー
 至仏山大岩壁及び尾瀬ヶ原一帯のスキーコース
期間 第1日 4月29日~5月1日 第2日 5月2日~5月4日
費用 20,000円
 (1泊2食4食 昼食1回・登山バス代・ガイド料)
対象者 至仏山スキーコースは山スキーの経験者またはスキー技術3級以上の方(スキー場で1日の練習の経験者をお断りする事もあります。尾瀬ヶ原XCスキーコースは初心者歓迎です。初心者歓迎です。)
 ◎この時期、至仏山は降雪ですがとても厚く積ります。登山のみの方も参加可。5/10~7/10の期間は入山禁止です。大清水温泉の本館が営業です。

山旅案内

登山志
 北海道生れ尾瀬に入ってから40年
 春山スキーでは至仏山を1日3回、1週間で20回登りました。

ヴィラ風花 KAZA HANA
 〒370-0411 群馬県利根郡内田町戸倉445
 TEL: 0278-58-7051 FAX: 0278-98-7677
 予約専用 0278-58-7876
☆施設の御案内 天然温泉で山の疲れを
 収容 38名
 洋室 6 (バスタイル付3)
 和室 3
 広間 18帖
 ホール 30坪



バードラインから戸隠連峰を望む

だ。そんな戸隠連峰の美しさに圧倒されて大休止。思い思いのカメラタイムとなる。
 大休止の後は随神門に向けて歩く。随神門は雪の中に沈み、その姿を半分ほど見せているだけだった。そこから奥社へは本格的なラッセルが必要なようだ。時間も乏しいので奥社はあきらめ、森林植物園に入った。
 ミズナラとウラジロモミの大きさが目事だった。貴、戸隠村には広大なウラジロ

この女将さんのおしゃべり解説はすごい。もちろん大半が自店のPRで、その嫌みのなさは確然とするばかりだが、とにかく嫌味がない。私たちが登山者だと知れば、話は戸隠の村や山や自然へと広がり、女将さんの熱い想いに触れて、私たちは話にぐいぐいと引き込まれてしまふのだ。
 そんな女将さんのすずめもあり、掃路、バードラインの戸隠連峰展望地でバスを

モミ林が存在したという。ウラジロモミは建築材として有用だったため、その多くが伐採されてしまったらしい。春から秋には、色とりどりの花が咲き、40種類以上の野鳥が集うという森も、今はひっそりと静まり返っていた。
 10時にはスノーシューイングを切り上げ、戸隠スキー場中社ゲレンデ駐車場内にある「神告げ温泉」に立ち寄り、浴食とした。内湯のみで浴場も小さいが、戸隠の森と戸隠連峰を眺めながら入浴し、戸隠そばを味わった。自家製のそば粉をつかった本格手打ちでなかなかの味であるが、この温泉の名物は、湯よりもそばよりも、むしろ女将さん(?)というべきだろう。

停めた。北アルプスにも劣らないアルペシ的な風貌の戸隠連峰を背に、雪に包まれた山里の風景がどこまでも広がっていた。まさに絶景であった。
 戸隠村あつての戸隠村。そんな強烈な印象がいつまでも脳裏に残った。
 (平成15年1月11日、13日歩)
参考タイム
 <11日 晴れ> JR岐阜駅 23:00 (貸切バス)
 <12日 くもり時々晴れ> (バス) 戸隠村ペンション 6:00 (朝食) 8:00 (バス) 戸隠スキー場駐車場 9:00 (リフト) 馬場山 9:20 飯縄山 11:05 30 鞍部 11:40 (昼食) 12:30 馬場山 13:15 14:40 (昼食) 15:00 (バス) 戸隠神社スキー場駐車場 15:00 (バス) 戸隠神社社参拝 (バス) ペンション 16:00 (泊)
 <13日 晴れ> ペンション 7:40 (バス) 戸隠森林植物園駐車場 8:00 森林植物園散策 10:00 (バス) 戸隠神告げの湯 10:20 (入浴・昼食) 12:00 (バス) 岐阜駅 17:30 (解散)
 <地図>昭文社「妙高・戸隠」

高野参詣道を歩く(第三回)

⑤ 不動坂口

長坂文男

この参詣道の歴史は古く、すでに平安末期、神野々(奥本市)で紀ノ川を渡り、学文路から不動坂を登る道が開かれていた。中世末の天正十三年(1585)には、応其上人によって橋本の町が開かれ、それを機に橋本で紀ノ川を渡り、清水から学文路へ至る新しい道が出来た。町石道と比べて距離が短いということもあり、近世(江戸時代)に入ると、町石道にかわって表参道となった。

江戸初期の貞享五年(1688)3月に、俳聖松尾芭蕉が「笈の小文」の旅の途次、この道から高野山へ登っている。翌年の元禄二年(1689)2月には、儒学者の貝原益軒が高野山からこの道を通ったことが、彼の紀行文「日記紀行」

から知れる。

江戸後期の『紀伊国名所図会 第三編 天保九年(1838)』に、「不動坂口(また京口といふ。心院谷にあり。小田原谷にて大門口より入るものとあふ。神谷辻まで五十町)この道登山正北の入口にして、京大坂より紀伊見峠を越えて来るものと、大和路より待乳峠を越えて来るものと、清水村二軒茶屋にて合ひ、学文路を経てこの道より登詣するもの、十に八、九なり」とあり、参詣者の大半がこの道を利用したことがわかる。

このことは参詣者の道中安全を願って六休の地蔵尊(六地藏)が、この街道沿い(清水、南馬場、学文路、野野、河根峠、作水、板茶屋)に祀られるようになった



江戸期の道標と高野街道(学文路)

ことからもうかがい知ることが出来る。不動坂口は、三軒茶屋(現橋本市賢堂)が起点であるが、ハイキングの場合は、登りが始まる学文路が出发点となる。また現在女人堂まで舗装されているが、車の数はいたって少ない。

コースガイド

南海難波駅から高野山橋本橋行きの急

となり、念仏修行にあげられたという悲話である。

標識の少し先に三叉路があり、道標にしたがって左の旧道を1000m程登ると、左に学文路刈萱堂がある。現在正式には西光寺と呼ばれ、堂内に江戸中期につくられた刈萱道心・千里の前・石置丸・玉屋の主人の木造坐像が安置されている。

刈萱堂を後に、奥谷川に沿ったゆるやかな坂道を登り、幡天神の集落手前の三叉路は直進する。集落を過ぎるとミカン、柿畑が広がり視界が開ける。新旧道分岐の三叉路は左の旧道を進むが、道標は新道方向を指しており、間違えないように注意。

六地藏の第三の地藏尊を祀った立派な

玉屋は、「石置丸物語」にも登場する数百年続いた老舗の宿屋であったが、参詣客の減少で大正9年に廃業する。また「石置丸物語」は高野聖の一派、萱堂聖(高野山上の刈萱堂を本地地とする)が、大師信仰を広めるために創作した物語で、加藤左衛門繁氏(出家して刈萱道心と呼ばれた)と妻千里の前、その子石置丸が主人公の物語である。

出家した父を捜して学文路の玉屋にたどり着いたが、高野山は女人禁制、石置丸は母を宿に残し一人山に登る。父と出会うが父は仏に仕える身ゆえに名乗らず、「父は亡くなった」と偽る。失意のうち下山すると母は急病で亡くなっていた。石置丸は再び山に登り、刈萱道心の弟子

行に乘車、約1時間10分で学文路駅に着く。駅前の国道370号線を右へ進むと、「刈萱堂近道」の道標を見るが、そのまま国道を直進する。2〜3分歩くと、三軒茶屋からの旧高野街道が国道を横切る十字路がある。

国道の左に江戸中期、宝暦八年(1758)に建てられた石道標(橋本市指定文化財)があり、「左ハ高野みち女人堂迄三里、右ハ慈尊院みち是より一里」と刻まれている。

十字路を右(南)へ進み、南海高野線の踏切を渡って坂道を登ってゆく。5分程進むと、右手の民家のコンクリート塀の中に「石置丸物語・玉屋宿跡」の標識がある。





不動坂口女人堂

程歩いた神谷の入口に、江戸期に建てられた四基の石道標がかたまって立っている。
 一番奥の長方形の道標は、江戸後期の安政五年(1858)に建てられたもので、「右京大坂道、左じそん院弘法大師御母公御廟所、植尾大坂こえ粉河寺しん四国、紀州加田こえ金びら近みち」と行き先が詳しい。

神谷は江戸時代、神谷辻と呼ばれていた宿場で、明治34年の紀和鉄道(現JR和歌山線)の開通により、ほとんどの参詣者が神谷を通るようになり最盛期を迎えた。「日が昇ると銭が湧く」とまでいわれた繁栄ぶりであったが、南海高野線が昭和4年極楽橋まで開通すると衰退していった。
 集落入口で推出からの道が合流し、右に旧臨本陣(花の屋)の古色蒼然とした建物が残っている。また大正13年の昭和天皇の御成婚記念に建てられた立派な石道標(高さ約2.0m)を始め、大正時代に建てられた石道標が多く残り、往時の繁栄ぶりが偲ばれる。しかし来るたびに廃屋や空地が多くなり、一抹の寂しさを感じる。
 神谷集落のはずれの十字路を直進する地道が旧道であるが、途中やぶのため通行不能、右の新道を極楽橋へくだる。現在の極楽橋は昭和59年に完成したもので、鮮やかな朱塗りの橋である。
 橋を渡ると右に大正9年に建てられた石道標があり、「是ヨリ不動坂、女人堂マデ二十四丁」と刻まれており、ここから不動坂が始まる。高野山ケーブルの下

をくぐり、尾根の東側斜面を推して40分程登ると、不動明王を祀る「清めの不動」がある。
 「外不動」とも呼ばれ、不動坂の呼称はこの不動に由来する。不動堂の前にあった堂守が住んでいた建物は取り壊され、現在空地になっている。
 清めの不動から15分程坂道を登ると、不動坂口女人堂に着く。「紀伊国名所図会」に「諸国より参詣の女人投宿する所なり。七口各堂ありといへども、この堂最も大なり」とある。明治5年に女人禁制が解かれるまで、高野七口すべてに女人堂があったが、現在残っているのはここだけである。女人堂横のバス停から、高野山ケーブルの高野山駅までバスで5分程である。
 (平成13年5月4日・平成15年4月22日歩く)
 ▲コースタイム▼
 南海学文路駅(15分)学文路刈萱堂(45分)観水(25分)河根(50分)桜茶屋(40分)神谷(30分)極楽橋(40分)清めの不動(15分)女人堂
 △地形図▽2万5千1:1 橋本・高野山

地藏堂のある繁野の集落の先で広域農道を横切り、観水の集落までゆるやかな登りが続く。観水から河根峠にかけて地道が多いが、分岐は左をとり細い道をゆるやかにくだってゆくと、六地藏の第四の地藏尊を祀った南向きの地藏堂の所に
 出る。
 左に折れて、竹藪のなかの急坂(河根坂)をくだると、左に河根の氏神、河根丹生神社が見えてくる。この神社の室町中期、応永二六年(1419)の刻銘のある素朴な石造狛犬(皇指定文化財)は、現在和歌山県立博物館に保管されている。

河根は高野街道の古い宿場で、昔は旅館・茶店が軒を連ね、大いに繁栄していたが、明治34年の紀和鉄道(現JR和歌山線)の開通により、ほとんどの参詣者は高野口駅から九度山、推出を経て、神谷で不動坂口に合流する長坂道(新高野街道)を歩くようになり、河根の宿場は急速にさびれていった。
 街道沿いに残る、旧本陣中屋の本瓦葺きの重厚な表門は、往時の繁栄を偲ばせてくれる。集落の南端、丹生川に架かる千石橋は高野街道唯一の名橋といわれた。

現在の橋は昭和九年に完成したコンクリート橋であるが、朱塗りの欄干は往時の面影を留めている。また橋の北詰に江戸末期、安政四年(1857)に建てられた大きな石道標があり、「是ヨリ女人堂江二里」と刻まれている。
 橋を渡り右へ進むと、神谷の手前まで(作水坂)と呼ばれる登りが続く。春には道端にシヤガの薄紫色の花を見ながら、15分程急登すると作水の集落がある。
 左に六地藏の第五の地藏尊を祀った地藏堂があり、作水を通ると西側が開け、町石道の通る雨引山から小都知峰、そして和泉山脈が一望できる。
 作水の先、尾細や桜茶屋の集落はいずれも数軒の民家が点在する小集落で、桜茶屋の集落のはずれ左には六地藏の最後(第六)の地藏尊を祀った小祠がある。参詣者が多かった明治時代まで、作水・尾細・桜茶屋の集落では茶店を営んでいた家も多かったというが、現在はひっそりと静まり返っている。
 桜茶屋を過ぎるとしばらく人家が途絶え、植林地のなかを20分程歩くと左に林道が分岐するが、この付近道路の拡幅工事ですっかり様変わりしている。林道分

岐から1000分程進むと、左に「日本最後の(高野の仇討ち)」と書かれた説明板がある。ここが日本最後の仇討ちがあった通称黒石と呼ばれる所で、説明板に地名の由来となった小さな黒い岩がある。
 仇討ちの経緯は概略次の通り。江戸末期の文久九年(1862)12月9日の夜、播州赤穂藩の家老森主税と若年寄村上真輔が、自称勤皇派の西川邦治等13人に暗殺された。明治4年(1871)、西川等7名が藩の菩提寺、高野山釈迦門院の守り役に任じられたのを知った村上の遺児等7名は、同年2月30日(新暦4月19日(當時はまだ旧暦が使われていた))ここ黒石で待ち伏せし、首尾よく仇討ちを果たす。この仇討ちがきっかけで、明治6年、明治政府により「仇討ち禁止令」が出された。
 213分歩くと道の左の小ピークに送電鉄塔がある。東から南方向が開け、高野山を囲む山々、雲池山から高野山駅西の932分ピークが一望できる。
 鉄塔横から5分程歩いた567分ピークの山裾には、仇討ちで討たれた7名の墓所があり、手を合わせる。さらに5分

高野参詣道を歩く

⑥ 長坂道 (新高野街道)

「紀伊国名所図会」に「神谷辻……入口に慈尊院止植尾道あり」と記され、神谷辻(現高野町神谷)から長坂道をくだり、慈尊院から西国三十三所の第四番札所、植尾山施福寺へ至る道があったことがわかる。

長坂道は不動坂口の脇街道であったが、明治34年の紀和鉄道の開通で様相が一変する。参詣者の多くが学文路からの不動坂口にかわり、高野口駅から九度山、推出、長坂を経て、神谷で不動坂口に合流するこの道に登るようになり、「新高野街道」と呼ばれるようになった。

推出は高野参詣の宿場として宿屋・茶店が軒を並べ、不動坂口の学文路・河根にかわり繁栄する。大正14年に高野電気

鉄道(現南海電鉄)が高野下(推出)まで開通すると、最盛期を迎えるが、昭和4年に電車が大阪難波から極楽橋まで全通すると、宿場としての機能を失い急速に衰退する。

また紀州が生んだ大博物学者、南方熊楠は数回高野山に登っているが、大正9年の夏には、長坂道から高野山に登っている(南方熊楠高野山登山行奇譚 1999年)。その行程は和歌山駅から高野口駅まで汽車に乗車、高野口から推出までは人力車で、推出からは歩いて長坂道に登り、神谷、不動坂を経て高野山に至るというものであった。

コースガイド

を撮るのものはばかれる程の荒れようである。2万5千地形図(橋本・平成12年修正)の苜蓿堂の注記の位置が間違っている。1000m程南の一軒家が観音寺苜蓿堂である。

苜蓿堂から古道は山道となり、尾根の東斜面を捲いて行く。200m進んだ所に大正13年に建てられた石道標があり、「至高野山六六〇メートル、一里二十四町三十間」と刻まれ、少し先に「長坂地蔵尊」の小祠がある。さらに山道を進むと、「至高野山六四〇メートル」と刻んだ石道標があり、その先には「長坂大師」と呼ばれる弘法大師を祀った小祠を見る。

小祠の後方から「高野古道」の道標にしたがって、尾根を5分弱ジグザグに登ると、推出から神谷に続く林道に出る。林道となった古道を左へしぱらく進むと、関西電力の送電線が道を横切る。鉄塔付近から左側の樹林

南海高野線の高野下駅で下車。集落名は推出であるが、高野山に歩いて登った昭和初期まで、高野参詣の主要な登山口であったため、駅は「高野下」と名づけられた。

駅前から不動谷川に架かる橋を渡り、右へ進む。推出郵便局前の三叉路は左をとり、不動谷川の支流に沿って進む。舗装道を10分程歩くと三叉路があり、「高野古道」の道標にしたがい左へ進む。

道の左は果樹園(桃、ミカン畑)、右は檜の植林地のなか、簡易舗装された道を登って行くが、なかなかの急坂である。やがて長坂の集落が見えてくる。集落といても道に沿って数軒の民家が点在しているだけの静かな集落で、廃屋も目につく。少し登ると谷沿いを進んできた舗装道と再び出会う(2万5千地形図の296m標高点地点)。

T字路を左へ進むと、道は右へ大きく曲がり、杉・檜の植林地を登ってゆく。尾根に出ると一軒家があり、右へ曲がって1000m程進むと観音寺苜蓿堂がある。

堂守の民家と棟続きの苜蓿堂は、刈萱道心と石童丸の物語を広めるために、明が一部切れ、東に不動坂口の黒石付近の尾根が見える。北東には黒河川の通る戰場山(650m)が頭をのぞかせ、南東に雪池山から楊柳山が見えている。

杉・檜の植林地のなか、林道を10分程歩くと、右に池ノ峯集落への道が分岐する。江戸末期、慶応四年(1967)に建てられた石道標があり、「左 高野山 右 金尾羅(道)」と刻まれている。さらに5分程進むと神谷入口の三叉路があり、左をとると学文路からの不動坂口と出合

右に旧脇本陣の花の屋(出水亭)、左に出水醫院の表札のかかる平屋建ての家(無住)があり、高野街道沿いの古い宿場の雰囲気伝わってくる。

神谷から不動坂口を学文路にくだってもよいが、不動坂口女人堂まで登り、その後時間のゆるす限り、高野山内の寺院を拝観するほうが楽しい。

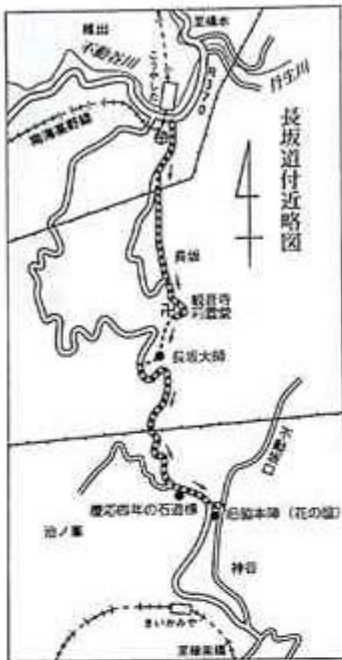
(平成15年5月3日歩く)

▲コースタイム▼

南海高野下駅(50分) 観音寺刈萱堂(25分) 林道分岐(50分) 神谷
△地形図▼2万5千 橋本・高野山



弘法大師を祀った小祠(長坂大師) 20年程前に堂守が推出に下たられ、このこと、写真



エリア別徹底研究

高野参詣道を歩く

⑦ 黒河口

黒河口のコースガイドは、本誌62号(92年1・2月号)に拙稿が掲載されているので重複を避け、ここでは黒河口の歴史を簡単に述べるに留めたいと思う。

黒河口の歴史は古く、『九度山町史 1965年』に「沿道の黒河村は、楊柳

山の東、奥の院のうしろにあって、高野山第二世伝燈國師(開祖善海の後継者、真然)のころに開けたという」とあり、平安初期に村が開け、高野参詣道も同じ頃開かれたものと思われる。村民は代々、高野山奥の院灯籠堂の油差しに奉仕した



という。

中世末の文禄三年(1594)には豊臣秀吉が徳川

家康らを従えて、高野山に参詣登山

したことが『高野山参詣道』

野村秋編年報 享保四年(1719)『紀伊統風士記』などの文献に見える。

3月3日(新暦4月12日)に、青嶽寺(現金剛峯寺)で亡母の三回忌の大法要を営み、3月6日(新暦4月15日)には、高野山内では古くからのしきたりやで固く禁じられている能楽を演ずる。途端にそれ

までの青天が嘘のような大雷雨となり、驚いた秀吉は単騎馬に跨がり黒河口を駆けけり、利生護國寺(橋本市岡田町)に逃げ帰ったという。

江戸時代に入り、学文路からの不動坂口が表参道になると、黒河口は次第にさびれていった。しかしもともと裏街道でありいくつもの峠を越える険しい道なので、遠国からの参詣者にはあまり利用されなかった。あくまでも地元住民の参詣道であり、生活の道であったと思われる。



エリア別徹底研究

高野参詣道を歩く

⑧ 粉撞峠道

粉撞峠道は黒河口の脇街道で、久保村(現九度山町北支)で本街道と分かれ、粉撞峠から高野山に至る道である。

中世末の文禄三年(1594)に、豊臣秀吉が馬に跨がり黒河口を駆けくったことは先に述べたが、『紀伊統風十代』

に「豊太閤(豊臣秀吉)高野下山の時、高野六時鐘(金剛峯寺境内)、千手院谷口より黒川峠の西(粉撞峠)に出て、銅嶽(雷池山)の北より久保村に出、……後略」とあり、久保村まで粉撞峠道をたどったことがわかる。

コースガイド

粉撞峠道を登る場合、橋本から久保までは本街道の黒河口を歩く。明神ヶ田

和、青嶽、市平を経て4時間程である。

久保は戦場山(650m)と雷池山(988m)の鞍部に位置する10軒足らずの山村で、江戸時代とほとんど言数は変わっていない。久保小学校前の四つ辻で粉撞峠道が分岐するが、左手前に道標を兼ねた石仏(明治4年建立)が祀られている。

正面に弘法大師・観世音菩薩両像と「南無大師遍照金剛・南無観世音菩薩」の銘文が刻まれ、左側面に「左まにん、右かうや」と刻まれている。「右かうや」は、これから登る粉撞峠から高野山への道を示し、「左まにん」は、黒河村(廣村)から土倉峠を経て、摩尼谷(摩尼山東方の谷)の村々への道を示している。

また久保小学校は明治9年開校という

古く歴史をもつが、平成13年春に火事で図書室の一部を焼損。その直後に偶然黒河口を歩いたが、窓ガラスが割れ無残な姿を晒していた。今回2年ぶりに訪れてみると、校舍全体がログハウス風に改築され、付近の景観とよく調和している。

小学校横の小さな道標「↑粉撞峠・高野山」にしたがって、小学校の裏手に廻り込み、一軒家の横から南西にのびる地道が粉撞峠への道である。すぐに細い山道となり、杉の植林の尾根の右側を捲いて行く。15分程歩き尾根に出ると、北又川にくだる山道が左に分岐、30分程先には小広場がある。

子蔵地蔵を祀ったブレハブの地蔵堂が

粉撞峠



建っているが、鍵が掛かっている子継地蔵は見られなかった。広場の先に「平成5年度復旧治山事業」の標識があり、右側(西)の樹林が一部切れ、視界が開ける。丹生川の深い峡谷と河根方面の尾根が展望できる。

標識の少し先に三叉路があり、「黒河峠經由高野山」と間違った行先を示す道標が立っているが、左へ進む。2万5千地形図には、雪池山北尾根(仮称)の西側に破線道が描かれているが、古道は北尾根の東側を捲いて登っている。よく手入れされた杉・檜の植林地のなかを登る古道は、植林の仕事道として利用されており歩きやすい。標高800mを越えたあたりで北又川源流の谷に出る。道が行き止まりのように見えるが、右後

方に折り返して山腹を登る道がある。少し登ると三叉路で、左の山腹を捲く道をたどると倒木や灌木が道を塞ぐようになる。再び谷に出るが、これも右後方に折り返し登る踏み跡がある。踏み跡をたどり、尾根に出て左へ100m程やぶを過ぎると、雪池山から北西にのびる町境尾根と出合う。

小さな道標と、頭部が赤く塗られた宮林署の境界標石がある。ここから粉撞峠は雪池山の西側山腹を捲く道となる。道は通じているが、すぐに背丈を超える灌木に行く手を遮られやぶ漕ぎとなる。所どころ小規模な植林地があるが、大部分は自然林である。このコースを歩いたときは近畿一円で30度を超す暑い日で、粉撞峠に着いた時には全身汗ビッシュリ



▲コースタイム▼
JR・南海橋本駅(4時間10分黒河口經由)久保(15分)地蔵堂(50分)町境尾根(25分)粉撞峠(20分)車道(25分)奥の院前バス停
▲地形図▼2万5千橋本・高野山(コースメモ)
このコース、夏季は草木が繁り、一部やぶ漕ぎとなる。秋から冬に歩かれることをおすすめする。

であった。時の一角に小安地蔵を祀った荒れた小祠があり、楊柳山からの女人道がここで合わさる。中央に昭和初期? に立てられた石道標(高さ約60cm)があり、「北八東郷・橋本、南へ下ル奥の院・転軸山、東へ上ル楊柳山」と刻まれている。峠から杉・檜の植林地を南へくだる。くだるにつれて谷が開け、名前の通り広谷になる。やがて転軸山北方の車道へ出る。左へ進み、奥の院の弘法大師御廟の横を通る。さらにユニークな墓石の立ち並ぶ「高野山公園墓地」の参道を南へ歩き、奥の院前バス停に着く。(平成15年6月8日歩く)

旗振り通信の研究 ⑱

連載 研究の経緯と文献

柴田昭彦

【研究の経緯】

★拙稿をまとめるに至った経緯についてふれておきたい(本誌58号の「せせらぎ」も参照のこと)。直接のきっかけは、平成11年夏、滋賀県立図書館で、中島伸男氏の旗振り通信に関する論文(『蒲生野20』抜削)を偶然、見つけたことによる。論文の中では二石山が不明のままであったので、探索を行い、その成果を本誌54号に発表するに至った。中島氏からいただいた三重県ルートの論文(『蒲生野22』抜削)の中で旗振り中継ルートが大変あいまいなことから、大阪と桑名を結ぶ中継地点をせひ見つけたいと思い、関係資料の探索を始めることになった。中島氏が

らは、滋賀県外ルートを解明してほしいという要望があり、筆者は、平成12年6月、12月に、図書館と市町村教育委員会への問い合わせを糸口にして、郷土史家、登山家などへの確認作業を重ね、西日本一円の旗振り場と通信ルートの解明を行ったというような次第である。なお、レポート全体の中核部分は、平成12(2000)年12月末、つまり、二十世紀まででは出来上がっており、あとは、平成13年以降の新たな情報を加えて仕上げたものである。

★西宮市の吉井正彦氏が言われるように、旗振り通信ルートに関する資料は少なく、いわば「埋もれた歴史」である。吉井氏

や西宮ローパー隊員らが取り組んだ昭和55、56年や、中島伸男氏の取り組んだ昭和58、62年であれば、まだ、古老への聞き取りが可能であり、旗振り地点を解明することもできたが、さらに16年を経過してしまっただけで、平成15年となると、旗振り通信について記憶している古老もめっきり少なくなり、伝聞に伝聞を重ねて、又聞きでなければ、証言は発掘できず、旗振り地点はともかく、前後の通信ルートを正確につなぐことは困難な時代に入ってしまった。

★旗振り通信ルートの解明が困難な理由としては、直接、証言を得ることのできた明治・大正時代や昭和の初期でも、中継ルートが記録にきちんと残されていないことに起因している(あいまいな証言が多い)。また、江戸時代の旗振りは公認されておらず、「抜け商い」であったため、裏ルートが作られ、地点もたびたび変更する必要にせまられたため、伝承にも残りにくいという実情があった。明治期には公認されたが、相場に失敗して大損をした場合には他言できず、一家離散に至ることもあって、旗振りの話は伝わらないことも多かったようである(相場

に失敗したという報告例はある。通信業者間での競争もあり、同じ地域でルートが複数あるために説明が困難である場合も生じている。

★旗振り通信に関心を寄せた人は過去にも結構いたが、出身地を含む二府県程度の限られた範囲の調査にとどまり、旗振り場の悉皆調査をしようなどという好事家は平成12年まで出現しなかったのが、まとまった資料の存在しない理由であろう。郷土資料に記事が散見するとはいえ、旗振り場の確認というのは、単なる事実関係の調査にすぎないと思われてきたらしく、地理学や民俗学の分野の研究テーマとして、一顧だにされてこなかったようである。旗振り通信についての大学関係方面での研究論文は皆無と思われる。そういう意味では、日本地名学研究所の池田末則氏による十三塚の研究に関連した相場通信の山の確認や、「日本民俗大辞典 下」(吉川弘文館、2000年)における「旗振り通信」の項目(福田アジオ氏の執筆)の採用は画期的なことと思われるのである。この項目の採用には、中島伸男氏の論文の成果によるところが大きく、民俗学におけるテーマとしてようやく

く市民権を得たということになるのだろう。

しかし、歴史研究者の、旗振り通信に対しての関心は薄いようである。最近、出版された、丸山雅成・小風秀雄・中村尚史編『日本交通史辞典』(吉川弘文館、2003年)は、情報・通信に関わる項目も収録しているというが、旗振り通信や狼煙に関わる記述は全く見られない。「宮島」と「飛脚」の項目があるだけであり、残念に思われる。

★旗振り場の確認がもはや困難な時代に入ってしまったとはいえ、今までの報告にみるように、筆者の調査をきっかけにして、新たに発掘できた旗振り中継地点がいくつかあり、旗振り通信の消滅(大正6年頃)から85年以上を経過した今日でも、聞き取り調査によって、旗振り場の新たな発見が可能であることを示唆しているといえる。ただ、伝承には曖昧さが伴うので、旗振りが行われた地点名が正確に伝わらないで、別の山名で残される場合もあり、判断の困難さをもたらすことになっている現状である。中継ルートは、地点の確認を糸口にして、相互に見通せる場所かどうかによって、再現で

きる可能性が残る(パソコンの3Dソフトを活用することもできる)。点と線をいかにむすびつけるか、謎が多いだけに、まるでパズルのようであり、今後も興味深いテーマであり続けることだろう。

旗振り場を紹介しているので、参考にされたい。

『事典類』

◆郵政省通信総合研究所編『通信の百科事典』通信・放送・郵便のすべて(丸善、平成10年) 腕木通信、伝書鳩通信、旗振り通信の項

◆『世界大百科事典21』(平凡社、1972年版)の「通信」の項目

◆『国史大辞典5』(吉川弘文館、昭和59年)の「けしきみ(気色見)」の項目(気色見とは、江戸時代における、旗振り通信の呼称)(土肥鑑高・執筆)

『一般的な旗振り通信の紹介』

◆『体系日本史叢書24 交通史』(山川出版社、昭和45年)188～212頁、第三章第三節 通信と飛脚、藤村潤一郎執筆)191頁(旗振り通信の文献紹介がある)

◆丸山雅成編『日本の近世6 情報と交通』(中央公論社、1992年)22～23頁、米相場・手旗・狼煙、丸山執筆(311～348頁、情報伝達者・飛脚の活動、藤村潤一郎執筆)、344頁

(相場飛脚)、345頁(速報の方法、旗振り通信について)

◆大阪中央電信局編『大阪中央電信局沿革誌』(大正三年)2～4頁(ここに「旗振り通信」という言葉が使われている)、241頁(旗原について)

◆『十五万になった大阪電話』62年の歴史(日本電信電話公社・近畿電気通信局、昭和31年)3～4頁(「大阪経済の発達と通信」の中に、旗振り通信の記事がある。近藤論文によったもの)

◆藤本篤『大阪府の歴史』(山川出版社、1969年1版、1989年2版)172頁

◆石井寛治『情報・通信の社会史』(有斐閣、1994年)26～27頁(堂島米市場と旗振り通信)(近藤論文の紹介)

◆奥澤清吉・奥澤照『学校では教えないのろしから宇宙通信』(誠文堂新光社、1989年)6～8頁(旗振り通信、腕木通信)

◆『上方おもしろ草紙』(明興社、昭和63年)367～368頁(堂島の旗振り)

◆飯内吉彦『大阪堂島の旗振り通信』(歴史と神戸)第五巻・第二号、昭和41年5

【旗振り通信の文献(追加分)】

★旗振り通信に関する文献については、本誌57号で一括して示し、その後も逐次紹介してきたが、文中でふれることになった文献も多い。旗振り通信についての情報はいろいろな本に隠れていて、探索に苦勞する場面が多いので、筆者の収集した資料をほぼ網羅して紹介しておきたいと思う。なお、本文で取り上げてきた文献の一部(括弧内)を除いて、ほとんど省略した。米相場や米取引については文献も多いので一部にとどめ、のろしについても既に紹介したので省略する。

なお、『歴史と神戸』(第41巻第5号、234号、平成14年10月)に「米相場を伝えた旗振り山の解明」を掲載した。これは主として姫路以西を中心にしたものであったので、「兵庫県内の旗振り山について」(『歴史と神戸』第42巻第5号、240号、平成15年10月)では、兵庫県における

私達におまかせ下さい。待っています!



●詳しくはホームページを見て下さいネ。
<http://www.yoshimisports.co.jp/>

登山用品専門店
とスキーのヨシメ
〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06 (6772) 7231

JR天王寺駅北出口
より東へ強歩5分

月、21〜23頁)

◆ 飯内吉彦「堂島の旗ふり通信」(『大阪春秋』第13号、昭和52年3月、98頁)

◆ 飯内吉彦「堂島の旗振り通信」(高橋善七「郵便風土記―近畿編―」通信新報社、昭和46年、17〜20頁)(高橋善七「郵便風土記 西日本編」示人社、1983年、復刻版)

◆ 大阪商工会議所編「大阪商業史資料第二十卷」(昭和三十九年) 110頁(堂嶋ノ旗振り)

◆ 「大阪百年」(毎日新聞社、昭和43年) 62頁(明治大正大阪市史・史料篇より)

◆ 花登隆「京島」(徳間書店、昭和43年) 8頁(堂島で米に生きる相場師の姿を描いた小説で、旗振り通信にもふれている)(小説で旗振りにふれたものは少ない。小川未明選集第4巻、1926年、所収の作品に「老旗振り」があるが、交通整理の旗振りをテーマにしたものであった。)

◆ 桂米朝「米朝ばなし 上方落語地図」(講談社文庫、1984年) 16頁(堂島の米相場を「天保山(大阪港)から赤い旗を振って通報」したと紹介している。)

と同じもの)

◆ 神原英吉編輯「市内漫遊大阪名所図説」(明治23年) 十三頁(堂嶋米市場之景)

◆ 宮本又次「キター風土記大阪」(ミネルヴァ書房、昭和39年) 215〜229頁(堂島の挿図資料が豊富。橋の上で白い旗を振っている絵と昭和五年実演の写真がある)

◆ 宮本又次「大阪商人太平記―明治中期篇―」(創元社、昭和36年) 244頁



明治初年の堂島浜(屋上の橋で旗を振った)
(『上方』第百五号より)



(明治大正大阪市史と同じ二枚の写真)
(旗振りの記事は載せていない)
◆ 「上方」第百五号(堂島号)(上方郷土研究会編輯、創元社発行、昭和14年9月)(明治大正大阪市史と同じ三枚の写真)
◆ 「今は昔」船場・堂島・北浜「相場物語」(投資日報社、昭和47年)(49頁に堂島の旗振り通信、59頁に堂島の旗振りの絵、71頁に桑名から名古屋や津への通信の話がある)
◆ 若井登監修「無線百話」(クリエイト・クルーズ、平成9年) 14〜22頁(伝書鳩通信、腕木伝信、旗振り通信)(『近畿の電信電話』の絵と非常によく似た旗振りの絵がある。)



昭和5年実演の旗振り
(『上方』第百五号より)

これは通信総合博物館所蔵の「日本交通図説 葵の巻(8)」で、画は西村青龍、年代は不明である。日本交通図会、とも表記する。本誌68号に掲載したことがある。)
◆ NHKデータ情報部編「ウィジュアル百科 江戸事情 第二巻産業編」(雄山閣出版、1992年) 207頁(米相場の通信)(大阪堂島の幟信号)の絵を掲載。「無線百話」にある「日本交通図会」と同じもの)
◆ 山下武夫「通信」(朝日新聞社編「日本科学技術史」昭和37年、323〜346頁) 335〜6頁(手旗信号)(『日本交通図会』を収録している)
◆ 高橋善七「日本史小百科23 通信」

堂嶋の信号(『風俗画報』第百七十六号、明治36年)



堂嶋の信号

「旗振りの様子を写真等で紹介したもの」(『風俗画報』第百七十二号、第百七十六号に、大津追分と堂嶋の旗振りの図があり、「明治大正図誌 第11巻 大阪」に両図を転載。本誌58号参照。「大阪の情報文化」の外箱に、堂嶋の旗振りの図を転写した絵を載せる。「明治大正大阪市史第五巻」には、明治初年の堂島浜の写真一枚と昭和五年実演の旗振りの写真

一枚があり、「百年の大阪2 明治時代」に一枚転載。「近畿の電信電話」の旗振りの絵が「大阪の情報文化」に転載。「浪華夜はなし」にも違う絵が載っている。)

◆ 宗政五十緒・西野由紀「なにわ大阪 今と昔 絵解き案内」(小学館、2000年) 26頁(明治のころの堂島の旗振り樽の写真。明治大正大阪市史にある一枚

〔近藤出版社、昭和61年〕17頁（狼煙による米相場の合図）、40、43頁（伝書鳩による相場通信と旗振り信号）（江戸時代に使われた手紙信号）の写真は「通信博物館模型」で本誌62号参照。加藤有次編著「東京おもしろ博物館」新潮文庫、昭和62年）

◆「商人の舞台」天下の台所・大坂―（大阪市立博物館、平成8年）18頁（浪花百勝）より「堂島の米市」と題した旗振りの絵（17頁の解説によると「浪花百勝」は二代長谷川貞信が昭和15年、90歳で描いた百枚の風景画。江戸時代の風景として描いたもの。）

◆臨田修監修「図説大坂 天下の台所・大坂」（学習研究社、2003年）32、35頁（大阪歴史博物館蔵の「堂島米市」と題した絵）

〔伝書鳩による相場通信に関するもの〕
 ◆三田村篤魚全集第六巻・鳶魚江戸文庫18「札差」中公文庫1998年・所収「大坂町人の相場通信」と「日本史小百科23 通信」「無線百話」、篠崎昌美「浪花夜ばなし」も鳩通信にふれている）
 ◆黒岩比佐子「伝書鳩―もうひとつの1

T」（文春新書、平成12年）34、37頁
 ◆石井研堂「明治事物起源6」（ちくま学芸文庫、1997年）465、7頁（軍用鳩）

◆「米市場・米価・取引に関するもの」（堂島の米市に関するものは、旗振り通信にふれていなくてもとりあげた。）

◆武藤誠他編「京阪神史話」（上方出版印刷、昭和35年）132、133頁

◆松田太郎「阪神地方の歴史」（旭書房、昭和40年）199、201頁

◆原田伴彦編「浪花のなりわい」（町人文化百科論集4）（柏書房、1981年）

◆堂島の米穀取引所、堂島米市の沿革
 ◆岡本良一「大坂の歴史」（岩波書店、ジュニア新書、1989年）（天下の台所）

◆大阪都市協会編「まちに住まう―大阪都市住宅史」（平凡社、1989年）153、5頁（堂島米市場、旗振り通信）
 ◆産経新聞大阪本社社会部「大阪の20世紀」（東方出版、2000年）44、47頁
 ◆「江戸時代人づくり風土記 大坂の歴史」（農山漁村文化協会、2000年）第4章

◆宮本又郎「大阪の蔵屋敷と堂島米市場」（なにわ大阪再発見）第4号、大阪21世紀協会、平成13年、44、51頁（旗振り通信）

◆佐藤健一「日本人と数 続・和算を教え歩いた男」（東洋書店、2003年）文化文政時代の堂島の米市（164、6頁）

◆柳沢逸司「堂島のDNAを取りもどせ」（財界研究所、平成15年）

◆土肥鑑高「米と江戸時代」（雄山閣、昭和55年）三章（天下の台所大坂と堂島米市場）

◆土肥鑑高「江戸の米屋」（吉川弘文館、昭和56年）67、74頁（天下の台所大坂）

◆土肥鑑高「米の日本史」（雄山閣、2001年）第4章（江戸時代の農村と米穀流通）

◆中沢次郎「日本米価変動史」（明文堂、昭和8年初版）（柏書房、昭和40年再刊）（柏書房、2001年復刻）

◆鈴木直二「大阪に於ける幕末米価変動史」（四海出版、昭和10年）（国書刊行会、昭和52年復刻）

◆「北濱と堂島」（日本取引所研究会、大正元年）（大阪堂島米穀取引所発達史、

市場慣用語略解等を収録）（復刻版、明治後期産業発達史資料393巻、龍溪書舎、1998年）

◆須々木庄平「堂島米市場史」（日本評論社、昭和15年）

◆島本得一編「堂島米会所文獻集―世界最古の証券市場文獻―」（所書店、昭和45年）

◆大阪市史編纂所編「大阪市史料第十九 二冊 堂島米会所記録」（昭和59年）

◆岩佐武夫「近代大阪の米穀流通史」（清文堂、昭和60年）

◆山種グループ記念出版会編「日本市場史 米・商品・証券の歩み」（日経事業出版社、平成元年）

◆津川正幸「大阪堂島米会所の研究」（晃洋書房、1990年）

◆石井良助「商人と商取引その他」（自治日報社出版局、昭和46年）（石井良助「商人」明石書店、1991年、改題版）

◆木佐森吉太郎「相場道の極意」（三笠書房、知的生き方文庫、1986年）

◆高橋幹夫「江戸あきない図譜」（青蛙房、平成5年）57、58頁（堂島米市の帳合取引）（ちくま文庫、2002年）

◆中江克己「お江戸の意外な「モノ」の値段」（PHP文庫、2003年）堂島の米相場

◆林どりあん「歴史が教える相場の道理」（日経ビジネス人文庫、2001年）

◆加藤慶一郎「近世後期経済発展の構造」（清文堂、2001年）第1章（堂島帳合米商内）第2章（相場報知状）

◆「腕木通信に関するもの」

◆腕木通信はフランスでシャップにより1793年に開発・建設され、翌年に実用化されたのが最初である。高さ10センチの腕木通信機を約10センチ間隔に設けて、望遠鏡で確認しあって、リレー式に伝達した。ロバート・フックが17世紀に提案していた視覚通信機の実験は1791年に初めて行われたが、それは腕木通信機とは異なる。時期は日本の米相場の視覚通信の方が早い。以後、英米独露蘭・スウェーデン・デンマーク・アルジェリアでも、種々の視覚信号通信機が用いられた。19世紀中頃に電信の普及により廃止された。（前掲の「通信の百科事典」「学校では教えない」のろしから宇宙通信）「無線百話」も腕木通信を紹介して

山の本紹介



須磨岡 編著
 「たじまハイキング」厳選30コース

○神戸新聞総合出版センター刊
 A5判・128頁
 定価1500円＋税

前作「はりまハイキング」の第二弾。前作同様、わかりやすいコース概念図をつけ、今回は但馬の30の山を取り上げ、カラー写真ふんだんの美しい案内書。盟主氷ノ山を始め、日本海へ続く但馬の山並のうち、これまで紹介されていないコース、日本海の半島に延びるコースも紹介。

最寄りの書店にない場合は、書店に注文していただくか、著者宛に郵便またはFAXで御連絡ください。

〒671-1126
 姫路市余部区上余部50の2の11
 FAX 0792(73)3037
 須磨岡 編まで

いる。

◆「腕木通信から宇宙通信まで」(国際電信電話株式会社資料センター、昭和43年)(国際電気通信連合が1965年に発行したものの日本語版)11~19頁(各国の視覚電信機)

◆山崎俊雄・木本忠昭『新版 電気の技術史』(オーム社、平成4年)53~63頁・72頁(腕木式通信機)、199~200頁(武田氏のかがり火通信、手旗信号による米相場通信)

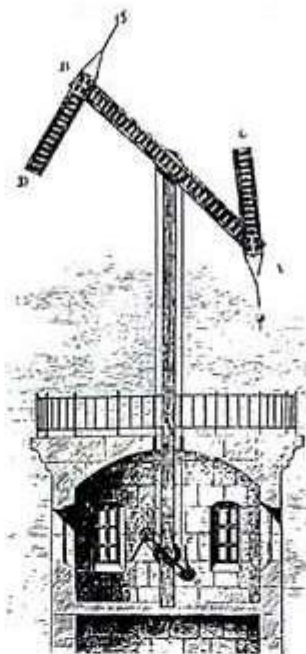
◆直川一也『科学技術史―電気・電子技術の発展―』(東京電気大学出版局、1998年)129~131頁(米相場通信)

信、腕木通信)

◆日本経済新聞社編『郵便と電信電話』(日本経済新聞社、日経文庫、昭和32年)15~17頁(腕木信号法、大津・徳島への旗信号)

◆三谷末治『旗と船舶通信(改訂新版)』(成山堂書店、昭和62年)(信号の歴史)(船舶の手旗信号の解説書)(現在、三谷末治・古藤泰美共著『旗と船舶通信』成山堂書店、平成12年、が入手できる)

◆井上照幸『電報民営化過程の研究』(マルコ、2000年)1~2頁
◆小林直行『通信のしくみ』(ナツメ社、2000年)52~53頁



◆中野明『腕木通信 ナポレオンが見たインターネットの夜明け』(朝日新聞社、朝日選書740、2003年11月)
(腕木通信に関する本邦初の単行本。腕木通信の用いられた地域が広範囲である)

ることがわかる。旗振り通信については、244~8頁に、近藤文二「大阪の旗振り通信」のダイジェストがあり、本誌58号で紹介した「風俗画報」第172号にある相場旗振の図も転載されている。

◆若井登・高橋雄造編著『てれこむノ夜明ケ』(財団法人電気通信振興会、平成6年)口絵(通信の切手)10~25頁(鳩通信、旗振通信、腕木通信)

★前回までは、旗振り地点の紹介をしてきたが、旗振り通信そのものについては、ほとんど紹介できていないので、次回以降に総括することにした。(つづく)
(平成13年5月11日初稿)
(平成15年9月7日修正)
(平成15年11月8日追加)

連載

三角点を訪ねて ②⑥

貝ヶ平山から額井岳へ

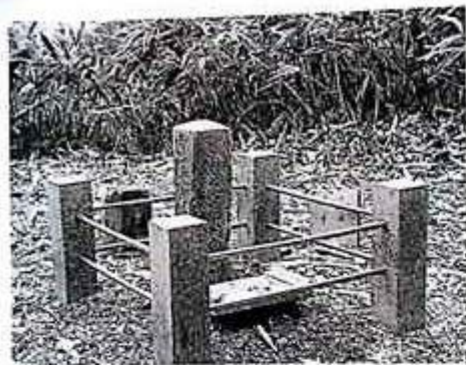
室生

磯部 純

「どこかへ行きませんか?」と、久しぶりに金谷さんから電話。この時期には北方の山は雪が多いので、金谷さんの要望で、南の室生火山群の額井岳と、まだ踏んでいない三角点峰貝ヶ平山・鳥見山をも歩くことにした。日曜は天候が崩れるとの予報で、山行予定日を2月19日の火曜日にしたが、後で調べてみると、額井岳へは、ちょうど8年前の平成6年2月19日に登っているのではないか! その偶然に驚く。

言う物集女の夫人も乗っていた。これでのこの山行メンバーは4人。歩くコースは鳥見山から貝ヶ平山へ登り、香酔山を踏んで香酔峠へくだり、額井岳へ登るといふもので、少なからず長丁場のコース。「時間があれば、戒場山まで足をのばしたい」と思っていたが、後で思えば、そんなに歩いたら、足がどうかなっていったに違いない。

あたりを歩いているのかわからなかったが、町名表示を見て「あかね台」だとわかり、現在位置が把握できた。国道165号線に出ると、鳥見山公園の道標が立っていて、やっとひと息つく。



貝ヶ平山三角点と石碑

「日」と文字が刻まれている。三角点は、その石碑の後ろに隠れるように立っていた。2等三角点で、点名は「吐山」。顔は南西向きで、南からきっちり45度西へ振っている。

ここで昼食の予定だったが、標石の写真を撮ったり記念撮影をしているうちに、突然、雪が激しく降ってきて、山頂広場はたちまち白一色におおわれた。風は相変わらずビュービューと音を立てて吹き荒れ、こんな所で食事はできるはずもなく、風の通らない場所を探そうと、早々

にくだることにした。その間、わずか10分足らずだった。

先程の香酔山分岐ピークまでくだが、風は弱まらず、香酔山へ向け踏み跡をくぐる。鞍部までくぐると、風は収まったが、今度はササのなかで坐る場所もなく、香酔山へ登り返す。このルートは最近歩く人がいないのか、ササが踏み跡をおおいつくし、おまけに倒木だらけ。立ち塞がる倒木をくぐったり跨いだりしての登りは思いのほか疲れる。やっと、香酔山(790m)山頂へ着いたのは12時ちょうど。この山頂も展望がなかったが、風が通り過ぎるほど通っていたので寒さが厳しい。風の通らない所を探して、少し戻った斜面で食事とする。

雪はいつしかやんではいたが寒いことに変わりはない。ビールを飲む気にもなれず、ひたすら食べることに専念する。寒さを和らげようと温かい物を食べたが、いぜんとして身体は暖まらない。今度は内から燃やそうと、守山の彼にアレをもらってお湯割りにして飲むが、全く効果はなかった。休んでいる間に、1人は昼飯におかゆを持参したこと、もう1人は入れ箸を落として探す一幕があり、この

日の山行に齒の悪い人が自分のほかに2人も参加していることを知り、ひとり笑いが込み上げてきた。坐っていると腰からジンと冷えてくる。寒さに耐え切れず出発しようとした時には、すでに1時間過ぎていた。

香酔山から東へ急斜面の踏み跡をくだり、尾根への。踏み跡がわからないほどのササの尾根で、足元には倒木が何本も横たわり、歩くのが大変。やがて送電線が近くなると、尾根を巡視路が横切る。左へくぐればスズラン自生南限地だが、今は行っても花はなく、そのまま直進する。尾根は倒木とイバラで、進むのにひと苦労するほどだった。鉄塔まで来ると、そこには三角点を立てていた。点名「香酔」、4等三角点である。四つの保護石に囲まれ、標石は三角点と書かれた三の字まで埋まっていた。

三角点からササの尾根を北東へくぐると、香酔山の北200m程の所へ飛び出した。時間は13時40分。しかし、この日の山行はこれで終わりではなく、これからもう一山登らなければならない。すぐ近くにテープの巻かれた山道があったが、額井岳への登山ルートとは思われず、地



から白木へくぐる道と分かれて、ピークを捲くように北東の尾根に付けられた道をくぐる。周りは相変わらず杉の林。やがて左からの道、右からの道と合うが、その分岐に標識はない。直進して、道が左に曲がると、勾配が

きつくなってくる。時折、切れる林の間から後を振り返ると、今、踏んできた鳥見山が平たく横たわっていた。風は登るにつれキツくなり、登っていても汗で濡れた身体が冷えてくる。

道の両側が雑木の林に変わると、山頂手前の香酔山分岐のピーク。そこから、ひと登りすると貝ヶ平山(822.0m)山頂だった。この山は、中腹に貝の化石が出たことから貝ヶ平山と呼ばれるようになったが、今でも、山腹にある化石採取場から、満月貝・巻貝・サメの歯などが出るといわれる。この山は別名、金ヶ平山・カネヒラ山とも呼ばれていて、室生火山群北西端に位置し、額井火山群の最高峰である。ピークの西側は杉の林で、ほかには雑木の林。木が高くなっていて、展望は全くない。それでも風がビュービュー吹いていて、立っていると痛いほどに肌を刺す。

山頂広場の真ん中に、楯で囲まれた15m角、高さ75cm程の石碑が立っていた。その四つの面には、何の意味なのか、「妙法奉天大天狗小天狗鎮座 妙法奉天大夫人王鎮座 妙法奉天大龍王鎮座 妙法奉天龍大権現鎮座 昭和三十三年二月廿

う。風は冷たく、汗で濡れた肌まで突き刺してくるようにも思えた。登り切ったピークにテープがあり、てっきり鳥見山だと思い、三角点を探すがどこにもない。おかしいと思い、地形図を確認すると、そこは鳥見山の一つ手前のピークだった。

いったんくんだり、登り返すと鳥見山(734.6m)山頂。この山は別名、とらべ山・弓山・跡見山とも呼ばれている。山頂は杉の木に囲まれた小さな広場で、周りの展望は全くない。ゆるい尾根が続

いていて、ピークとは思えない山頂だった。

三角点は道と思えるような広場の真ん中に頭を出していた。よそ見をしていると、見逃してしまいそうだ。現に、先頭を歩いていた大兄が見逃してしまっただから……。

鳥見山4等三角点、点名は山名と同じ。標石はしっかりと磁石の南を向いて、その反対側には035 445の数字が刻まれていた。保護石は残っていない。

三角点からいったん左へくぐり、鞍部から白木へくぐる道と分かれて、ピークを捲くように北東の尾根に付けられた道をくぐる。周りは相変わらず杉の林。やがて左からの道、右からの道と合うが、その分岐に標識はない。直進して、道が左に曲がると、勾配が

形図の林道から接線に登ることにして、峠から国道を北へ400mほど歩いて林道を東へ入る。

林道のヘアピンまで行くと、杉林のなかに立派な道がのびていた。地形図の破線の道とは位置が違ったが「最近、額井岳へ登る道は、こんなによく整備された」と、勝手に解釈してその道を登って行く、やがて、その道は谷の中に消えてしまった。どうやら、林業道だったようだ。いままら戻るわけにもいかず、破線が引かれている右手の尾根へ登ることにする。急斜面をはいずり登り、やっと尾根へ出たが道はない。さらに、雑木の尾根を上へと登り、右手からきた尾根のりと道跡に出合えた。「磯部さんといっしょに初めて山へ登ると、全部はまともな道を歩かせてもらえない」と言われ、皆さんに冷やかされる。読図力の無さを、ただただ反省するしかなかった。その急勾配の道跡をあえぎ登って行くと約750mのピーク。すぐ目の前に額井岳がそびえ立っていた。ピークをくだって斜面を横切る道を進むと、山頂から西へのびる尾根にのる。そこで十八神社からの道に合す。山頂まではもうひとパンパリだった。

額井岳(821.6m)は大和富士とも呼ばれている。山頂は広く、北東に龍王をまつる小さな社が建っている。その社の北側に、真新しい徳石の4等三角点の埋められていた。以前はうっそうとした檜林に囲まれて薄暗く、展望など望むべくもなかったが、今では、檜の林は間引きされ、四方が展望できるようにと変わっていた。おまけに、社の傍らに休憩所までも建てられていて、南には展望台もつくられていた。

展望台に立つと、南方の山々を一望できた。目の下には榛原の町並。その向こうは音羽三山から龍門岳へと連なり、その左には大台の山々が雪をかぶり霞んでいる。波のように重なって見えるのは、住塚山・国見山・鍛冶や室生の山々なのだろうか。鋭角に空を突いているのは、尾ヶ岳に違いない。すぐ西には、今歩いてきた鳥見山から貝ヶ平山の連なりが横たわっている。

壁のない休憩所では、休もうにも寒くてたまらず、周りの展望を写真に撮り終わると、早々にくだることにする。登って来た西尾根をくだり、十八神社への道をくだる。額井林道へ出たが、そのまま

杉林の道に入り、途中から南へのびる細い道をくだる。再び、小道の三叉路へ出るが、右をとると、山腹を捲くように歩き、4等三角点、点名「山辺」のある登り口へと出た。三角点まではわずかの距離だったが、さすがに、三角点を見ようという人はなく、前回はこの三角点を訪ねて来たことを理由に、踏まずに通過する。その道を左にくだると赤瀬集落の大ケヤキのある額井岳登山口へ出た。車道を春日神社、東榛原小学校と通り過ぎ、長い長い国道歩き。榛原駅へ戻ったのは16時20分。冷えた身体を駅前のウッド小屋で暖めた後、帰途につく。わざわざ雪に会わないようにと南の山へ登ったのに、予想に反して雪に見舞われ、寒さに震えた一日だった。(平成14年2月19日歩く)

▲コースタイム▼
近鉄榛原駅(50分) 鳥見山公園(20分) 鳥見山(45分) 貝ヶ平山(25分) 香酔山(20分) 点名香酔(20分) 香酔峠(1時間10分) 額井岳(40分) 赤瀬(50分) 近鉄榛原駅
△地形図▼2万5千リ初編

布引滝から

黒岩尾根・摩耶山

コースとコースタイム 地下鉄新神戸駅(10分) 布引貯水池(20分) 市ヶ原(20分) 黒岩尾根取付(1時間) 1606ピーク(1時間10分) 摩耶山展望台(往復1時間) 切羽天守(30分) 摩耶山定観公園(25分) 青谷道分岐(55分) 飯急王子公園駅(徒歩約6時間30分)

中村敏文

① 布引滝(神戸市中央区)

地下鉄新神戸駅から北へ向かうとすぐ坂道となり、ひと息で砂子橋を渡る。滝道に入ると緑におおわれた溪流と岸壁のコントラストがよく、駅から10分で雄滝が見える。急峻な坂道もある滝道は、鼓滝・夫婦滝・雄滝と続き、岸壁に布を垂らした雄滝の形容から命名したのか、この四滝を総称して布引滝という。各種の樹木が密生し、緑が青と白の溪流に映える。天然の美しい景色と自然の偉大さに心がわく。

雄滝を一望できる岸壁にへばりつくように雄滝茶屋がある。滝巡りや布引ハイブ園へ行く行楽客にはけっこうな茶屋で

ある。大正4年創業で88年の歴史があり、常連による雄滝会もあるほど。

② 布引貯水池(神戸市中央区)

雄滝から雄滝まで滝見物と休憩に半時間も費やした。雄滝から20分も歩くと布引貯水池へ着く。神戸市水道局が滝道ともども管轄する貯水池である。

貯水池の堰堤は明治33年に出来、水道用水貯水池としては日本最古で、正式には五本松堰堤で重量式のコンクリートハイダムである。神戸に入港する外国船はこの水の水質と味を重宝したという。

貯水池に南から影を写す323mの城山は中世の山城滝山城跡で、東は生田川

の布引谷、西は北野谷の深い峡谷に挟まれた急峻な山肌を呈する要害地で、現在二つの尾根には南北朝以前に築城された滝山城の郭跡がある。

戦国末期に松永久秀が三好三人衆に攻撃されて敗退し、三好方は織田信長方に追われ、荒木村重方が入城したが、村重謀反で織田方が村重攻撃の一拠点とした。

③ 市ヶ原(中央区葺合町)

貯水池の北岸をたどり、池の西端近くから北へ行くと紅葉茶屋がある。市ヶ原入口にある土・日・祝日のみ営業のアプローチのよい茶屋で、六甲山中で採集したアカシヤの蜂蜜が自慢である。少し行くと投輪場の看板があるのがアケボノ茶屋で、毎日登山を始めた居留民たちの軽いスポーツが市ヶ原の名物となる。この先の桜茶屋は創業100年を越えた茶屋の老舗で、市ヶ原に緑を残したのは桜茶屋のご主人の熱意のおかげという。

海拔250mの市ヶ原は419mの世継山西山麓にある六甲登山の中継地で、摩耶山へ続く全山縦走路(稲妻坂)、地蔵谷・黒岩尾根口もある。また、再度山へ

は西方の再度東谷から大竜寺を経て登れる。和気清経が建立という大竜寺は空海



黒岩尾根道

が入唐の前後に参詣した寺である。

④ 黒岩尾根(中央区・灘区)
市ヶ原から北へ行くと、稲妻坂・天狗道への分岐、地蔵谷への分岐があって、黒岩尾根へ分岐する道標がある。摩耶山へ登る徳川道や天狗道に比べて黒岩尾根は大きくて長く、摩耶山頂まで健脚で2時間ゆえ、われわれは3時間の予定で尾根に取りつく。



トエンティクロスは北へと登るが、黒岩尾根は北東へ向かう。急坂を交えた踏み締められた坂道が続く。標高3500mの登り口から標高差3500mの606mのピークへ1時間ほどでたどり着く。

⑤ 黒岩尾根606mピーク
ピークには八二番と彫られた石標がある。西方の展望はよくないが、東方は地獄谷を挟んだ天狗道の通じる尾根から摩耶山方面の展望がよく開けている。

ほぼ北へと少しくたり、成長の悪い植林帯を抜けると610mのピークへ登る。このあたり600m前後の稜線は、砂岩地帯で北から西方へと展望が開け、菊水山など六甲西部の諸峰や丹生山地が見える。

606mピークから1時間で尾根は東へと続き、659mのピークの南側へ出る。

ピークを捲いて摩耶山との鞍部へ向かうと、アドベンチャーコースへの分岐がある。

⑥ 摩耶山頂周辺(神戸市灘区)
分岐から摩耶山との鞍部へくたつて東

へ向かい、南へ方向を変えて登る。698・8mの摩耶山頂は展望がよくない。薄暗い落葉高木林の中に天狗岩大神社跡と裏手に3等三角点がある。観光登山者の寄りつかない神秘的な山頂で、憩う場所もないので摩耶山掬星台へ向かう。

掬星台は奥摩耶ロープウェイの星の駅北上にある休憩設備のある山上公園で、東南から西南にかけて金剛・生駒山地、和泉山脈、四国淡路方面の展望がよい。掬星台の名にふさわしく星座の観測地点として知られ、眼下には入り組んだ埋立地の多い神戸港がよく見え、大阪湾を取りまく夜景を眺めての避暑地でもある。

⑦ 摩耶山切利天(灘区摩耶山町)

掬星台から717mの摩耶別山往復の時間がないので、天上寺前バス停へ歩き、



黒岩尾根606mピーク

摩耶別山南山麓に再建された仏母摩耶山切利天(切利天)を拝観する。摩耶山南斜面に存在した古寺は昭和51年の火災で焼失し、摩耶山頂北方の摩耶別山との鞍部へ再建された新しい寺院である。

古寺の規模と寺相には及ばないが、高野山真言宗に所属し、摩耶夫人像を胎内に安置する十一面観音を本尊とする。本堂・摩耶夫人堂などの諸坊は真新しく華麗であるが、古寺の焼失が口惜しい。

大化二年(646)にインド僧法道仙人によって開かれ、釈迦の生母摩耶夫人像を安置する寺院として、入寂後の夫人が住まう須弥山の頂にある切利天を寺名にしている。説話では古代中国の梁の武帝が女人の難産をあわれみ、摩耶夫人像をつくり功德を施したとも、空海がその夫人像を本尊の胎内に安置したともいわれる。

⑧ 摩耶山史跡公園(摩耶山南斜面)

掬星台へ戻り、急な石段をくだつてから樹林におおわれた摩耶山南斜面を10分もくだると切利天(切利天)寺跡へ着く。本堂・多宝塔跡などを整地して史跡公園として

仏母摩耶夫人の入寂後の住家のあった切利天については諸説がある。一説では切利天は帝釈天の住家であるこの天の住人は千年の寿命があるという。

明治31年建立の摩耶山縁起碑には天平勝宝五年(753)の雷火、延喜二十二年(802)の火災、近世では慶長元年(1596)の震災で被災している。

近世には現在の旧参道に十八町の町石が立ち並び、仁王門から三九八段の石段を上がり、夫人堂・観音堂を経て奥の院まで続いていた。

寺領十石ながら近辺庶民の信仰が篤く、2月の初午には参拝者が寺内に溢れたという。本堂以下の伽藍と大衆院・蓮華院・明王院など僧坊八坊を有する摂津の著名寺院であった。

史跡公園から旧摩耶道を25分もくだると、行者茶屋跡で青谷道分岐に着く。旧摩耶道と分かれ、青谷川沿いに小1時間もくだると青谷橋で、その南一帯は動物園や陸上競技場のある王子公園がある。海星学園や神戸登山研究所・兵庫県山岳連盟の東側を抜けると阪急王子公園駅へ着く。

二条城から北野天満宮へ

松永恵一

二条城

戦国乱世に終止符を打つべく洛中に駒を進めた男たちは、武威を天下に知らしめすため御所の側近くに城を築いた。織田信長は、永禄十二年（1569）室町幕府最後の将軍足利義昭のために「旧二条城」を、幕府滅亡後、京都における宿舎として「二条御所」を築き、後に誠仁親王に献じた。豊臣秀吉は「聚楽第」を、徳川家康は現在の「二条城」を築いた。

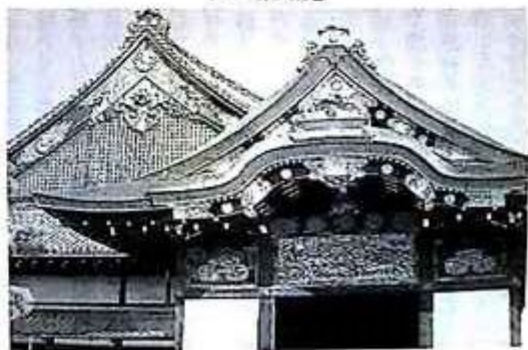
地下鉄丸線建設に先だって行われた発掘調査で旧二条城の石垣が確認された。自然石の他に石仏・供養碑・五輪碑・礎石等が建材に使用されていた。信長の庇護の下に布教活動をしていたイエズス会宣教師、フイス・フロイスは「日本史」

に「建築用の石が欠乏していたので、信長は多数の石像を倒し、頭に縄をつけて工事場に引かした。都の住民は、これらの偶像を畏敬していたので、それは彼らに驚嘆と恐怖を生ぜしめた」と記している。

天正十三年（1585）、秀吉は従一位関白に任ぜられ、「豊臣」の姓を下賜される。翌年関白の政庁である聚楽第の造営を始め、天正十六年に後關成天皇、正親町上皇らを招いた。この時に諸大名は関白への忠誠を誓わされている。関白職を甥の秀次に譲った時、聚楽第も譲られた。秀次は失脚し高野山で切腹。秀吉はただちに聚楽第の破却を命じた。

二条城は、慶長八年（1603）徳川

「二条城」



家康が、京都御所の守護と上洛のときの宿泊所として造営し、三代将軍家光が伏見城の遺構を移すなどして大改修を行った。将軍家の絶大な権力を誇示した城は、群雄が京を目指した時代の終わりを告げた。豊臣秀吉の残した文禄年間の遺構と家康が建てた慶長年間の建築と家光がつくらせた絵画・彫刻などが総合されて、いわゆる桃山時代様式の全貌を垣間見ることが出来る。

西陣

ベンガラを塗った糸屋格子に虫籠窓。開口の狭い背の低い家並。由緒ある史跡や名所。大陸から養蚕と絹織の法を伝え、古代豪族秦氏、平安王朝織機の歴史の上に花開いた古都千年の華、絢爛華麗な西陣織。錦・金襴・緞子・緞子。

応仁の乱、室町時代の中頃。時の将軍足利義政に世嗣がなく、その跡目争いが原因で、山名宗全率いる九万余の西軍は宗全の邸を本陣とし、花の御所に陣をおいた細川勝元等東軍十万余の軍勢とがぶつかり四つに向かい合った。11年間にわたる五百余年前の戦場の足跡は、堀川通上立光の西「山名町」に名残を留め、「山名宗全邸址」「山名宗全旧蹟」の石碑が建つ。京都市考古学資料館前に「西陣」の大きな石碑が建ち、西陣の由来を記す。

糸屋町・紋屋町の町名が並ぶ西陣は、手機約一千、力織機約七千台、出荷額七百億円、約七百の業者、直接、間接に従事する人約四万人の街。西陣織は、先染めした糸で紋様を織り出していく優れたデザインと卓越した意匠と技から創り出される織物。篋の音を聞き、心ときめく織物と人を包みこむ優しさに出会う。

安倍晴明(921-1005)

わが国第一の陰陽家といわれた安倍晴明。その誕生は謎に包まれている。竹田出雲の浄瑠璃「菅屋道満大内鑑」「葛乃英伝説」によると、晴明の父は大坂市阿倍野に住んでいた安倍保名。清少納言が「枕草子」で「もりはしのたのもり」と称えた信太の森を訪れた保名は白狐を助ける。白狐は葛乃葉と名乗り保名のもとに嫁ぐ。生まれた子が安倍晴明。正体がバレた葛乃葉は、歌を残し姿を消す。

恋しくば尋ね来てみよ和泉なる
信太の森のうらみ葛の葉

狐の霊力を持つ晴明は神祕化され、その能力は異常に増幅させられた。「大鏡」は、天体の異様な動きを読みとり、花山天皇が譲位することを予知したと記す。「古今著聞集」は、並んでいた瓜の中から毒をもつものを選び出したといい、「古事談」は、野晒しになっていた花山天皇の前世の頭蓋骨を祀ることで天皇の頭痛を治した話を伝える。「縁起記」は、左大臣藤原頼光が藤原道満に藤原道長を呪詛させたが、晴明の占いにより道満の居所まで発覚したという。晴明の子孫は土御門家と称し、天文道を独占した。

菅原道真(845-903)

宇多・醍醐天皇に重用された文人貴族。学者・政治家として才をふるった。寛平六年（894）遣唐使に任命されたが建議して降止。これより国風文化が盛える。昌泰二年（898）右大臣となるが、2年後藤原時平の中傷によって失脚。大宰権帥に左遷。失意のうちに生涯を閉じた。没後すぐ時平の急死、醍醐天皇の死につながる宮中清涼殿への落雷、天候不順などが続く。これらは道真の祟りによるものとされ、最高位の正一位太政大臣を追贈される。いつしか「天神さん」の愛称で親しまれ、合格祈願で有名な学問の神として信仰されるようになった。

流され侍ける時、家の梅の花を見侍て
贈太政大臣

東風吹かばにほひをこせよ梅の花
主なしとて春を忘るな

「拾遺和歌集」巻第十六・雑春
東から春風が吹く時期になれば、香りを（風に乗せて、西の果て九州の地まで）送り寄こしなさい、梅の花よ主人がいらないからといって、春を忘れるなよ

この歌に梅の木までもが悲しむ、太宰府まで飛んでいったという。



「北野天満宮」

コース概観

徳川家の盛衰を見続けた二条城の絢爛豪華な桃山文化の遺構に圧倒されつつ堀川通を北上し、西陣へ。多くの伝説を残す一条戻橋、安倍清明の清明神社、西陣織会馆にも立ち寄り、京の美術工芸に出会う。京都最古の花街、上七軒を通過して北野天満宮へ。古都が醸し出す優雅な雰囲気にも包まれ、菅原道真をしのび、学問向上への折願に出かけた。

地下鉄東西線二条城前駅下車。3番出口から歴代天皇の御遊地であった神泉苑へ。規模は縮小されたが朱塗りの橋のかかる苑池は、舟遊びに興じる大宮人の姿を想像させる。5月1日より4日間神泉苑狂言が奉納される。神泉苑の南には、からくり屋敷として知られる二条陣屋がある。一見普通の町家だが、忍者屋敷のような仕掛けで宿泊中の大名の身を守った。二条城南門前に「昔なつ菓子・格子家」がある。泥棒しても食べたいほど美味しいといわれた「どろぼう」を買い、二条城に向かう。

観光客が絶えない堀川通に面した東大手門から入る。右側に細長い番所を見て左に折れると唐門。伏見城から移されたといえられ、唐装風造りに豪華・竹虎・牡丹唐獅子などの豪華な彫刻がふんだんに施されている。唐門をくぐると見事な車寄せが目に入る。

国宝・二の丸御殿は、武家風書院造りの代表的な建物。六棟が雁行に並ぶ絢爛豪華な桃山文化の遺構。部屋数33、800畳余り。欄間彫刻や障壁画など、豪華な室内装飾に圧倒される。大広間に描かれた狩野派「松の鷹図」は傑作。大廳下

は、「キヌッキユ」と音が鳴る「鶯張り」になっている。慶長八年(1603)、家康は將軍宣下の祝いを行い徳川幕府が誕生した。その後、豊臣秀頼や後水尾天皇を迎え、大坂冬・夏の陣に出陣していった。時は巡り慶長三年(1667)、十五代將軍慶喜によって大政奉還が行われ、幕府265年の幕を閉じた。

二の丸庭園は小堀遠州の作庭。池泉回遊式庭園は大広間から眺められるよう造られている。二の丸から本丸へと歩きながら鑑賞する。本丸は寛永三年(1626)三代將軍家光によって増築された。内堀から城郭跡を偲ばせる雰囲気かわる。西南隅には伏見城の天守が移され、徳川幕府の絶大な権力を示す豪華絢爛な城が完成した。現在本丸には御所の北にあった桂宮の御殿が移築されている。

明治新政府が一番最初に接収した二条城は、京都府、陸軍省を経て宮内省の管轄となり二条離宮となる。大正四年(1915)、大正天皇即位の大典が行われた。昭和十四年、宮内省より京都市に下賜され、平成六年(1994)にユネスコの世界遺産に登録された。

堀川通を北上し、堀川に架かる一条戻

橋へ。一条戻橋は右手堀川に架かる。堀川通を挟んだ西に清明神社がある。今堀川通の交差点に西陣織会馆。作品や制作体験、着物ショウなど西陣織の魅力を楽しく紹介している。

鶴屋吉信は、創業二百年を迎えた京菓子のお茶屋。一階が店舗、二階がお休み処になっている。二階の一角にある菓遊茶屋では、菓子職人がその場で季節の生菓子をお茶に合わせ、お抹茶が楽しめる。

京都市考古資料館は、旧西陣織物館を活用した資料館。大正四年(1915)に建てられたモダンなレンガ造りの建物である。「西陣」と書かれた大きな石碑が立っている。市内から発掘された原形から近世にいたる出土品を、わかりやす

く展示している。入館料は無料。

北野天満宮は御所の乾に位置する。大きな石鳥居を抜けると石畳の参道が続く。松林は秀吉が北野大茶湯を催した所。出雲阿国が歌舞伎を披露したのもここ。右脇の「影向の松」は初雪の日に天神が現れるとされる神木。毎月25日は「天神さん」と呼ばれる縁日があつた。参道にそって屋台が並び、植木市、古道具屋や古着屋などの店が並び賑わう。本居宣長は『在京日記』に記した。「北野ちかく成ては、人せきあひて、とをりうべうもなし。芝居、物真似・商人・戯劇のたぐひ、数もしらず」

突き当たりの楼門の扁額「文道大祖風月本主」は菅公のこと。天満宮の勅額を掲げた壮麗な三光門、梅鉢紋と三蓋松の提灯が対をなして掲げられている。正面の美しい椀皮葺の社殿は豊臣秀頼が寄進。複雑な変化に富む八棟造りの屋根は、日光東照宮に継承された。天神さんといえ



は、「キヌッキユ」と音が鳴る「鶯張り」になっている。慶長八年(1603)、家康は將軍宣下の祝いを行い徳川幕府が誕生した。その後、豊臣秀頼や後水尾天皇を迎え、大坂冬・夏の陣に出陣していった。時は巡り慶長三年(1667)、十五代將軍慶喜によって大政奉還が行われ、幕府265年の幕を閉じた。

二の丸庭園は小堀遠州の作庭。池泉回遊式庭園は大広間から眺められるよう造られている。二の丸から本丸へと歩きながら鑑賞する。本丸は寛永三年(1626)三代將軍家光によって増築された。内堀から城郭跡を偲ばせる雰囲気かわる。西南隅には伏見城の天守が移され、徳川幕府の絶大な権力を示す豪華絢爛な城が完成した。現在本丸には御所の北にあった桂宮の御殿が移築されている。

明治新政府が一番最初に接収した二条城は、京都府、陸軍省を経て宮内省の管轄となり二条離宮となる。大正四年(1915)、大正天皇即位の大典が行われた。昭和十四年、宮内省より京都市に下賜され、平成六年(1994)にユネスコの世界遺産に登録された。

堀川通を北上し、堀川に架かる一条戻

ば牛。学業成就、病氣平癒などの願いが叶うといわれ、ピカピカに光っている。

境内西の深い樹木に包まれた御土居は、秀吉が京の区画整理のために築いた土堤。梅の名所としても名高く、菅公の命日に当たる2月25日の梅花祭には、門前の花街上七軒の芸妓による野点が行われる。

東門を出てすぐの三平餅で赤飯まんじゅうを頬張り、大鳥居前の澤屋で北野名物として親しまれてきた粟餅を賞味し、北野大茶湯で茶菓として用いられ、太閤さんが愛した味そのままの長五郎餅と老松の菅公梅を土産にバスに乗った。

- ▲コースタイム▼
- 地下鉄二条城前駅(2分) 神泉苑(5分)
- 二条城(35分) 一条戻橋・清明神社・西陣織会馆(10分) 京都市考古資料館(30分) 北野天満宮
- △地形図▼
- 2万5千||京都市西北部・京都東北部
- ▲費用▼京都駅||二条城前駅 230円
- 京都市バス 均一220円
- (問い合わせ先)
- 二条城 075(841)0096
- 北野天満宮 075(461)0005

〈山のレポート〉
十二支の山
申年の山

生駒 登峰

今年のえとは申である。猿は哺乳類の中でも一番人類に近い動物で、世界にはヨーロッパ・オーストラリア・北アメリカを除いた各地に分布している。

日本にはニホンザル一種が北海道を除いた各地に生息し、南は屋久島から北は世界でも最北限の生息地といわれる下北半島まで生息している。

私も屋久島や下北半島はもちろん、各地で自然に暮らす野猿を何度も見かけている。また餌づけされた公園も各地にあり、いつでも見ることができが、高崎山(大分県)の数百匹の大群には驚いた。

猿は神の使いとしてインドあたりでは神聖視され、日本でも山王権現のお使いが猿であることはよく知られている。古くは天孫降臨の神話に猿田彦の名がある。

昔から「猿蟹合戦」の民話は有名だが、

その行動を人に当てはめて、滑稽さやずる賢さを表現する動物として親しまれ、動物園でも人気のものである。
猿の付く山はたくさんあり、45山を数えるが、申や猿は少ない。ちなみに猿は中国語では猿(猿子)という。

山名に猿が付けたルーツとしては、庚申の信仰物や猿田彦がまつられている。また単に猿がたくさん棲んでいたたり、その猿が餌をあさりに来る所から猿喰山と言ったり、草原状の形状を現す言葉の「去る真砂」からとか、地形上ではサルは崖崩れの意味もある。私の調べた所を示してみると、

- | 名称 | 標高(約) | 20万図 | 5万図 |
|----------|--------|------|------|
| (1)猿面山 | (1998) | 高田 | 岩菅山 |
| (2)庚申山 | (1901) | 日光 | 男体山 |
| (3)猿ヶ馬場山 | (1825) | 金沢 | 白川村 |
| (4)猿倉山 | (1482) | 日光 | 小林 |
| (5)大川猿倉山 | (1455) | 新潟 | 宮下 |
| (6)猿ヶ山 | (1441) | 金沢 | 下梨 |
| (7)猿政山 | (1265) | 浜田 | 頓原 |
| (8)猿塚 | (1221) | 岐阜 | 能郷白山 |
| (9)猿舞山 | (1093) | 盛岡 | 大川 |
| (10)猿山 | (1000) | 静岡 | 下田 |
| (11)猿倉山 | (997) | 村上 | 大鳥池 |

- | | | | |
|----------|-------|----|------|
| (12)猿駈山 | (968) | 熊本 | 八ヶヶ池 |
| (13)猿倉ヶ岳 | (907) | 新潟 | 宮下 |
| (14)猿倉森 | (858) | 秋田 | 森吉山 |
| (15)猿降山 | (810) | 高梁 | 横田 |
| (16)猿喰山 | (796) | 広島 | 加計 |
| (17)猿倉山 | (688) | 高田 | 十日町 |
| (18)猿ヶ平 | (679) | 八戸 | 田子 |
| (19)猿投山 | (629) | 豊橋 | 瀬戸 |
| (20)猿ヶ山 | (626) | 山口 | 徳佐中 |

標高順に記載したが、最高峰の猿面山は地形図で確認はできなかった。猿ヶ馬場山は日本三百名山で、猿政山・猿投山には1等三角点が設置されている。
このように多数の山があるのに、なぜか近畿の二府四県には一山も見当たらない(ご存知の方は教えてください)。そのためか、関西の岳人には馴染みが薄いように、私にしても1等三角点の二山には登頂しているが、とくに猿の山を意識していなかった。他に全く記録がない。
猿ヶ馬場山はもとも登山路のなかった山で、私が熱を上げていた頃は登れなかった。最近では登頂の記録を見るようになり、それなりにルートが確定してきたらしい。1等三角点の猿政山や猿投山は、登山道もあり簡単に登れる。

〈山のレポート〉
《山・詩・夢》
帆柱山

紀平 龍雄

もう30数年前のことになる。北九州市八幡出身の女性に恋をした。いちおう親にもということ、大阪から八幡へ行くことになった。恋人の親に会うというのはいかにも気恥ずかしい、どんな挨拶をしたらいいのか。当時は新幹線もないから、仕事も休まねばならない。それに八幡なんて八幡製鉄(新日鐵の前身)の本拠地だから、煙ももうの町だろう。どうも魅力がない、気が進まない。

初夏の気配も感じられる春の夕暮れ、八幡の駅に降り立った。喧嘩と煤煙の町を予想していたのに、駅前は意外にすっきりとし、大阪などよりよほど整然としている。市内電車(西鉄)も走っている。そして目の前に、視野に入りきらないほどすっきりと大きく、形のいい山が坐っている。彼女は少し誇らしげに帆柱山(6

23m)注)だと教えてくれた。これだけ間近にあって整っているから、さぞ市民に親しまれているだろう。中腹に動くものがある、頂上までケーブルが走っているという。一度にこの山が気に入って、急に八幡の町に親しみを覚えた。どんな挨拶をしようか、車中ずつと頭にこびりついていて重い気分が消えていた。
その夜、どんな挨拶をしたのか、どんな話があったのか、親父さんと酒を飲んだ。魚が新鮮だった。明くる日は先祖のお墓へ報告した。墓からもくっきりと帆柱山が見えた。この墓地は桜の名所で、その時期には隣近所誘い合わせ、ここで花見をし、弁当を食べる。そして子供たちは桜の木と墓の間を走り廻って遊んだらしい。それに相応しい眺めが広がっていた。

それから何年かして帆柱山に登った。ケーブルで登った。今度は幼い子連れでいた。親元ばかりでなく、別の所にも泊まってみよう。この夜は親子3人、帆柱山頂上の国民宿舎「山の上ホテル」に泊まった。夕方遅くまでセミが鳴き、洞海湾を背にして八幡の町の夜景が美しく

帆柱山遠望



た。頂上の展望台には「鉄の都」と題する北原白秋の詩碑がある。
たかる人波さすがよ八幡山は帆ばし海は北舟は入海洞の海
ここの御空で立つ煙ぢやえええよ立つ煙ぢやえ

昨年、親父さんの法事に八幡へ行った。法事のあとの食事のとき、話題が帆柱山のことになった。妻の従姉が、亡くなった私の母が勤めていた小学校の校歌にも帆柱山が歌われていて、それも北原白秋の作詞だと自慢していた、と言う。すっかり調べて送ると約束してくれた。そして、そんな約束などすっかり忘れていた頃に彼女は約束を果たしてくれた。「昨日、柳川の白秋資料館に行つて小学校の校歌の歌詞を写してきました。このお菓子は昔から柳川にあるものです、どうぞ」と添えられていた。

白秋は福岡県柳川の出身。同じ県のことだし、ひょっとすると幼い日の友人がこの小学校の教師であったかもしれない、それで作詞したのだろうか。校歌は四番までであるが一番のみ、ここに写す。

八幡市立平原尋常小学校校歌

(北原白秋作詞 山田耕作作曲)

帆柱山の空近く、
仰げよ、風のすずしき緑。
平原、平原、開けよ、この窓。
鐘よ鳴れ、晴れし日の鐘。

らんら、らん、らん。
らんら、らん、らん。
われら、われら、つどはむ。

平原は「ひらばる」と読む。前原・唐原・神原・田原坂、九州では「原」を「ばる」と読む地名が多い。お終いに「昭和五・一〇・三〇」とある。とすれば、70年以上前の詩である。戦争が終わってみると、戦前の校歌はいかにも時代に相応しくない、ということが多い。あちこちの学校で校歌が作り直された。しかし平原小学校の校歌には古さが全く感じられない。今も生き生きとしている。最後の「つどはむ(集わん)」は二番では「勉めむ」、三番では「修めむ」、四番では「励まむ」と、やや説教調だが、何より平明。内容もそうだし、弾むようなリズム、小学生が思わず大声で歌い出したくなるような歌だ。今も子供たちに愛唱されているのではないか。いろいろな調べ事をするのは楽しい。なかなか解けなかった疑問がやっと解けるのは、山の中で道に迷い、あちこち苦勞して探していた時に標示や踏み跡、テープを見つけた時のように嬉しい。久しぶ

(追記) その後、いくらかのことがわかった。

○北九州市立平原小学校は1993年4月、隣接する尾倉小学校・天神小学校と統合され、北九州市立皿倉小学校となった。人口減と少子化による児童数減少対策のためと思われる。

戦後も歌い続けられてきた白秋の作詞した校歌はその役割を終え、新たに



皿倉山中にて

皿倉小学校校歌が制定された。健康的な歌だが、残念ながら跳ね出したくなるようなリズム感はない。その一番冒頭部分は「仰ぐ皿倉 帆柱とつづくみどりの峰はるか」とある。帆柱山は北九州市の象徴的な山だから校歌の一節に歌われて当然であるが、ただ「仰ぐ」、「みどり」の歌詞に白秋への敬意がこめられているようである。

○帆柱山山頂の「鉄の都」の詩は昭和5年に作られた、校歌と同じ年だから、この旅の途中で白秋は帆柱山にも登ったのだろう。

当時、鉄は日本の重要産業であり、八幡はその中心地、「鉄都」と呼ばれていた。煙突と、そこから噴き出す煙はその象徴であった。

詩碑の説明によれば、この他に白秋は八幡に関係して「八幡製鉄所所歌」「八幡小唄」なども作詞しているとのことである。

○平成5年3月に行われた平原小学校の閉校式要覧を北九州市教育委員会から

観光バスなら 確実第一の 太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
 - ・中型 (28人乗り)
 - ・中2階 (45人乗り)
 - ・大型 (55人・60人)
- いずれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市湊池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(8745) 3911・FAX 06(8745) 3989
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

りに帆柱山に登りたくなった。しかし調べ物は疑問が解明されるたびに、また新たな宿題が増えて困る。

(注) 帆柱山 この山系一帯の山を帆柱山と称し、山頂周辺の帆柱山自然公園は北九州市民の憩いの場である。皿倉山(622㍎)・権現山(617㍎)・帆柱山(488㍎)・花尾山(351㍎)からなる。帆柱ケーブルは皿倉山まで通じている。神功皇后西征のとき、この山の杉の木を船の帆柱にしたので、この名が生まれたという。

送ってもらった。平原小学校の閉校から閉校までの生徒数は次の通りである。

1913年(大正2)	開校12学級	807
1930年(昭和5)	校歌31	1957
1939年(昭和14)		2347
1967年(昭和42)	28	1076
1993年(平成5)	閉校14	357

一番多い時は38学級、全校生徒2347人。1学級当たりの生徒数は昭和5年は63人、閉校時は25・5人。産めよ増やせよの子供がわんさといいた時代と少子化の現代と大いなる相違である。また鉄都八幡の、さらに日本における鉄鋼産業盛衰の推移をも見るようでもある。

小休止

継続会費の払込みには、氏名のほかに必ず会員番号を記入してください。本紙編込みの「払込取扱票」の表面通信欄にS.H.C.N.を記入するようになっていました。ここが空欄だと確認に手間がかかります。会員番号は会員証のほか、毎月の雑誌の封筒にも印刷されています。

1等三角点のある

岨石山

中級コース(★★★)

慶佐次 盛一

岨石山は大阪府岳連が大坂50山に選定した山で、山頂には1等三角点本点がある。以前は北側からのほっきりした登路がなく、山頂に登っても全く展望は得られなかった。しかし、最近地元の高志家たちの手によってコースが整備されつつあり、山頂も雑木が切り開かれて展望がよくなっている。皆さんにおすすみたいコースとなった。

ここでは岨石山から井関峠を過ぎ、地蔵山から青少年の森展望台を経てJR阪和線紀伊駅へくだる、やや健脚向きのコースをガイドする。なお、途中の井関峠から阪和線六十谷駅へくだればコース短縮できる。

南海箱作駅下車。国道26号線を進んでもよいが、国道手前の旧孝子街道を西に進んだほうが静かだろう。旧道はやがて国道に合流してそのまま進むと、左側にまだ地形図に載っていない広い車道が出来ている。奥にはアルミ工場の建物が見えるので、そちらの方へと左折する。

岨石山への道は、アルミ工場を過ぎたあたりで広い車道の右側下となるから見落とさないように進む。南海霊園への道標に従い、右側に広がる田畑の風景を見ながら進むと南海霊園である。

霊園からは轍の残る地道となり、大河内池に着く。前方に岨石山の山並が見え、憩うにはいい場所だ。さらに10分ほど進んで右側の「岨石山登り口」の標識に従って谷沿いに登るのだが、「松茸山につき立入禁止」の札もあるから、その季節には注意が必要だ。

谷に沿った細い道は傾斜を増し、石がゴロゴロして歩きにくい。ここかしこに手づくりの丸太階段が設置され、植物に名札が付けられているのが微笑ましい。

大滝の前は小さな広場になっており、

岨石山の1等三角点



その上のタタミの流は竹の樋が架けられ水場にもなっている。この先長滝を下に見て、急な登りが続くが手づくりの階段に助けられる。

やがて「加茂の森」、続いて「杉谷」の標識が現れて傾斜はゆるむ。もう稜線は近く、最後の丸太階段を登ると岨石山西方稜線に出る。ここに「下り口」の標識もある。

左折してほぼ平坦な稜線をたどるとベンチもある「頂上北展望台」で、山麓に広がる町並を見下ろし、関西空港や淡路島などが見渡せる。

さらに進むとすぐに岨石山(420m)である。旧陸軍の要塞地で、昔は容易に立ち入れなかった山である。標石が傷んでいるのが気になったが、これもベンチがあり先程の展望台と変わらぬ展望に恵まれ、その姿容ぶりに驚いた。

岨石山から大福山へと向かう途中、コース整備中の男性2人と出会った。ありがたいことである。大福山は葛城行所の一つで、ここにもベンチがあり足下に紀ノ川を見下ろし、和歌山市街や遠く長峰山脈の山々が望める。

道標に従い紀泉山脈縦走コースを井関峠へと向かう。メインコースだからハイカー達ともすれ違う。途中、筆法ヶ嶽と同じ字を書いて、「せんぼうがたけ」「くじぼうがたけ」と読み分ける行所ピークを二つ越えて井関峠に着く。峠には石仏がまつられ、右折してJR六十谷駅へくだればコースを短縮できるだろう。

峠から紀泉山脈縦走コースを進む。しばらく急登すると、後は樹林のなかのなだらかな稜線が続く。次のピーク地蔵山(446m)への登りはやや急だが捲き道もついており、どちらをとっても時間的に大差はない。地蔵山から縦走コースを離れ、右折して青少年の森展望台へ向かう。ほぼ平坦

な道をたどるとすぐに青少年の森の展望台に着く。

展望台は開けた広場で、記念碑の横に大きなウバメガシの木が一本生えていた。ここはこのコース一番の景勝地で、南側の展望が実にすばらしく、多くのハイカーたちも憩っている。方位盤もあるので、ゆっくりと展望を楽しむといいだろう。

青少年の森から六角堂を経て下りが続き、四辻を過ぎてゆるやかな起伏を越えながら次第に高度を下げて行く。地形図に道の表示はないが、はっきりした道が続く小さな道標が導いてくれる。

コースはけっこう長く、適度に休憩をとりながら進むと最後の竹林の下りとなり、阪和自動車道のガード下に出る。ここからJR紀伊駅までは10分足らずで到着できる。



Aコースタイム

南海箱作駅(45分) 大河内池(10分) 登山口(15分) タタミの流(30分) 西方稜線(20分) 岨石山(10分) 大福山(30分) 井関峠(30分) 地蔵山(3分) 青少年の森展望台(1時間20分) JR紀伊駅

△地形図 2万5千ニ尾崎・淡輪

(里山シリーズ18 今津・天壇)

展望絶好、自然林の尾根

武神嶽南稜(湖北武奈ヶ嶽)

一般コース(★)

長宗 清司

JRバスが、近江今津駅前から出発して国道303号線を小浜に向かう途中、石田川沿いに北上すると「追分」のバス停あたりから正面の奥にそびえて見えるのが赤石岳と武神嶽(湖北武奈ヶ嶽)の稜線である。冬季白く輝く雪稜は、めずらしく同県内の分水嶺である。

この山塊は従来、登山口として角川集落の中ほどの「光明寺」の裏手から尾根に取りつくコースか、最近開発された石田川沿いに5.5さかのぼり、ダムを過ぎた先のワサ谷からも登れるが、今回は新たに、今まで「やぶ漕ぎを強いられてとても登るのは無理」と敬遠されてきた、南側から登る一般道を開拓したので初め

て紹介する。

国道303号線の水坂トンネルと寒風トンネルの間には、四つばかり南北にのびる尾根と深い谷がある。西へくだるほど勾配はゆるやかになって、福井・滋賀の県境寒風トンネルの手前1000級の「芝ヶ谷」から関電の巡視路をたどれば、尾根筋に立つ鉄塔下に容易に着ける。この谷は国道303号線の北側にあり、南側に碎石現場をもつ「高島鉦建事務所」。北側のガソリンスタンドに隣接した駐車場の寒風トンネル寄りの小谷である。

JRバス「近江杉山」のバス停から進行方向へ歩き、福井県側からは「天壇口」のバス停から寒風トンネルを抜ける。ともに1.5強の道程である。

芝ヶ谷の流れに沿って1000級も行くくと、谷が二分する。左のアルミ梯子の架かる方へ入る。あとは小道を登れば鉄塔下に出る。ここからは次の鉄塔下までカシの木の繁る薄暗い尾根道をたどる。鉄塔②を通過。鉄塔③の広場に立つと背後にどっしりと「二の谷山」が望める。すでにこのあたりで一大展望地の様相がうかがえる。

やがて、巡視路は左へ山腹を捲くが、

奈ヶ岳、県境尾根、小浜湾が左から右へ望める。天気がよければ、青葉山の姿も見える。

これより頂上へは、八ヶ所同じように展望の広がる台地(探地・ススキの原・獣の遊び場)が断続的に現れて、疲れを忘れさせてくれる。

標高6000級あたりには、山中の融雪が窪地に溜まり池となって残っている。「武神ヶ池」と名付けることにした。

下枝が雪折れで地を這うようにのびている灌木帯を過ぎて、胸丈のなかの木越しに729級地点では、谷をへだてて武神嶽の本嶽が左右に長々と望めた。比良



武神嶽(湖北武奈ヶ嶽)付近略図

の西南稜そっくりの景観である。

苦むした鞍部を過ぎると左に古い崩壊跡があり、やせ尾根がしばらく続く。

最後は、見事な草原に出る。運がよければ毛並の美しいシカの戯れる姿に出会えるだろう。低木の草原には無数のけもの道がある。頂上に向かう確かなけもの道をぬくと、篠竹の密生地に入るが、足元はフラットでピークに近いことを知る。頂上を示す標木から10級の地点の主稜に出る。尾根は幅広く刈り込まれた登山道である。北の三重嶽への道を50級行けば、一大パノラマが楽しめる。

この山が、一部のスキーヤーにしか知られていなかった頃は、一般には三十三間山・箱館山、日本海に面した若狭の山々が有名だった。

最近では地元有志により、町おこしの一環として便利な家族旅行村「ピラダスト今津」が誕生した。箱館山、平池の観光を足がかりにして、さらに周辺の山々が見直されつつある。東の近江坂(大御影山を含む尾根道)や滝谷山にも

武神嶽(湖北武奈ヶ嶽)頂上



登山道は目の前の尾根に取りつく。季節によってトリカブトが咲き風が心地よく吹き抜ける尾根道は、標高5000級の手前約25級が急勾配となる。

ゆっくり登り切った所はススキの原でヤマボウシの木が周辺を彩る。灌木はヤマツツジの群生。ヒオウギも咲く。イオナ展望台だ。

景観はすばらしく、琵琶湖、比良の武

登山道が復活・開発された。

東の山々から木の間越しに見る武神嶽はやさしいが、若狭駒ヶ岳・三十三間山そして南の二の谷山から見る武神嶽の姿は堂々として、古名を彷彿とさせる。同じ山脈の北にそびえる最高峰の三重嶽をしのぐ山である。

★イオナ展望台(今津町・小浜市・武奈ヶ岳の頭文字から)

▲コースタイム▼

JR近江今津駅(バス40分) 近江杉山下(15分) 芝ヶ谷登山口(20分) 第一鉄塔下(15分) 第三鉄塔(45分) イオナ展望台(10分) ヒオウギ台(15分) 武神ヶ池(10分) 獣の遊び場(20分) やせ尾根(15分) 展望草原(40分) 武神嶽(湖北武奈ヶ嶽) 山頂(20分) 赤石岳三角点(1時間) 光明寺(20分) 角川バス停(バス35分) 近江今津駅
△地形図▽2万5千1:10000
(問い合わせ先)

今津町役場(産業振興課)

☎0740(22) 6835

JRバス(今津営業所)

☎0740(22) 2136

残雪のワカン山行

土蔵岳

中級コース(★★★)

金谷 昭

土蔵岳は新ハイ例会山行で取り上げられている「近畿百名山」には入っていない。元祖近畿百名山にはその名を連ねていたが、百名山の地域的偏りの是正と、一般登山者向けの山への編成替えのため、選から漏れてしまったようだ。

土蔵岳は、地形図(2万5千)美濃川上には横山岳・三国岳とともに三山しかない山名記載の山であるが、夏道はなく、やぶ過ぎに終始する。その山容は東西に連なる大ダワ(コツカダイラ 1067・641 2等三角点)と猫ヶ洞(1065・441 3等三角点)に挟まれて風采が上がりず、そのうえ、三角点無しとなれば外されても致し方なく、いわゆる「不遇の山」

となってしまったようだ。しかし、この土蔵岳の真価が発揮されるのは、雪の多い湖北の山の例に違わず、春の残雪期である。すばらしいブナ原生林の白い街道を自由気ままに歩き廻り、無雪期には得られなかった眺望が楽しめる。またかつて栄えた土倉鉱山の廃墟を見るのも他の山にない楽しみである。ただこの時期の本山塊には雪崩が多い。無雪期に多く見られる樹木のない草付き斜面は全て雪崩斜面といってもよい。今回は、比較的登りやすく、雪崩の危険のない土蔵岳西南尾根を紹介する。

木之本町から国道303号線を東に向かい、金居原を経て八草トンネル手前の土倉谷との出合(出口土倉)に至る。ここまではダムとその関連工事(92年中止となつたらしい)のため、冬季でも除雪されている。この出合から土蔵岳に向かつてのびる長大でゆるやかな尾根を往復しよう。

出合背後の杉林の尾根に取りつく。最初は急登であるが幸い下生えはない。すぐ右に昔の人家が作業小屋跡の石垣が二段出てくる。

さらに急登すると、今度は左にコンク

尾根稜線のやぶの薄い所を拾って登って行くと、下生えが刈り取られて少し歩きやすくなり、赤い境界杭が出てくる。しかしよく見ると、杭の中には傷だらけで熊にでも齧られたとしか考えられないものがあり、熊の生息地に入ったことになるのであろうか。

と、左側(土倉谷)から杉植林の広い尾根が合流する。右側(登谷)の雑木林との境界を行けばよいが、下山時には尾根分岐が広くて迷いやすいので赤テープが欲しい所である。このあたりの雪面は樹木の影で固く締まっているが、傾斜がゆるいのでアイゼンを着けるほどでもない。この植林も高度約750m付近で元の雑木林に変わっていき、雪も適度に締まって快適なワカン山行となる。

登となるが、ここも下山時に迷いやすくテープの欲しい所である。これを登り切ると県境界の937m分岐峰の頂上台地になる。ここから土蔵岳にかけてはすばらしいブナ疎林の稜線台地となる。視界も広がり、登高欲もいやがうえにも高まるであろう。



土蔵岳付近略図

937m分岐峰の頂上で初めて土蔵岳の頂上を目にするが、土蔵岳より高い東西に連なる大ダワと猫ヶ洞に挟まれて、もうひとつ風采が上がらない。ここから始まるブナ巨木の稜線台地はすばらしく、また奥美濃の雄、蕎麦粒山のピラミダルな勇姿をも目にする事ができる。分岐峰から稜線をやや左にとり、ゆるくくだった高原状の最低鞍部からの登り返しは急登となるが、ブナ巨木の点在する大斜面は山スキーヤーにはこたえられないだろう。この大斜面を登り切るといったん傾斜はゆるむものの頂上直下で再び急登となり、飛び出した所は頂上台地の西端で、土蔵岳頂上(1008m)は台地の東端の高まりである。立木に取り付けられた山名板で確認できる。

頂上稜線



リートの水槽と水路が出てきて、その管理歩道らしき踏み跡が左の土倉谷より登ってきている。

さらに登り、杉林を抜けて雑木林になると傾斜はゆるやかとなり、尾根稜線に凹型の袖道跡が出てくる。生え込みが激しく、とても歩けたものではないが、2月末頃ともなればこれらの雑木にマンサクの新芽が膨らみ、早春が感じられる。



土蔵岳山頂にて



旧土倉鉾山

やはり鋭峰の蕎麦粒山とボリロウムのある金鷲岳が圧巻である。頂上の南面には無雪期にはメタ場になるのであろうか、頂上より3〜4分低い広い台地があり、北風を避けた日溜まりは休憩場所に最適で、金鷲岳を前景に昼食をとれば至福のひとつが得られるであろう。

下山は登りのトレースを忠実にたどればよく、937分岐峰からの二ヶ所の尾根分岐を間違えぬことが肝要である。

下山後、時間が許せば土倉谷に入り、旧土倉鉾山の廃墟を見るのをおすすめする。明治40年に銅鉾発見以来、銅・硫化鉄を産出し、最盛期には年間産出量は約三万トン、従業員は256人(家族共々800人)が働いていたという。鉾源枯渇により昭和40年に閉山している。出口土倉から10分の鉾山跡は、南米インカのマチュピチュの空中都市を思わせる異様な風景でもある。

(平成15年2月27日歩く)

山の絵 2 人展

原 眞・内田嘉弘による国内からヒマラヤの山々の油絵展です。

2004.2.6(金)～2.11(木)
am 11:00～pm 6:00
(最終日はpm 5:00まで)

オプト・ギャラリー

京都市中京区寺町通り御池下る東側
☎ 075-241-1333

倉谷出合

△地形図√2万5千II美濃川上

(注)他にコースがあるが、雪崩斜面が多く絶対に谷筋に入らないこと。過去に土倉鉾山の雪崩被害の歴史あり。テープ・道標なし

・マイカーの場合

国道303号線と土倉谷に7〜8台駐車可、国道303号線八草トンネルは3月末まで閉鎖

・バスの場合

JR木之本駅より金居原行き終点下車し、土倉谷出合まで徒歩50分

(問い合わせ先)

木之本町役場 ☎ 0749(82)4111

特選コースガイド④

鈴鹿

一続・近江側から登る鈴鹿の山々⑤
鞍掛橋から大君ヶ畑へ
すきたん すす 存 ちの

鈴北岳・鈴ヶ岳・茶野

健脚コース(★★★)

磯部 純

これまでの岩野さんの例会「鈴鹿を歩く」では、鞍掛橋を基点として御池岳へ登る例会は何回あったが、いずれも池ノ平や奥ノ平を巡るルートで、鈴北岳から西へくだる例会はなかった。それが、この日の例会では鞍掛橋から鈴北岳へ登り、初めて鈴ヶ岳から茶野まで足をのびして大君ヶ畑へくだった。出発点の鞍掛橋と下山する大君ヶ畑の距離があるので、当然置き車が必要になる。

大君ヶ畑の東の道の広くなった所へ置き車をして、鞍掛橋まで走る。鞍掛橋から御池林道を東へ歩いて、伊勢谷の分岐で橋を渡り、尾根を廻り込んだ所にある送電線巡視路の印「火の用心」の標識が、

この日の取付点である。巡視路にははわかりにくいのが、注意して見れば斜めに道が刻まれているのがわかる。その巡視路をジグザグに登って行く。斜面の下部は杉の林だったが、上の方は檜の林。やがて巡視路が斜面を斜めに横切る地点まで登ると、その巡視路と分かれ尾根に取りつく。取付点から30分、やっと一番目の送電線鉄塔へ到着する。最初から急斜面で息が弾むが、地形図を見ると、直線距離にしてほんの400分を登ったに過ぎない。

この例会の時は、このあたりから雪が深くなり、ここでワカンを着着した。岩野さんの雪山例会ではいつもそうだが、全員がワカンを持ってくることはない。

この日もワカンを持ってきている人は参加者の三分の一程だったが、ワカン隊が先頭を歩き、ワカン無しの人がつぼ足で後に続く。40人近くが歩けば、トレースも固まり、後ろを歩けばワカン無しでも十分登れる。さらに尾根を登り、30分まで二番目の鉄塔。そこから上は杉や檜の林はなく、二次林へと変わる。斜面は相変わらず急勾配。時折、足を休めて後を振り返り、林の切れ目から北方の景色

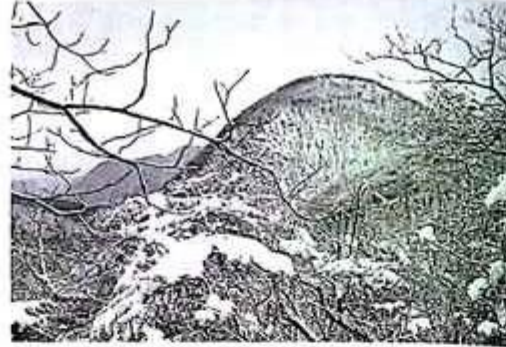
鈴ヶ岳頂上



を垣間見る。すぐ前にある霊(ミコト)仙山の右奥に、雪を真っ白に被った伊吹山の姿がクッキリと浮かんでいた。さらに登って行くと、美しい伊吹山の姿は焼尾山の陰に隠れて見えなくなってしまう。やがて傾斜がゆるくなると、静かな雑木の樹林帯。そこを突っ切ると奥境の鞍掛尾根。尾根にはトレースが残っていた。尾根を少し登ると樹林が切れ、いつもの



鈴ヶ岳から茶野へくだる疎林



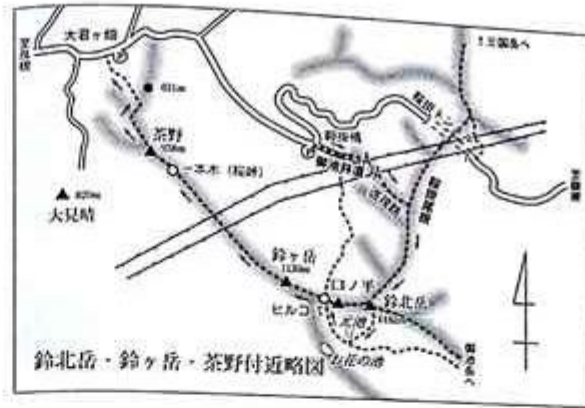
元池を過ぎた斜面からの鈴ヶ岳

鞍峠からひと登りして林を抜けると、小さなピークの木に「茶野」と書かれた標識が下がっていた。標高点938㍎のピークである。岩野さんからは、その先の西に突き出ている高台を「茶野」だと教えられていたが、西尾寿一著「鈴鹿の山と谷」(チカニヤ出版)では、標高点938㍎を「茶野」としている。いずれ

▲コースタイム▼
鞍掛橋(10分)伊勢谷分岐(2時間)鞍掛根(1時間)鈴ヶ岳(1時間15分)鈴ヶ岳(1時間)茶野(1時間20分)大君ヶ畑

△地形図▼2万5千1:標立

ゆるい傾斜の雪原を登って行くと、標高点1056㍎のピーク。キハダの池へくだる分岐である。前方には鈴ヶ岳の稜線が通か上の方に見えていて、雪の斜面には人の歩いたトレースがしっかりと刻まれていた。いったんくたつて最後の登りにかかる。尾根に生える木々は霧氷の花を付け、その間をめぐって登って行く。



鈴ヶ岳・鈴ヶ岳・茶野付近略図



鈴ヶ岳中腹から見る雲仙山

斜面は次第に傾斜を増して行く。鈴ヶ岳に到着すると、山頂付近の小木には「エビのしっぽ」が飾り付き、厳寒の様相を物語っていた。北に広がる大展望を満喫し、目を池ノ平へ移すが、白い雪原に動くものを見ることは全くない。鈴ヶ岳から鈴ヶ岳へ向かうには、ピークから尾根を西へくだるのが普通だが、いつもながら、このリーダーは楽な道を歩かせてくれない。わざわざ元池の東から南をかすめ、お花の池のある尾根の間の谷の方へくだり、斜面を横切って行く。元池の南の二次林の急斜面を捲いて進むと、そこは口ノ平から南へのびる谷。雪の多かったこの日は思いのほか時間をくってしまい、ヒルコバでの昼食予定が思わぬ地点となってしまった。冬季は、予想以上に時間がかかるから、余裕をもって歩くことが大切だ。

そこから谷の西の急斜面を横切り、北へ斜面を廻り込むとヒルコバ。この名称の由来ははっきりしていないが、コバという呼び名から、伊勢尾へ大君ヶ畑から通っていた炭焼きに従事していた人たちの呼称なのだろう。ヒルコバから鈴ヶ岳へは、ほんのわずかの登りだが、斜面は

急登を登り切ると東方が開けている。御池岳テールランドの右手には鈴ヶ岳の頭も覗いていた。この場所は鈴ヶ岳の東端で、30㍎も西へ歩くと鈴ヶ岳山頂。大きな木のそばに「鈴ヶ岳」と書かれた古い標識が立っている。

見上げるように急である。

山頂から北西へのびるゆるい尾根をくだる。冬でなければすばらしい二次林が満喫できるのに、雪斜面は枯れ木状の林。そんな疎林をひたすらくだる。いったん右へ曲がり、細い尾根へのると送電線鉄塔。その先のもう一つの鉄塔のある鞍部が鞍峠。一本木とも呼ばれている峠である。昔、大君ヶ畑から伊勢尾へ炭焼きに通う人たちに利用されていたこの峠も、今では御池岳へ登る岳人に知られるだけになってしまった。

鞍峠からひと登りして林を抜けると、小さなピークの木に「茶野」と書かれた標識が下がっていた。標高点938㍎のピークである。岩野さんからは、その先の西に突き出ている高台を「茶野」だと教えられていたが、西尾寿一著「鈴鹿の山と谷」(チカニヤ出版)では、標高点938㍎を「茶野」としている。いずれ

せせらび

題字・小林玻璃三

一ページでした。

(大山崎町 南 寛子)

10月初旬、徳島県の剣山(1955m)へ登った。

見の越から西島の間はリフト利用だったため、標高差240mを登り下りしたに過ぎず、登山というよりも、少しキツイ感じのウォーキングを済ませたといい感想である。

登りは健脚とされる尾根道をたどって眺望を楽しんだし、下りは神社コースを利用したので大剣神社に参詣し、御神体の御塔石を見上げることができた。この石灰岩峰が剣山なる名称の由来になったとされるものである。

下方の御神水は日本名水百選の一つであった。

源平合戦で壇之浦にて入水したと伝えられる案徳天皇が、実際にはこの地に逃れていて、崩御の後は火葬されたという伝説が、その宝剣が頂上に埋められたため、元々の太郎太といふ山名が剣山に改められたという話も興味をそそる。頂上に立てば、屋島の合戦の後、平家の

夏の終わりに北アルプス本谷から南岳に向けて歩きました。横尾山荘6時30分発、本谷橋7時50分、本谷川右俣コースを出発。ほどなくやぶ漕ぎを終えて本谷渓流渡渉の始まり。屏風の頭を背にガレ場、渡渉、沢登りを繰り返しながらスリル満点の道なき本谷カールを登りつめる。急斜面の岩場ではKがリュックをやくそくめ味に放り投げ。それでも息切れ寸前で登り続けました。出会ったのは動物の糞のみであの北アルプスの壮大なイメージとは大違いました。ひたすら登りつめて、11時30分本谷川源流にようやく到着。そこは沢の轟音もない、大草原の静かな夢の別天地でした。

遅いチングルマの満開、数十種類の花畑、源流の水の美味しさ、景色と静かさを全てが調和して、登りの苦しさを忘れ、自然のすばらしさに満足感を味わうことができました。行く手をおおう風14号の真っ黒な雨雲のなか、南岳を目指して出発。岩場、くさり場をのりこして3000mの稜線縦走路を強風に向かって歩き南岳通過、16時20分南岳小屋到着。興奮冷めず、台風の前雨風のなかをよくがんばったと3人パーティで乾杯。お互いに女性であること、年齢も都会の生活も仕事も全て遠くに追いやって、自分の両手両足で踏ん張って歩けたことに満足できた夏山山行の

落人が再起を期すべく馬術訓練していたことから、草原の広がると剣山山頂が「平家の馬場」と呼ばれていることも想起された。

もちろん、山頂からの展望はすばらしかった。眼前には弟分の次郎次が美しく眺められたし、遠く三嶺の稜線も認められた。朝から晴天だったが、奥深い山地の関係か次第に曇り空となり、霧も沸き上がってきた次郎次も隠され、やがて全く見えなくなってしまうことが残念だった。(枚方市 東谷 宏)

10月初旬、丹波の櫃ヶ嶽を歩いた。羊ヶ岳とも呼ばれ、十二支山行をやる人にもってこいの山だ。本来なら正月に歩くのだが、なぜか機会がなくてこの日になった。

小野の集落に駐車し、南東に破線の道を行くと秋の花がいっぱいだった。きょうのメンバーは「葉っぱも細大瀾らさず」との思想が濃厚(笑)だから、ワイワイ言っただけで進まないう。尾根に取りつくと道はなくなり、急登を突き上げるとそこが櫃ヶ嶽だ。

往復するだけだと1日の山行にならないので西に雨石山を目指す。爽快な尾根歩きで546mから急登の595mを経て雨石山611mに至る。下山は東に戻り、595mと546mの鞍部から北東に沢筋をくだるが道らしき道はなく、ようやく車に戻った。

ハイカーの宿・池の平温泉 ナガサキロッジ
百名山を二つ登れる山小屋
黒沢池ヒュッテ
〒944912100 新潟県中頸城郡妙高高原町の平温泉
025518612261
休憩所 入浴も歓迎
10名以上マイクバスで送迎
箱根仙石原温泉
福 島 館
〒250106631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原139
04601419041

新ハイキング選書

最新刊

第24巻

山岳巡礼

春の穂高、夏の大雪山、秋の劔岳北方稜線、冬の御嶽、ひとり拓く。本格的に山に取り組む人への良き道案内書。

佐藤 光雄 著 Ⅱ 紀行案内Ⅱ

B6判362頁
定価1680円

(税込)

●本誌添付の振込用紙でのご注文は送料当社負担
発行所 **新ハイキング社**
〒114-0023 東京都北区滝野川7-6-13
TEL/FAX 03-3915-8110

○新ハイ關西サービステーション

名峰・二枝登山 小白峰・大白峰・甲子・藤原への縦走基盤
1名でも練習り送迎(要予約) 露天風呂と内湯
福島・二枝温泉
日銀連 大和館
〒95210622
福島県福島市二枝温泉
0248184122021
F 02481841227051
富士登山・富士五湖
東海道自然歩道
(石和山・ハリモミ林)
三田山の麓
ペンション コットンテール
〒4010502
山梨県南都留郡山中湖村平野
055516518515

大谷温泉 温泉中から源泉が噴出
源泉・岩屋あり
JR中央線山梨駅下車徒歩10分
バス20分登山口下車徒歩15分
山小屋 福ちゃん社
〒4010002
山梨県山梨市上原2332
055513514639
(山小屋) 0330114179215

尾瀬 平ヶ岳尾瀬と釣りの山小屋
越後三山温泉旅館内
清四郎小屋
ほんもの手作りそば店
〒94610000 新潟県北魚沼郡湯沢町の湯沢温泉(湯沢山)
0901255810028
期間外(11月4日)は
0255791215026

10月26日、久しぶりにコグルミ谷を登る。いきなり左岸の道が無くって驚いた。ここもいつかは坂本谷のように谷の中を登るルートになるのだろうか。

春と違って人は少ない。岩に記された赤ペンキのマークが渦巻きで、妻は「バカボン」と呼んでいた。天が平から荷ヶ岳方向に少し歩いた所で12時になったので、陽だまりの林の中で弁当を食った。御池岳丸山が、やけに高く見えた。

天が平から下りかかると、馬のいななきのような声が出た。鹿とは違う。何だろう。長命水を汲み、登ってくる人に挨拶すると、「狼がいました」とのこと。狼の声だったのかな。くだっていくと、なるほど、樹上に狼の姿。まだ若い。斜面の上の方では何頭かが争う声もしていた。ちょっと怖い。

突然、足を止めた妻が、「蛇かな、二匹いる」と言う。そういえば登りで娘に出会った。近寄ってみると、なんと、初めて見る巨大なミズが青黒く光っている。「蛇じゃない?」と、

妻、二匹共30センチあるが、たしかにミズだ。家に帰って調べたら、どうやら「シーボルトミズ」というらしい。こんなの、あちこちに居るんでしょうか。(松阪市 葦木伸人)

パスを降りると冠雪した三方岩岳が紅葉山を従えてそびえていた。標高差850m。早朝6時。威圧感と寒さで身震いを覚える。緊張と不安を胸に登り始めた。

明るい紅葉の樹林帯をジグザグに登ってゆくと、湿った落ち葉が足裏に心地よい。展望地を過ぎると紅葉真っ盛りのブナの原木が林立していた。新雪が所どころに残っていてシャクシャクと荒目の雪を踏む靴音が、汗ばんだ身体に涼感を与えてくれた。

抜けるような青空。彩り豊かな紅葉。ナナカマドの実。新雪に歓喜し、北アルプスの遠望のため息をつく。頂上直下のやせ尾根には7、8センチの積雪があった。28人の登山靴が踏みしめても、また真っ白のままだった。

目に映るもの全てが感動の連続で、その延長線上に白山の堂々たる山容が現れると、その右手が三方岩岳のなだらかな山頂だった。振り返ると北アルプスの峰々が、雲海をはるかかたに浮かんでいた。

山頂で360度の大展望の中に戻り、余りある至福感に浸っていた。
落葉踏む足裏の力抜きにけり
(生駒市 井上久子)

山行短歌

8月27日 丹波磯砂山
くしけずる天女の髪はゆらめき
霧を生み出す山なかの水辺
9月6日 備北比叟山御殿
ブナ純林に雨降り止まぬ水中を
深海魚のように潜りゆく
9月7日 備北吾妻山
野刺の炎ゆる噴野をさまよへば
母の記憶にゆきはぐれたる
9月7日 備北道後山
月光のかたみの花の小夜曲の
金のすず銀のすず鳴る野径
9月12日 大和巻向山
やまぐにの大和まほろび青連ね
空へひかりを放ちたる峰よ
9月18日 丹後依蓮ヶ尾山

四季限らず豪華旅館のハイイク
上高地・乗鞍岳へ 冬はスキー
けやき造りと味の宿・日曜連
温泉旅館 けやき山荘
〒390-15500
長野県南安曇郡安曇村乗鞍高原
電 0263-9312555

さわやか信州
露天風呂 山吹の湯
湯田中温泉(穂波)
日野屋旅館
〒381-0400 長野県下
高井郡山ノ内町湯田中温泉後成
電 0269-3313578

標高2000m雲上の温泉
湯の丸高峰自然休養林
ハイキングにXCスキー
高峰温泉
〒384-0000
長野県小諸市高峰温泉
電 0267-2512000

ハイキングにスキーに
志賀高原 石の湯ロッジ
バス 熊の湯線平床下車
電 0269-342421
東京本社・東京新宿区新宿3
1-20-5(新光第2ビル)
例スポーツサビリス
電 03-333410211

空と海の境目のなき晴れた日も

9月29日 加賀白山御前峰
初雪かも知れぬ雪片降り来たる
白山のはじまりとなる雪か
9月29日 南道山荘投宿
南竜ヶ馬場の大地に黄葉映ゆ
君へ伝わらぬ思い染めあげ
9月30日 加賀別山
別山は別れの山か残り惜しみ
ブナ燃え始め千振尾根くだる
10月5日 播州段々峰
偶然にめぐりあえたる友のそば
高原わたりゆく風と光と
10月9日 若狭八ヶ峰
天道虫の鈴よザックで鳴り響け
峠越えかやぶきの里にまで
10月16日 播州三室山
ひとときのわか雨去り訣別の
切なさばかりわきあがる峰
(吹田市 木村太郎)

実施することが自分自身の支え
になっていったのかも知れないと
思うのです。

その例会山行も、計画した山
行の半分ほどはなかなか定員に
達しないという状態になってき
ました。リーグが増え、山行
が質量ともに豊かになり、会員
にとって選択肢が広がったこと
が主な要因に違いないのではし
ょうが、さらには例会参加の会員
間に親和が生まれ、例会を卒業
今としてより伸びやかな個人
山行へと発展していくことも要
因の一つとしてあるでしょう。

そうした「発展」をつくり出す
のも、新ハイ例会山行の役割な
のでしょうし、例会は、会員間
の新陳代謝があつて然るべきと
いうことなのかも知れません。
【新ハイ誌が届いたら、すぐ
葉書を出さないと間に合わない】
という、まるで競争を煽るよう
な状態がなくなりつつあるのは
喜ばしい限りですが、健康上の
理由で姿がみえなくなつてしま
った会員もあり、ふと、人の世の
寂しさを感じることもありま
す。

自然観察山行をいつまで続け

られるのか。最近、そんな思い
が時どき頭をかすめます。
自分自身の身の処し方の迷い
もからんで、すっきりとした
「回答」は出ないと思うのです
が、少なくとも現在の山行スタ
イルが受け入れられるかぎり、
2004年も勇気を出して続け
たい、と考えています。
(各務原市 鷺見守康)

10月11日、笈ヶ岳を目指して、
富山県西南端の一等三角点の山
大笠山へフカバラノ尾を登つ
た。
ここは2度目だが、白山並みの
標高差(実質1500m)と
距離(6・2km)があつて、山
頂まで5時間10分かかってしま
い、大笠山山頂11時05分では笈
ヶ岳へは無理でした。
大笠山から行こうと思えば行
けるでしょうが、道が無くやぶ
潜になるので、笈ヶ岳まで往復
8時間かかるとなりました。
笈ヶ岳へは無理雪期に行きた
い。富山側からは無理なような
ので、日帰り報告のある石川側
から来年チャレンジしようと思
う。それとも岐阜側から道をつ

<p>塩の道 千両街道 百八十七休「観音原」 ホテル 白馬プランシェ 〒399-9300 長野県北安曇郡白馬村いわたけ 電 0261-724452</p>	<p>八ヶ岳南北縦走の中心地 59年秋新築増築完成全館個室 木の香匂う新浴場温泉木湯 オーレン小屋 1泊2食付き 6000円 4月末、11月末開設 〒391-0213 小平勇夫 茅野市豊平2720</p>	<p>北八ヶ岳の登山基地 冬はスキー JR茅野駅、北八ヶ岳登山口ま で送迎します 茅野高原 プチホテル カナール 〒391-0301 茅野市北山薬料高野丸平55 3の1 電 0266-672258</p>	<p>日本百名山の宿 信州戸隠山 森の宿めるへん 高梨山・黒岳山登山口まで送迎 クローン・コース2案内 〒388-1410 長野県戸隠村水ヶ原 電 0261-25412081</p>
---	--	--	---

くりましようか?

新ハイキングのリーダーとして山の案内を始めて5年が経ち、鈴鹿百山も50回となって1000山を越えました。最初の1年は御池岳だけを案内しましたが、2004年は同じ石灰石の山、美濃の舟伏山を2月から12月まで月1回登ってみたいと思います。

03年で6年連続舟伏山へは登っていますが、最初のみ5月3日では4月下旬です。他の月ではどのような花や、紅葉が見られるかは知りませんが、皆さんといっしょに歩きましょう。04年度、鈴鹿百山は継続しますが、美濃の山は舟伏山だけとします。(南濃町 山田明男)

登山にもそれぞれいろいろな思いがあるかと思われま。

私はいつ頃からか野の花・山の花がいろいろおしくなり、山登りとより花巡りの山旅が主流となっています。そんなことから、花時の4月頃より9月頃まで月に1〜2回程度、「花巡り山行」の例会を計画していこうと考えています。

山行計画 (1・2月)

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「全員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように、申込み先を確定のうえ申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代実費をいただくことがありますが、山行申し込み後参加できなかった場合はすぐ係に連絡してください。体調が悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。

死亡・後遺障害保険金額	1000万円
入院保険金	5000円
通院保険金	2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)

(往復ハガキを使用)

山行申し込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自己記入の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

(長岡京市 田中 明)

羊年もまもなく終わろうとして、一部紹介したい。古くからの会員の方はご存知かと思うが、小学3年生の佳奈さんと大台ヶ原で知り合って、今も交流が続いていること。今、彼女は大学4年になり、ずいぶん大きくなった。最近、小生の腰痛の見舞いと本人の就職が決まったと！うれしい報告があったので、お祝いをせねばと張り切っていた。デートの約束も取り付けたのでクリスマスのコンサートを考えているのだが、どうだろうか！

また、突然結婚しましたと葉書が舞い込んだ。形式にこだわらない可愛らしい絵葉書に幸せがあふれていた。この彼女とは、近畿自然歩道を歩いていた時、彼女ら2人が道に迷っていたのに出会い、近くの駅まで案内したのがきっかけである。若いカッブルが山好きが続け、幸多からん事折ってやまない。(姫路市 須藤岡 様)

京都東山・福富山から清水山 (一般向き)

期日 1月2日(日) 日帰り

集合 ①JR名古屋駅②番ホー46時15分③JR奈良線福富駅9時00分

コース 福富駅→伏見稲荷大社→四ツ辻→泉涌寺→六条山→山道→園道1号→清水山→東山→栗田神社→地下鉄上原(解散・電車)

費用 約2600円(宵餐1600円) お使用・名古屋から

地図 2万5千11京都東南部・京都東北部

申込み ①小出良春 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

*集合駅を明記ください 伏見稲荷大社から、東山三十六峰の南峰を北上する「京都一周トレイル東山コース」を清水山まで歩きます。雨天中止

初歩きと手合せ(一般向き) 期日 1月4日(日) 日帰り 集合 JR有年駅10時00分 コース 有年駅→赤穂ふれあいの

日本唯一の女人禁制の山「大峰山」(合志山)の登山口「大洞内ヶ岳」女人コースもあり 温泉・名水の里 旅館 紀の国屋 甚八 泊2食付 7,000円から 〒638-0431 奈良県吉野郡大村川河川 074761410309

九州の最高峰・日本百名山 宮の浦岳に一番近い宿 屋久島安房登山口 屋久島グリーンホテル 〒891-4311 鹿児島県鹿毛郡屋久町安房 099741613021

御在所登山に 愛知川溪谷沢歩きに 山好き仲間が集う宿 朝明茶屋 山小屋 〒510-1251 三重県三重郡菟野町千草 0593319311789

那岐山山麓の霜近く百名山出火山 二百名山の水ノ山・上志賀山とあり 三百名山 那岐山ふもと 岡山県 那岐山荘 〒708-11307 岡山県勝田郡奈義町高円 086813614154

冬期(1・2月)の登山道は積雪があり、凍結しています。各山行計画欄に特記してなくても、ロングスバツ・軽アイゼン・ストックかピッケル・サンングラスなどの雪山を歩く装備で、また手袋・下着・靴下は防寒・防湿用のものを、登山靴は防水してからお出かけください。

山行例会の実施については、山行例会は保険をかけた後、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。お申し込みの返信案内は細目が決まり次第、山行日の10日前頃からします。早くに申し込まれた方はそれまでお待ちください。定員のある計画は先着順に受け付けています。

森上三重山(嶺ヶ巻懸梯) 一絶行寺(高尾山)有年 駅(解散)

費用 5000円(羊刈会・保険 共)

地図 2万5千(相生 係) ◎須磨岡 帽

申込み 2671-1262 姫路市余部区上余部50の 2の11 須磨岡 帽まで

赤穂市郊外の低山を縦走し、神 護寺で温い羊刈を食べながら一年 のはじまりを語りませんか。

雨天中止

鈴鹿吉山51 鶴杖ヶ岳・小雀の頭(健脚向き) 期日 1月4日(日) 日帰り

集合 JR関西線加太駅8時45 分

コース 加太駅(車)登山口一袖 之木峠一鶴杖ヶ岳一小雀 の頭一福徳集落一JR関 駅(解散16時頃)

費用 交通費各自(車代500 円)

地図 2万5千(平松・椋木・ 角山)

申込み ◎山田明男 ○高尾芳彦 〒503-0535

お正月の運動不足を七種菜餚で 解消しませんか。夢やかたで簡単 な新年会を予定(1000円程度) 雨天中止

泉南・土丸城址から雨山 (一般向き) 期日 1月11日(日) 日帰り

集合 ①JR名古屋線(番ホー ム6時15分)②JR天王 寺駅(番ホー ム9時53分 発)に乘車

コース 天王寺駅(電車)日根野 駅(バス)土丸一土丸城 址一雨山一小庵谷頂上

海津郡南濃町松山624の19 山田明男まで

*定員20名程度 *マイカーの方はその旨 記載ください

正確には鈴鹿ではありませんが、 閉部鈴鹿が見渡せる名峰鶴杖ヶ岳 から小雀の頭を通り、関駅までの 長い距離を歩きます。雨天中止

期日 1月4日(日) 日帰り 集合 ①JR名古屋線(番ホー ム6時15分)②JR姫路 駅10時20分③山陽電鉄 白浜の宮駅10時50分

コース 白浜の宮駅一麻生八幡神 社一華嚴寺一小富士山一 華嚴寺一東屋一四ノ郷一 JR御着駅(解散 電車)

費用 約2600円(羊刈18きッ ぶ使用・名古屋から)

地図 2万5千(姫路南部 係) ◎小出良春

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

*集合駅を明記ください 姫路にある低山ですが、展望の

*集合駅を明記ください 多くの本に紹介されていますが、 実菜之日本社の「関西」日帰り山 歩きベスト100のコースを歩 きます。土丸には南北朝時代の城 址が残っています。雨天中止

鈴鹿を歩く184 高野山・明神山・東光寺山 (やや健脚向き)

期日 1月11日(日) 日帰り 集合 国道421号線水源寺町 役場前8時30分

コース 役場(車)高野広場一高 野山一明神山一東光寺山 (日帰り)一開閉所一高 野広場(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社「現在所・雲仙・ 伊吹」

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

*マイカー山行 水源寺の高野集落から尾根を取 りつぎ、高野山・明神山・東光寺 山と登り、巡視路をくだる冬の里 山歩きです。雨天中止

よい山。ルート沿いに少しスリル のある箱場と岩場があります。 雨天中止

自然観察山行131 スノーシューイングとネイチャー スキー

上巻 菅平高原(中級向き) 期日 1月10日(土)12日(日) 前夜発1泊2日

集合 (10日) JR岐阜駅23時 00分

コース (10日) 岐阜駅(バス) (11日) (バス) 菅平高 原プチホテル(朝食休憩)

費用 約30000円(岐阜駅 からバス・宿泊・資料代 等)

地図 昭文社「志賀高原・草 津」

申込み 〒504-0828 ◎鷺見守康

近畿百名山に登る(第83回) 京都・比叡山(一般向き) 期日 1月12日(日) 日帰り

集合 散策町柳駅8時30分 出町柳駅(電車)修学院 駅一修学院離宮一雲母坂

費用 約10000円(京都から 山坂本駅)

地図 昭文社「京都北山」

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

大比叡一等三角点を踏み、横川 中堂から日吉大社へくだります。 小雨(雪) 決行

ファミリアハイイク33 鈴鹿・入道ヶ岳(一般向き) 期日 1月15日(木) 日帰り

集合 新大阪駅一階正面口構内 7時30分

コース 新大阪駅(バス)鈴鹿イ ンター(バス)樟大神社 一本松尾根一入道ヶ岳 一井戸谷一樟大神社(バ ス)新大阪駅(解散)

各務原市藤原村雨野1の 19の5 鷺見守康まで *定員27名(12月22日ま で)

昨年6月に歩いた四阿山・根子 岳山麓のパウダースノーの菅平高 原でスノーシューイングとネイチャー スキーを楽しみます。11日は根子 岳を目指してトレッキング。12日 はネイチャースキーで四阿山中腹 を歩きます。ネイチャースキーは 全員レンタルで初心者でも使えま す。申込みはがきに、身長・靴サ イズとスノーシューはレンタル (料金2100円加算)か持参か 明記のこと。雨(雪) 天決行

期日 1月11日(日) 日帰り 集合 JR加古川駅前8時25分

コース 加古川駅(バス)奥池一 笠若一七福山一十字峰一 薬師山一西南麓尾根一前 之庄(バス)加古川駅 (解散18時頃)

費用 約20000円(バス代)

地図 2万5千(前之庄 係) ◎古賀慶一 ○岡田 界

伊勢一の宮椿大神社に初詣。雪 の頂をめざし、鈴鹿ペンマウン テンの一席へ登る。雨天中止

唐子山(教習市)(一般向き) 期日 1月17日(日) 日帰り

集合 教習市定田国道8号線と 国道161号線の合流点 フォファミリーマートの前広 場8時30分

コース 定田(車)柳ヶ瀬トンネ ル手前一林道一鉄塔通視 路一唐子山(往復)

費用 交通費各自

地図 2万5千(中河内 係) ◎高島伸浩

申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

*マイカー山行 雪山歩き。カンジキ必須。 雨天決行

六甲・高取山(一般向き)

期日 1月18日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅(番キー) 6時15分/②JR三ノ宮駅中央口 9時40分

コース 三ノ宮駅(電車)地下鉄
妙法寺駅(妙法寺)野路
山公園(高取山)白川大
明神(高取神社参拝口)
R・地下鉄三ノ宮駅(解
散15時頃)

費用 約2900円(貸衣装き
ふ使用・名土産から)
地図 2万5千・神戸首都・神
戸南部・前開・須磨
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

平日ふれあいハイク42
北山・愛宕山(一般向き)
期日 1月20日(火) 日帰り
集合 清滝バス停9時10分
コース 清滝バス停(梨の木谷林
す。雨天中止)

風張・東谷山(初級向き)
期日 1月25日(日) 日帰り
集合 JR名古屋駅中央改札口
8時10分
コース 名古屋駅(電車)高蔵寺
駅(電車)愛知環状鉄道
中水野駅(十軒町参道登
山口)南参道山合(東谷
山)中社(東谷山)フル
パーク(高蔵寺駅(電
車)名古屋駅(解散12時
10分頃))

費用 10200円(貸衣装か
し)
地図 2万5千・高蔵寺・瀬戸
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

山と遊楽社(登山ガイド)で
紹介されている山で、名古屋市の
最高峰です。ルートを変えて
中水野から登ります。冬場の軽い
ハイキングに適した山です。
雨天中止

北山ちよと歩き53
広沢池から葛瀬谷山(一般向き)
期日 1月28日(火) 日帰り
集合 JR京都駅前バスB4
番のりば8時00分

道大杉谷(表参道五合
目)ケーブル道(愛宕神社
社)地蔵辻(首無し地蔵
)神護寺(高畑)バス停
(解散16時30分頃)

費用 約10000円(京都駅か
ら)

地図 昭文社「京都北山」
係 ◎寺井恒夫 ○川上久登
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

ケーブル道を利用して愛宕神社
へ登ります。雪があればよいので
すが。雨天中止

三重の山71
伊勢・朝熊山(一般向き)
期日 1月24日(日) 日帰り
集合 近鉄朝熊駅10時00分
コース 朝熊駅(朝熊山)内宮(一
近鉄五十鈴山駅(解散)
費用 1500円(交通費各自)
地図 2万5千・鳥羽・伊勢
係 ◎尾崎英五 ○植垣逸夫
申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
植垣逸夫まで

展望良。関西からでも参加でき
る集合時間です。雨天決行

週末ハイク55
六甲・摩耶山(一般向き)

期日 1月24日(日) 日帰り
集合 神戸地下鉄新神戸駅改札
口9時10分

コース 新神戸駅(市ヶ原)天狗
道(摩耶山)記念碑台
六甲ケーブル(中野)ケ
ブル下(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「六甲・摩耶」
係 ◎谷野東彦
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

冬枯れで展望のきく六甲線建コー
スを記念碑台まで歩きます。
雨天中止

鈴鹿を歩く185
御所平(健康向き)
期日 1月25日(日) 日帰り
集合 黒瀬集落田村谷林道広場
8時30分
コース 広場(小太谷谷)グミの
木平(水無し)御所平
ヨコネ(田村谷林道)黒
滝(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・雲仙・
石

伊吹」
◎岩野 明 ○山田登三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

駐車場(バス)岐阜駅
(解散)
*湯路に入浴します。
費用 約10000円(岐阜駅
からバス代等)
地図 2万5千・位山
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市森原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで
*定員27名

二百名山の位山を厳冬期に登り、
野外樹木博物館とも呼ばれる位山
の樹木を楽しみます。スノーシュー
またはカンジキ持参。
雨(雪)天決行

奈良・城山(初級向き)
期日 2月1日(日) 日帰り
集合 ①近鉄名古屋駅地下6時
25分/②近鉄・JR天理
駅タクシーのりば9時50
分
コース 天理駅(タクシー)中畑
一城山(柳茶屋(バス)
近鉄・JR奈良駅(解
散14時22分)
費用 約4700円(名古屋か
ら)
地図 2万5千・桜井・大和

伊吹

京都市北山歩き113
青見峠から地蔵山・愛宕山
(一般向き)
期日 1月25日(日) 日帰り
集合 JR山陰線八木駅8時30
分

コース 八木駅(バス)越前(芦
見峠)地蔵山(愛宕山)
愛宕神社(大杉谷)梨ノ
木谷林道(清滝)バス停
(解散16時頃)

費用 約1500円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎中西信行 ○鷺野重治
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

雲原の地蔵山(等三角点)に登り、
愛宕山の冬景色を楽しみます。
雨天中止

石
◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
*奈良県が設定した御所平のた
めの百連山の山です。城山は椿
尾山城とも呼ばれ、御所平によっ
て築城されたといわれています。
雨天中止

自然観察山行133
スノーハイキング
美濃・貝月山(中級向き)
期日 2月7日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅9時00分
コース 大垣駅(バス)相安高原
スキー場(ふれあいの森
公園)貝月山(ふれあいの森
公園)相安高原(スキー
場(バス)大垣駅(解散)
費用 約3500円(大垣駅か
ら)バス代等)

各務原市森原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで
*定員25名

スノーハイクの定番となった月山に今年も登ります。スノーシューまたはカンジキ持参。荒天中止

尾瀬南東部・三草山(一般向き)

期日 2月8日(日) 日帰り

集合 JR加古川駅前8時50分

コース 加古川駅(バス)山口ー三草山(天狗岩)下久米ー朝光寺(バス)加古川

費用 約2000円(バス代)

地図 2万5千1比定

係 ◎古賀慶一◎岡田昇

申込み 〒675-0112

加古川市平岡町山の上684

の33・17A03

古賀慶一まで

*定員25名

「三草山は播磨平野の北東隅にあり、寿永3年2月平家追討のため……と山頂の碑にある。日だまりハイクングに最適です。雨天中止

京都・甘南備山と男山

期日 2月8日(日) 日帰り

集合 ①JR名古屋駅②番ホー

ム6時15分③近鉄新田

刃取9時25分
新田辺駅(タクシー)登山口ーヒノキの小径ー三角点ー甘南備神社ー甘南備山(登山口)ー休寺ー新田辺駅(電車)京阪八幡市駅ー旭ヶ峰ー石清水八幡宮ー表参道登山口ー八幡市駅(解放15時30分頃)

費用 約6000円(空登フリー

バス使用・名古屋から)

地図 2万5千1田辺・枚方・淀

係 ◎小出良春

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

*集合駅を明記ください

甘南備山はとんちの休さんで知られる一休寺の南西の山。男山は山頂に石清水八幡宮があります。ただし男山は自由参加です。雨天中止

鈴鹿を歩く186

樹氷の綿向山(健脚向き)

期日 2月8日(日) 日帰り

集合 熊野登山口蔵王ダム広場

8時30分

コース 広場(車)熊野バス停ー滝山林道一文三ハゲー綿向山ー北峰ーフナの本平ーP992ー塩ノ道峠ー流山谷ー熊野(解放)

費用 交通費各自

地図 昭文社(現在所・雲仙・伊吹)

係 ◎岩野 明 ◎山田景三

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

*マイカー山行

毎年恒例の真冬の綿向山登山です。小雨(雪) 決行

近畿百名山に登る(第64回)

生駒・大原山から生駒山

期日 2月11日(日) 日帰り

集合 近鉄奈良駅枚園駅8時30分

コース 枚園駅ー神津線ー府民の森ばくらの広場ー大原山ー時峠ー生駒山ー興法寺ー水車小屋跡ー爪切地蔵ー石切駅(解放15時頃)

費用 約1000円(大阪から)

地図 2万5千1信貴山・生駒山

係 ◎村田智俊 ◎呉比呂英

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

村田智俊まで

府民の森・ばくらの広場から生駒山に登ります。雨天中止

室生・日張山から一谷峠(一般向き)

期日 2月12日(日) 日帰り

集合 近鉄橋原駅南口9時00分

コース 橋原駅(バス)宇賀志ー無洗橋ーひばり山登道ー青蓮寺ー日張山ー一谷峠ー芳野水分神社ー菟田野(解放15時頃)

費用 約2600円(鶴橋駅起点)

地図 2万5千1高見山・古市

係 ◎西上和 ◎中村英雄

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

県指定の天然記念物・無洗橋の木に立ち寄り、中將姫ゆかりの青蓮寺から登り、静寂な冬の奥宇陀の山を味わいます。雨天中止

若狭の山

梅文岳(三方町)(一般向き)

期日 2月14日(日) 日帰り

集合 三方町役場9時00分

コース 役場ー国民宿舎「水月花」ー林道ー梅文岳(往復)

費用 交通費各自

地図 2万5千1常神

係 ◎高島伸浩

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

*マイカー山行

雪山歩き。カンジキ必携。雨天決行

週末ハイイク56

京都北山・天ヶ岳(一般向き)

期日 2月14日(日) 日帰り

集合 JR京都駅中央口7時50分

コース 京都駅(バス)大原ー寂光院ー天ヶ岳(バス)P1035・2ー善王坂ー鞍馬駅(解放)

費用 約1000円(京都駅から)

地図 昭文社「京都北山」

係 ◎登野東彦

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

大原から天ヶ岳。鞍馬への静かな積雪?の尾根道を歩きます。雨天中止

自然観察山行134

スノーハイキング

美濃・釜ヶ谷山(中級向き)

期日 2月14日(日) 日帰り

集合 JR大垣駅9時00分

コース 大垣駅(バス)伊自良湖

駐車場ー登山口ー奥の院

釜ヶ谷山 釜ヶ谷林道

登山口ー伊自良湖駐車場(バス)大垣駅(解放18時過ぎ)

費用 約3500円(大垣駅からバス代等)

地図 2万5千1美濃神海

係 ◎鷺見守康

申込み 〒504-0828

各務原市蘇原村雨町の19の5 鷺見守康まで

*定員25名

前回はヤマヒルのため不評。釜ヶ谷山の名称変更のため、今回は厳冬期に登ります。スノーシューまたはカンジキ持参。荒天中止

鈴鹿百名山52

御池岳(健脚向き)

期日 2月15日(日) 日帰り

集合 ①JR関ヶ原駅8時35分

②三城野野尻駅8時40分

各集合駅(車)コグルミ

谷ー長命水ー奥境尾根ー積雪状況で奥の平ー長命水ーコグルミ谷(車)各集合駅

費用 交通費各自(車代500円・1000円)

地図 2万5千1藤立

係 ◎山田明男 ◎高屋秀彦

申込み 〒503-0535

海津郡南濃町松山62の19

山田明男まで

*定員20名程度

*マイカーの方はその旨記載ください

青のドリーネが見られるとよいのですが、他のドリーネで雪と遊びます。雨天中止

三重・横山(一般向き)

期日 2月15日(日) 日帰り

集合 ①近鉄名古屋駅地下7時35分②近鉄宇治山田駅

③番ホーム9時40分

コース 宇治山田駅(電車)志摩

横山駅ー展望台 横山ー没間山ー追子(バスまたはタクシー)瀬方駅(解放)

費用 約4200円(名古屋から)

地図 2万5千1磯部・浜島

係 ◎小出良春

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

*集合駅を明記ください
山と溪谷社分譲登山ガイド④の山で、英虞湾のリアス式海岸はすばらしい。*関西からは大和八木駅を7時57分発の快速で参加できます。雨天中止

大峰・観音峰(中級向き)

期日 2月15日(日) 日帰り

集合 近鉄大和八木駅8時00分

コース 八木駅(バス)観音峰登山口ー観音峰ー観音峰ー法力峠ー洞川(バス)八木駅(解放19時頃)

費用 約3000円(バス代)

地図 昭文社「大峰山脈」

係 ◎村田智俊 ◎安倉正勝

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
村田智波まで
*定員22名
稲村ヶ岳を望みながら雪後の観
音峰を歩きます。雨天中止

フアミリーハイク34
紀北・真妻山(初級向き)
期日 2月19日(木) 日帰り
集合 新大阪駅1階正面口構内
7時00分

コース 新大阪駅(バス)御坊イ
ンター(バス)山野小学
校→真妻山→大滝川→山
野小学校(バス)新大阪
駅(解散)

費用 約3500円(バス代)
地図 2万5千→御坊・古井
係 ◎木村太郎 ◎中村友昭
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

奈良・鳥見山から外鎌山
(一般向き)
期日 2月22日(日) 日帰り

その昔に姫神が降臨した秀麗な
日高富士へ登る。緑塗樹海海岸の
温泉館に立ち寄り。雨天中止

集合 ①近鉄名古屋駅地下6時
25分/②近鉄JR桜井
駅南口9時25分

コース 桜井駅→地蔵堂→等々神
社→鳥見山→山口忍坂神社
社→新明天皇陵→外鎌山
→近鉄大和朝倉駅(解散
14時50分頃)

費用 約3800円(名古屋か
ら)

地図 2万5千→桜井・初瀬
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

△ 鈴鹿を歩く187
雲仙山西南尾根(一般向き)
期日 2月22日(日) 日帰り
集合 河内線甲府倉上り口広場
8時30分

コース 広場(車)今畑→落合→
汗ふき峠→雲仙山→最高
峰→西南尾根→笹峠→今

畑(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「隠在所・雲仙・
伊吹」

係 ◎岩野 明 ◎山田景三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

毎年恒例の真冬の雲仙山西南尾
根の山行です。山頂のラージヒル
でヒップスキーを楽しみます(21
号44ページ参照)。
小雨(雪) 決行

美濃
舟伏山の自然を訪ねて(2月)
(中級向き)
期日 2月22日(日) 日帰り
集合 JR西岐阜駅北口ロータ
リ19時00分

コース 西岐阜駅(車)あいの森
駐車場→さくら峠→あいの
わ平→舟伏山(往復ル
ト)→あいの森駐車場
(車)西岐阜駅
費用 交通費各自(車代100
0円)
地図 2万5千→谷合・下大須
係 ◎山田明男

申込み 〒503-0535
海津郡南濃町松山24の19
山田明男まで
*定員15名程度
*マイカーの方はその旨
記載ください

2月の舟伏山の自然はどんなで
しょう。雪が深ければ林道入口か
ら歩きます。雨天中止

北山ちよつと歩き54
比較・無動寺谷道から曼殊院へ
(一般向き)
期日 2月25日(日) 日帰り
集合 JR比叡山坂本駅8時40
分

コース 比叡山坂本駅→無動寺谷
道→桜森屋→大鳥居→地
蔵谷分岐→曼殊院→一乗
寺下り松(解散)

費用 1000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎真山崇三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

無動寺谷コースを比較に登り、
曼殊院へくだります。最澄ゆかり
の道をつのびりと歩きます。
雨天中止

自然観察山行135

クロスカントリースキー
中宿・美ヶ原(一般向き)
期日 2月27日(金)29日(日)
前後発1泊2日

集合 ①27日 JR岐阜駅23時
00分
②27日 岐阜駅(バス)
(28日)(バス) 松本
(市内観光・バス) 入山
辺(電車ほか)美ヶ原
王ヶ原ホテル→茶臼山→
王ヶ原ホテル(泊)

(29日) ホテル美ヶ原
→ホテル(電車ほか)
入山辺(バス)岐阜駅
(解散)
*湯路に浴食します。

費用 約30000円(岐阜駅
からバス・宿泊代等)
地図 昭文社「美ヶ原・霧ヶ
峰」
係 ◎野見守康
申込み 〒504-0828

各務原市森原村雨町1の
19の5 野見守康まで
*定員27名(12月31日ま
で)
大雪山の美ヶ原でクロスカント
リースキーに挑戦します。クロス

カントリースキーは全員レンタル
で初心者でも使えます。申込みは
がきに身長・靴サイズを明記のこ
と。スノーシューまたはカンジキ
も持参。雨(雪)天決行

比良を歩く28
蛇谷ヶ峰(やや健脚向き)
期日 2月29日(日) 日帰り
集合 JR近江高島駅8時55分
コース 近江高島駅(バス)畑→
ボボフダ峠→滝谷ノ頭→
蛇谷ヶ峰→P.B.I.→高
坂尾根→高坂口(バス)
近江高島駅(解散16時40
分頃または17時40分頃)

費用 約28000円(京都駅か
ら)
地図 2万5千→北小松
係 ◎斎藤 康夫
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

毎年恒例によつては、交通ラッ
セルが必要ですが、状況次第でコー
ス変更あり(本誌56号参照)。

小雨(雪)決行

湖南
三上山からかぶと山(一般向き)
期日 2月29日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札
口6時55分/②JR野洲
駅9時15分

コース 野洲駅(バス)山出前→
三上東道登山口→打越→
三上山→こかげのコー
古代峠→妙光寺山分岐→
かぶと山→相模原山→野
洲中学校→野洲駅(解散)

費用 約3600円(宮原ア
リ
バス使用・名古屋から)
地図 2万5千→野洲
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

*集合駅を明記ください
野洲平野にある三上山は近江富
士といわれる美しい山。その三上
山から北に連なる山がかぶと山
(田中山)です。二つの山を縦走
します。雨天中止

海外特別山行

ハワイ島キラウエア火山ハイキ
ング&オアフ島観光(初級向き)
期日 4月7日(水)12日(日)
集合 関西空港

行程 <7日> ホノルルへ
<7日> ハワイ島(ハ
ワイ島観光)
<8日> キラウエア火
山ハイキング
<9日> ハワイ島→オ
アフ島→ホノルル
市内観光

<10日> 終日自由行動
(12日) 関西空港(解散)
費用 199000円
係 ◎高島伸浩
申込み 〒914-0076
敦賀市元町14の29
0770-123-124
43
高島伸浩まで
*定員10名
*3月10日まで

つるが山美奈と合同登山、詳細
は高島までお問い合わせください。
参加申し込みの方は詳しいご案内
をいたします。

山行報告
(9・10月号)
新ハイキングクラブ関西

北摂・赤土郎ヶ岳
9月7日 晴れ

(集合) 能勢電鉄日生中央駅10・20(タクシー) 茨城温泉10・55(農文) 登山口11・22(大北峰分岐) 11・50(尾根上) 12・15(昼食) 12・50(ハカベ山) 12・57(赤土郎ヶ岳) 13・25(吹越峠) 14・35(英陽原) キャンプ場 14・47(波々伯耆神社) 15・20(バス) 15(バス) J R 南御駅・J R 藤山口駅(解散) この残暑で、新生新田から天王寺を越えて滝坊まで歩くと、温泉に入って帰るといい出ず入がいかにも知れないと思ひ、バスからタクシーに変更した。タクシーと交渉してくれた会計の中尾さんに感謝。

(参加者) 片山寛博 片山茂代子 宮西和子 大和 越 加地美代子 大谷敦子 柳川富雄 前田喜久子 嶋田民彦 飯田良子 岸 すみ子 藤本桂吉 保田 正 小林伊保子

京都北山・滝谷から愛宕山
9月7日 晴れ

(集合) J R 八木駅 8・30(バス) 越前 9・15(芦見峠) 9・40(芦見谷) 滝谷合出 10・25(滝谷) 旧スキー場(山頂) 12・15(昼食) 13・00(愛宕山) 三角点 13・20(砥石採取場) 愛宕神社 13・45(14・00) スカイライン 七丁目 14・25(1つじ尾根) J R 保津駅 15・50(解散) 残暑厳しかったが、木陰の多い芦見谷と滝谷を歩り、明るく高原の旧スキー場、三角点、神社、スカイライン、つじ尾根と、あまり人に知られていないルートを楽しんだ。

(参加者) 沖 伸 加納由紀子 中川光郎 木村 豊 野里マン代 堀江房勝 吉藤孝次 松上美代子 須藤節子 後藤康幸 柴田チヨコ

紀東・和泉葛城山から大鳴山
9月11日 晴れ

(集合) 水間鉄道水間駅 9・30(バス) 葛城 9・50(春日橋) 10・25(葛城神社) 山頂 12・00(昼食) 12・40(ハイランド) 13・20(五木松分岐) 大鳴トンネル 14・30(七宝滝寺) 参詣道入口 15・00(解散) 高原スカイラインで時折吹く涼風と早くも色づいた楓を見て秋が近づいているのを感じた。帰りは大鳴山温泉に入り反省会をする。

(参加者) 尾崎光子 中澤ちず子 若林文夫 東山澄夫 木村 豊 竹田勝英 井上恭子 小嶋野里子 本間昭恵 市野博文 山根木蕨子 二宮 元 田中延子 中山あさみ

自然観察山行127
9月12日 13日 出
前夜発日帰り

(集合) J R 岐阜駅 23・00(バス) (13日) 雨のちくもり (バス) 奥美濃観光物産センター 10・40(飯飯) 朝食 5・45(バス) 一色園遊スキ場 6・20(1林道) 登山口 7・20(30) 鷺ヶ岳 9・30(45) 一服 10・20(35) 桑ヶ谷林道 11・30(鷺ヶ岳) ゴルフ場 12・20(バス) コーヒー高麗 12・40(入浴) 昼食 14・00(バス) 岐阜駅 15・50(解散) 台風之余波で時々強い雨に打たれた。一色からのルートは急登の連続、山頂付近は背丈を超えるササやぶを泳ぐなど、雨中の登行にはつらいコースだった。鷺ヶ岳スキー場方面への下りでは、わざわざ旧来の登山道を壊して遊歩道を整備する光景に直視し、唖然とした。

山根弘英 藤井敏子 光川一美子 盛 敏子 松尾麗子 水本加津栄 今村 悟 古川裕子 隣 嘉子 森田久子 ○井上由紀晴 ○西上利和 (計26名)

た。奥美濃の香蜂も稀々しい姿だった。

(参加者) 緒方由子 藤野美紀恵 金森節子 菅藤育子 加納由紀子 栗橋崇吉 栗橋君子 砂原重美子 使谷礼司 長尾一和 花房真理子 松尾麗子 宮西和子 船本裕子 村井寿和 森 昌好 前田喜久子 若林文夫 武藤由美子

○森脇貞哉 ◎鷺口守康(計17名)

南アルプス・権見岳

9月13日(中) 14日(日) 1泊2日
(13日) 晴れ時々くもり (集合) J R 大津駅 8・00(バス) 鳥倉林 遊登山口 13・20(三伏峠) 小屋 16・50(泊)

(14日) 晴れ時々くもり 三伏峠 小屋 4・00(本谷山) 5・20(権見小屋) 7・30(権見岳) 8・30(9・00) 三伏峠小屋 12・30(鳥倉林道) 下山 16・00(バス) 大津駅 21・00(解散) 湖上の星空の下、ヘッドランプをたよりに出発した。日の出ともにもガスが湧き勝負はいまいちだったが、仙丈ヶ岳・甲斐駒ヶ岳・中央アルプス・恵那山などはよく見えた。

(参加者) 渡辺節子 川上孝代子

平田輝英 内田康夫 市井ユリエ 本藤盛夫 堀田輝子 光川一美子 牧 和夫 馬籠忠男 宮路ちへ子 有原八郎 川田洋子 中島金二郎 山添登志子 染矢つや子 ◎妻藤孝子 (計17名)

木曾・糸嶺山
9月14日 晴れ

(集合) J R 名古屋駅 6・17(電車) 須原駅 8・33(35) 鹿島神社 8・47(1) ショップ 9・45(丸屋ノ島) 11・00(山居ノ島) 11・55(青ナギ) 12・59(糸嶺山のろし岩) 13・30(昼食) 14・00(須原駅) 17・10(電車) 名古屋駅 19・33(解散) 日帰りの山としてはキツイ山なのだろう。少人数なのに途中から三組に分かれて登ることになってしまった。それでも頑張った甲斐あって、山頂に着いて岩の中に埋めこまれている三角点を見た時は思わずヤンタネと言いたくなった。

(参加者) 藤本桂吉 吉岡美津香 緒方由子 藤橋洗石 前田喜久子 近田智子 水谷陽子 渡辺美代子 前川久枝 高田和代 六戸喜久江 ◎小出良春 (計12名)

兵庫丹波・小金ヶ岳と三岳
(近畿百名山に登る第62回)
9月14日 晴れ

(集合) J R 京都駅 八条口 7・40(バス) 大塚 9・50(10) 小金ヶ岳 10・50(11) 樹林広場 11・20(昼食) 12・00(大塚) 12・10(15) 三岳 13・00(10) 西ヶ岳 14・00(10) 栗柄口 15・20(30) (バス) 草山温泉観音湯 16・20(バス) 17・30(バス) 京都駅 19・05(解散) 大塚から岩帯帯を通って小金ヶ岳を往復後、反対側の近畿百名山の三岳へは厳しい急坂を登った。西ヶ岳から栗柄口へも急坂の下りが続いた。

(参加者) 宮本真幸 宮本悦子 宮下淳一 長尾節子 中嶋日出男 佐野信江 藤野重治 柴田チヨコ 加藤浩二 吉藤孝次 澤田高治 入江武史 田中幸子 岩瀬健司 岡崎知子 瓜取利明 山崎多恵子 山高義治 小林 桂 武部美美子 松井明忠 山本京子 河原美代子 福岡 章 朝 徳 徳 玉 美 昌 李 畑田理雄 山岸勝雄 上取知子 西村泰明 太田成子 吉野栄子 山口新弘 三井 一 安倉正勝 ○奥比呂美 (計12名)

鈴子ヶ口・奥越山
9月14日 晴れ

(集合) 三波大友駅 8・15(紅葉尾神崎) 9・00(奥越山) 林道入口 9・20(瀬戸川) 人口 9・35(瀬戸川) 10・05(風越山) 10・50(鈴子ヶ口) 12・00(昼食) 13・00(長尾山) 東分岐 14・00(神崎川) キャンプ場 前林道 15・00(奥越山) 林道入口 15・20(解散) 予定とは逆回りに歩いた。風越山からの登りはシャクナゲのジャングルでとてもきつく、二度と来たくないと思ひながら登ったが、山頂へ着けば360度の大展望が広がり、きつい登りのことは吹き飛んだ。(記録・山田妙子)

(参加者) 馬場佳子 山野志保江 栗本敏夫 藤岡国男 伊藤重美子 若林文夫 西村文男 本間 隆 林 一夫 服部 晃 藤瀬井 豊 森脇貞哉 山田妙子 ○高原芳彦 ◎山田明男 (計15名)

霧ヶ岳・四方草山・三子山
9月15日 晴れ

(鈴鹿を歩く176)

(集合) 鈴鹿峠 8・00〜05(車)
安楽越 8・20―大峠 9・00―霧ヶ
岳 10・00―四方草山 10・40―キレッ
ト 11・40(昼食) 12・30―三千山
北峰 13・10―山崎 13・30―南峰 13・
55―鈴鹿峠 14・40(解散)
岩壁の直登はつらいが、大パノ
ラマにマジノホトキスとミヤ
コウズラが待っていた。霧ヶ岳と
四方草山は展望なし。下りに道に
迷い右往左往。アツクランは鈴
鹿峠まで続いたが、さわやかな風
に吹かれての尾根歩きは思い出深
い山行となった。

(参加者) 磯部 純 後藤康幸
津野雅弘 池田繁美 北村 正
北村 相森 俊夫 谷 守
榎田勝利 大石将英 栗本敏夫
高杉 博 白木良弘 白木やす子
小松志信 今井武司 (計17名)
◎岩野 明

丹後・依連ヶ尾山
(ファミリーハイイク29)
9月18日(雨) 晴れ
(集合) 新大阪駅 7・30(バス)
矢野登山口 10・55―11・05―あり
が陣休登山口 15―20―頂上まで
六百米地点 11・40―50―依連ヶ尾
山 12・10(昼食) 13・00―矢野登

山口 13・55―45(バス) 欽菜あし
ぎぬ温泉 14・05(入浴) 15・15
(バス) 天橋立智恵寺 16・05―35
(バス) 新大阪駅 19・15(解散)
登山道には可愛いツリガネニン
ジンが咲き、暖帯性の常緑樹が陽
に映え明るかった。山頂からは空
と海と同じ色に輝く京都北端の
海岸美を羨しめた。太鼓山や金剛
堂山などの山々も眺められた。
天橋立に立ち寄り、松葉木の景色
と潮の香りを丹後の旅土産にして
新大阪駅へ帰る。

(参加者) 尾崎光子 神 伸
兼田幸子 本巻孟夫 富田博子
平田輝美 松尾麻子 宮村孝次郎
登田 晃 柏木孝子 砂原恵美子
竹田元司 渡部和美 中尾美智子
加藤浩一 多賀久子 成川みさお
木村 豊 伊田 正 中野直貴子
森本敏雄 岩屋登子 中澤ちよ子
竹田勝英 近田久子 金藤千恵子
村上嘉子 須藤裕子 小島野里子
青木一雄 妹尾一正 本田久美子
藤井裕子 大谷幸子 中村豊香
長沢久美 奥村幸雄 中江清剛
川上久堅 堅田 弘 山根邦枝
秋葉正人 ○中山峰雄 (計44名)
◎木村太郎

三池岳・釈迦ヶ岳
(鈴鹿を歩く177)
9月23日(雨) 晴れ
(集合) 神崎川橋広場 7・50(車)
石神峠 8・20―三池岳 10・20―中
峠 11・00―釈迦ヶ岳 12・10―松尾
尾根ノ頭 12・15(昼食) 13・00―
赤坂谷藪 13・20―遊林小屋 14・
00―八風谷林道 14・30―八風谷広
場 15・20(解散)
延々と続く長大な稜線からは大
パノラマで、左下には伊勢湾が光
り、近江湖は山また山の重なり。
下りは赤坂谷の源流から深い樹林
のなかを八風谷林道へ出ると、ア
ケボノソウが咲き乱れていた。

北アルプス
奥穂高岳から前穂高岳
(週末ハイイク5)
9月20日(日) 23日(雨) ◎狩野東彦
・台風15号接近のため中止しまし
た。

中国自然歩道 6 ユルガ峰
9月21日(日) くもり
(集合) JR西明石駅 7・35―45
(バス) 大宇スキー場 10・10―20
―登山道入口 10・40―林道橋 11・
20―遊林小屋 11・27―ユルガ峰通
過 11・40―大南奥合峰 12・10(昼
食) 12・50―駒の尾山 13・15―40
―林道出口 14・40―駒の尾山 14・
50―15・05(バス) 平福 15・40
(土曜早登) 16・25(バス) 西明
石 16・00(解散)
ユルガ峰では温度計が14度、寒
いはずだ。台風にも気をもみ、大
茅に看くと熊出役を何度も聞かさ
れる。一頭の熊ぐらいい23名で仕留
めてやると思ったものの、やはり
不安。ユルガ峰はしっとりとした
自然林が広がり、駒の尾山南尾根
は気持ちのよい雑木林をすすん
どいった。

(参加者) 吉原孝次 松上英代子
原 幸子 東山澄夫 光川一孝子
(計9名)
◎奥山繁二

須藤裕子 前川 一 田所直里子
首藤育子 大和 絃 口石かおる
中川孝子 三輪直文 角田一江
小谷和子 奥田明男 森 瑞代
島田亮子 八木西郎 岡田恵美子
松村雅子 ○岡田 昇 (計23名)
◎古賀隆一

金剛・度尾岳から府庁山
9月21日(日) 雨
(集合) 南海早口駅 10・30―35
―登山口 10・55―度尾岳 11・45―
尾根上 12・15(昼食) 12・45―府
庁山 13・40―田山 14・30―クヌギ
峠 14・56―塞ノ神 15・15―千早口
駅 15・40(解散)
台風の影響で雨になってしまっ
た。度尾岳は急登だと思っていた
が、田山からのクヌギ峠までがも
っと急登で、この山はどちらかと思っ
ても歩き甲斐のある山だと思っ
た。

(参加者) 井上久子 山崎佐和子
市野博文 藤本桂吉 四ノ宮陽子
山本博子 中村英雄 山根木恭子
飯田良子 林 信男 庁 すみ子
小林 桂 小林博子 石井恵美子
森田久子 和田直樹 ○柳川富雄
◎小出良春 (計18名)

核敷ヶ岳から城丹園墳墓核
(京都北山歩き110)
9月21日(日) くもりのち雨
(集合) 京都地下鉄北大路駅 8・
30―40(タクシー) 親交社林道ア
ー ト 9・05―23―核敷ヶ岳 10・10―
25―ナベクロ峠 10・40―城丹尾根
上 11・00(昼食) 11・55―飯盛山
12・50―55―天童山 13・30―45―
茶ヶ峠 14・15―35―殿橋 15・25―
35(解散) 一周山 16・00―20(バ
ス) 京都駅 17・50(解散)

台風15号が南紀沖にあつて風が
強く、冬の山行のようであった。
昼食も風のない場所で見目にとつ
た。

(参加者) 森本敏雄 河原英代子
宮本真幸 宮本悦子 栗岡克子
井上表子 岡崎知子 紫田チヨコ
杉本 高 馬場昌盛 小林 稔
近藤 恭 岩本孝子 蓮井洋子
福井幸之 松岡政美 白田忠子
本間 隆 和田暢子 小林芳江
里見耕生 布藤由美 前田三三
佐野信治 渡部和英 猪俣英枝子
青木一雄 多賀久一 岩本いすゞ
山口喜弘 金森節子 ○森崎貞義
◎川上久堅 ○磯野重治 (計35名)
◎中西信行

三池岳・釈迦ヶ岳
(鈴鹿を歩く177)
9月23日(雨) 晴れ
(集合) 神崎川橋広場 7・50(車)
石神峠 8・20―三池岳 10・20―中
峠 11・00―釈迦ヶ岳 12・10―松尾
尾根ノ頭 12・15(昼食) 13・00―
赤坂谷藪 13・20―遊林小屋 14・
00―八風谷林道 14・30―八風谷広
場 15・20(解散)
延々と続く長大な稜線からは大
パノラマで、左下には伊勢湾が光
り、近江湖は山また山の重なり。
下りは赤坂谷の源流から深い樹林
のなかを八風谷林道へ出ると、ア
ケボノソウが咲き乱れていた。

(参加者) 磯部 純 奥野太一郎
吉原孝次 津野雅弘 落合ひろ子
金谷 昭 原 光一 原 幸子
吉村 昭 小林 稔 嘉瀬井 豊
大石将英 湯浅康夫 石田真由美
池田隆一 友田 毅 友田美保子
谷 守 白木良弘 白木やす子
北村 稔 小松志信 加納由紀子
武村千鶴 茨木良雄 ◎岩野 明
(計26名)

大尾山から横川中堂
9月24日(雨) 雨
(北山ちよっと歩き49)

(集合) JR京都駅正門口京都バ
スのりば 8・00―12(バス) 大原
9・30―萱橋 9・50―大原山 11・
15―仰木峠 12・10(昼食) 13・10
―大原野村 破れ 13・50(解散)
予報とちがって、朝方から急に
雨が降り出し、当日のキャンセル
が半数以上あった。でも参加者も
あり、大尾山から仰木峠まで行程
の6割を歩いた。仰木峠で雨も激
しくなってきたので大原へ下山し
た。

(参加者) 市野博文 西 悦子
谷 守 フリップ知恵子
林 弘毅 玉原 一 井上由紀晴
大久保秀子 ◎奥山繁二 (計9名)

北アルプス・乗鞍連峰
(自然観察山行128)
9月26日(日) 28日(雨)
前後夜泊1泊2日
(26日)(集合) JR岐阜駅 23・
00(バス)
(27日) 晴れ(バス) 野麦峠お
助け小屋 3・15(朝食休憩) 5・
40(バス) 野麦の館 6・00―15―
林道終点 7・00―05―岳谷徒
歩点 9・30―飯本沢 10・35
―50―刺ヶ峰 13・40(昼食) 14・

35―肩ノ小屋 15・10―25―JR東
鞍山 16・00(泊)
(28日) 晴れ 乗鞍山荘 7・00―
肩ノ小屋 7・30―40―位ヶ原 8・
45―9・00―三本滝 11・10―35
(バス) ジョイフルほうの木 12・
45(入浴・昼食) 14・05(バス)
岐阜駅 17・10(解散)

野麦ルートはロングコースで標
高差1700mという健脚向き。
高天原との鞍部から見上げた刺ヶ
峰は果然とするほど高かったが、
野麦の登尾根の開放的で牧歌的な
シラカバ林や岳谷上部の焼石原の
景観は印象的なものだった。下山
の乗鞍高原へのルートでは、昨年
同様、位ヶ原の紅葉と鳥居尾根の
原生林がすてきで、乗鞍連峰の奥
深さを味わう心に残る山行となっ
た。

(参加者) 石川 敏 井林秀彦子
小山明美 沖 伸 加納由紀子
栗原崇吉 栗原裕子 小倉孝子
小松志信 須藤裕子 多田陽子
仲谷礼司 長尾一合 林 えい子
平田輝美 松尾麻子 船木裕子
三角孝子 若松 寛 武藤由美子
◎鳥居信吾 ◎鷺見守康 (計22名)

紀南・長尾山(三重の山69)

9月27日(日) 晴れ

(集合) 「道の駅海山」 9・15 (車) 熊野少年自然の家10・20 (車) 県道52号登山口10・40一服 望台11・00一林道12・00一長尾山 12・30(昼食)13・20一上根山13・35一ふなこ峠14・35一滝一熊野少年自然の家15・10(車)登山口(車)少年自然の家15・30(解散) 眼下に七重湖あり、熊野灘の雄姿、日陰の少ないのが玉に瑕。解散後、有志2人は置田港の宿に泊まり、28日は海上から名所「福ヶ崎」を遊覧。こちらは超絶境。

滋賀・福井県境の山

三十三間山

9月27日(日) くもり時々雨

(集合) 上中野川「道の駅」7・50(車)天増川登山口8・10一戦後の大根畑8・40一水車地9・25一落合分岐10・20一30一榎嶺山11・20(昼食)12・05一直下芝生広場12・50一三十三間山13・05一10一榎嶺山14・05一10一落合分岐14・45一50一天増川渡渉15・

25一40一林道一天増川登山口16・10一20(解散)

今年開削された新コース、上り4時間10分、下り3時間という長丁場。ネコギライの群生、狼の大軍団に鹿の遺骨と野生味満点。樹間を抜けると一軒草原が広がる。榎嶺山からは若狭湾、三方五湖、青葉山の大パノラマ。下山は落合分岐から天増川へ一気にくだった。(参加者) 吉崎孝次 森 俊夫 金谷 昭 北村 正 池田繁美 鈴木雅雄 竹田善英 磯部 純 細野敦也 中尾和子 谷 守 石原君子 角田一江 光川一葉子 木戸雪江 高島洋子 古澤明美 ◎高島伸浩 (計18名)

但馬

コウノトリの郷から刺蛇岳

9月28日(日) 晴れ

(集合) JR姫路駅9・10(バス)酒軍神社11・15(昼食)11・50一不動滝12・10一こさつ峠12・45一刺蛇岳13・00一25一こさつ峠13・35一五郎岳14・05一酒軍神社14・45(バス)コウノトリの郷公園14・55一15・30(バス)出石温泉16・00(バス)JR姫路駅18・00(解散)

低山ながら変化に富んだコースを歩くと、山頂からは久美浜湾の絶景を堪能。コウノトリの郷公園で放鳥まもなくのコウノトリを見る。大空を優雅に飛行するのを楽しみたい。

(参加者) 岩城豊子 波多野恵子 野口 修 小林豊子 森美喜美子 岩根健司 馬龍忠男 船越みよ子 船越利明 森本 勝 森本淳子 熊木幸雄 三輪浩子 岡田 昇 ◎須藤岡 輔 (計15名)

金剛・タンボ山

(地図読み山行58)

9月28日(日) 晴れ

(集合) 南海河内長野駅前9・00一15(バス)小深9・30一55一石見川口10・30一鳥地獄10・45一50一林道終点11・10一杉尾峠11・35一40一タンボ山12・00(昼食)12・45一西の行者堂13・10一タイトレ分岐13・20一車道出合14・20一南海大見峠15・00(解散)

松田 久 玉倉昌孝 山根木美子 前田栄三 川上久堅 染矢つや子 森田久子 原 幸子 桂 久美子 上田千枝子 岩本いすゞ ◎中村 登 ◎坂元一彦(計15名) 葛川中村から蓬萊山 (比良を歩く25) 9月28日(日) 晴れ (集合) JR堅田駅8・40一45(タクシー)葛川中村9・45一オシロ谷出合10・15一25一鉄塔四号10・45一50一鉄塔八号(食池の閉)11・45一55一鉄塔十二号12・10一ジャガ谷出合12・25一汁谷12・48(昼食)13・20一ササ平13・36一蓬萊山13・53一14・10一金ピラ峠14・32一登山口15・30一40一びわ湖パレ前バス停15・48一16・02(バス)JR志賀駅16・12(解散) 葛川中村の発着所から、打見山にのびる送電線電線を忠実にたどり汁谷まで、数えてみると鉄塔は14基あった。第3号塔から順番に漢数字で番号が記されている。汁谷で遠視路と別れて蓬萊山に登り、さわやかな秋風とやわらかな陽差しに包まれて360度の展望をゆっくり楽しんだ後、金ピラ峠経由でゴンドラ山麓駅にくだった。

(参加者) 小林 稔 川田洋子

今村 悟 和田純子 小原きみ子 磯野重治 狩野東彦 川北重美子 宮野哲郎 小山誠次 市井ユリエ 林 正義 中川光郎 竹内喜久子 白根芳子 井上恭子 猪狩美枝子 辻 行子 中川節子 長尾節子 ◎高下淳一 ◎秦 康夫 ◎計20名

飛騨・御前山

9月28日(日) 晴れ

(集合) JR名古屋駅6・15一20(電車)岐阜駅6・44一58(電車)飛騨萩原駅9・10(タクシー)榎洞登山口9・30一原盛岩10・35一御前山11・38(昼食)12・05一笛吹宮12・42一林道14・10一白山神社14・25一30一飛騨萩原駅14・45一15・24(電車)名古屋駅18・03(解散)

榎洞登山口から木橋を渡り溪谷に入る。木橋や岩のつたりして何度も沢を渡り返して行く。水は豊かだが陸橋近くまで流れていた。御前山からは御嶽が目の前の大パノラマ。一等三角点の山頂に私たちが一人だけだった。(参加者) 堀田輝子 伊藤重美子 緒方由子 近田賢子 ◎小出良春(計5名)

ザラノ・高室山・地蔵山

(鈴鹿台山48)

10月4日(日) 晴れ

(集合) 三岐野尻駅7・30/JR米原駅8・00(車)保月8・40一50一地蔵山9・10一寒谷林道終点10・50一高室山11・20(昼食)12・10一ザラノ13・15一柳林池14・25一高室山15・25一保月16・35一35(解散)

高低差は少ないが、アップダウンが多くけっこう疲れました。しかし咲いていた花も多く、さらに通行手形を二本も拾えて幸運でした。(記録・今井みよ子) (参加者) 山田妙子 後藤久美子 佐南光江 林 正義 今井みよ子 柳 敏弘 柳 雅代 花房昌理子 栗本敏夫 伊藤重美子 落合ひろ子 南 智恵子 岡本美千子 宮路ちへ子 ◎吉村 昭 ◎山田明男(計16名)

兵庫丹波・白山から妙見山

10月5日(日) 晴れ

(集合) JR谷川駅10・50(タクシー)大蔵神社11・10一白山12・30(昼食)13・10一十字路13・45一妙見山13・51一14・00一妙見堂14・25一杖立14・27一十字路15・

00一たわ15・15一筋路15・42一谷川駅16・25一45(電車)大蔵駅18・03(解散)

加古川線が不便なので白山を先に登る。白山は岩場が何があった。十字路から妙見山は周囲コースになっていて、この時思わぬアクシデントが起きた。十字路と杖立で同じような絵図の道標があり、杖立で一層廻ったと思ったのか、十字路と間違えて反対の門前へ下山したグループと筋路に下山した2組に分かれてしまった。しかし、谷川駅で全員無事いっしょになれてよかった。

(参加者) 入江武史 加地美代子 荒木光雄 植木鏡子 川田洋子 西原俊彦 梅原香織 小林 稔 藤本桂吉 楠原良彦 木村 豊 飯田昌子 楠原次子 渡部和美 多賀久子 林 信男 小河美奈子 森本 勝 森本淳子 渡辺美代子 角田一江 長谷美子 高岡富美子 上飯知子 小谷和子 中尾美智子 ◎福間 章 ◎小出良春(計20名)

高丸(美濃の山4)

10月5日(日) 晴れ

(集合) JR大垣駅7・00(車)夜叉ヶ池登山口8・20一30一萬灯

手前水場8・50一尾根取付9・00一上部尾根合流10・00一高丸11・50(昼食)12・40一上部尾根分岐14・10一登山道14・45一夜叉ヶ池登山口15・20一30(解散) 昨春秋に下見入り二度と行かないと思っていた高丸に、これで二度も行ってしまいました。三度目はないでしょう(母下由子)。山頂は三グループ28名が登った。わいでしたが、すべて登ったルーは真実でした(山田)。(参加者) 杉山龍久 佐南光江 林 一夫 森脇良義 津野雅弘 西園輝雄 北村 稔 北村つねみ 小松志信 湯浅康夫 湯浅みや子 山田妙子 母下由子 加納由紀子 ◎吉村 昭 ◎山田明男(計16名)

室生・三郎ヶ岳から袴岳

10月9日(日) 晴れ

(集合) 近鉄榛原駅8・10一15(バス)高井8・25一仏隆寺駐車場8・55一9・15一高丸山10・00一15一三郎ヶ岳10・45一11・00一藤原山一美濃堂11・15一石割峠11・30(昼食)12・10一七石山12・40一袴岳13・20一35一伊勢本街道一十本杉一高井15・40一52(バス)榛原駅16・05(解散)

三郎ヶ岳から見る袴岳に抜、多いに登高意欲に燃えた。婦りは往古の名残がある伊勢本街道を散策し、四座籠走達成を終えた。

- (参加者) 森本俊雄 吉後孝次 木村豊 松田久 井上久子 荒木光雄 西悦子 前川和佳子 市野博文 山根厚枝 山中あさみ 磯敏子 田中延子 渡部和美 高岡昌雄 松尾麗子 水本加津栄 東中次夫 宮野敏子 森田久子 古川裕子 白鳥忠子 佐古田文字 中尾美智子 ○井上山紀晴 (計26名) ◎西上利和

越後の山・魚沼駒ヶ岳と八海山 (週末ハイク52) 10月10日(昨夜)13日(朝) 前夜発2泊3日

- (10日) (集合) 京都駅八条白21・00(バス・車中泊) (11日) 晴れ(バス) 枝折峠6・00→20(明神峠?)→00(道行山?)→50(小倉山8・35)→百草の池9・10→20(駒の小屋10・30)→駒ヶ岳10・50(昼食)11・40(駒の小屋11・50)→12・00(百草の池)12・35→45(小倉山)13・20(栗の木の頭)14・10(駒ノ湯山)15・30(泊) (12日) 雨のちくもり時々晴れ

駒ノ湯山荘7・55(バス) 水無川 森林公園9・15→40(バス) 八海山山頂駅10・10→30(ロープウェイ) 山頂駅10・40(女人堂)11・30(昼食)12・10(山頂駅)13・10→30(ロープウェイ) 山頂駅13・40→14・10(バス) あせち温泉14・50(泊)

(13日) 雨のちくもり あせち温泉8・40(バス) 京都駅17・25 (解散)

駒ヶ岳は快晴に恵まれ、紅葉を楽しみ山頂は360度の眺望。小倉山から駒ノ湯の尾根道は黄葉のブナのトンネル。炭酸がはじけるような温泉で疲れをとった。八海山は雨でロープウェイを利用して山頂を目指したが、ハツ峰が雲にすっぽりおわれれたので登山を断念し、早目に宿に入って温泉でのんびりと過ごした。

- (参加者) 横井壽子 渡辺靖子 山本京子 宮本真幸 宮本悦子 若松由子 原文子 加納由紀子 小松志信 緒方申子 船越利明 小林 桂 大西幸孝 竹内登久子 竹田五司 石川 敏 市橋千代子 吉植 清 ○區政利明 (計20名) ◎狩野東彦

上信越・黒岳山と戸隠高原 (自然観察山行129) 10月11日(中)13日(朝) 前夜発1泊2日

- (11日) (集合) J R 岐阜駅23・00(バス) (12日) 雨のちくもり(バス) 戸隠村ペンション4・20(朝食休憩)5・45(バス) 大槍野山頂6・10(林道登山口)6・40(大ダケルミ分岐)7・15→30(しらたま平)9・00→10(接線分岐)9・35(黒岳山)9・50(昼食)10・25(峠ノ大池)11・10→25(大ダケルミ)13・30→35(大ダケルミ分岐)13・55→14・10(古池)15・00→20(登山道)入口15・35(バス) 戸隠村ペンション (13日) 雨 戸隠村ペンション7・00(バス) 戸隠キャンプ場7・15→30(戸隠神社)8・45→9・00(戸隠神社)9・15→30(戸隠森林植物園)鏡池10・15→50(バス) 神吉ヶ温泉11・05(入浴・昼食)12・55(バス) 岐阜駅18・40(解散)

前日までの秋晴れが終わり、未明から雨。ペンションのご主人(山岳ガイド)の助言をもらい、高梨山から黒岳山に変更した。山はガスで見晴らしはきかなかった

が、やがて雨もやみ、黒岳の見事な紅葉を堪能した。翌日は本降りな雨のなか、戸隠高原を自然観察しながら、ゆったり歩いた。

- (参加者) 岡田直規 猪狩美枝子 大平 漸 大平敦子 落合ひろ子 金森節子 熊木秀雄 桂 久美子 栗橋聖吾 栗橋君子 林 えい子 佐々木三三子 船木裕己子 中尾和子 長尾一令 宮路ちへ子 牧 和夫 大和 敏 森 美智子 山添登志子 ○吉後孝次 (計22名) ◎鷺見守康

八ヶ岳・硫黄岳から赤岳 10月11日(中)13日(朝) 2泊3日

- (11日) 晴れ(集合) J R 草津駅8・00(バス) 桜平14・00→15(夏沢)14・50(奥八ヶ岳)15・30(泊) (12日) くもり オーレン小屋7・15(夏沢)7・45→8・00(硫黄岳)9・00→20(楡道)11・00(昼食)11・30(赤岳)13・13(奥八ヶ岳)13・00(赤岳)13・45(泊) (13日) 晴れのち雨 頂上小屋6・30(赤岳)7・30(文三郎尾根)行者小屋8・10→30(南沢コース)下流広場10・00(昼食)10・20(美濃

戸山荘10・35→11・00(美濃戸口)11・50→12・00(バス) もりの湯12・10(入浴)13・30(バス) 草津駅18・00(解散)

オーレン小屋は男女別棟の檜風呂が新しく、トイレも清潔。2日目の後継は濃霧のなかで早目に袴岳に到着してゆくりした。3日目の朝は曇りのち、南八ツの山々がパノラマ。しかし、強風に見舞われたので阿波野岳はカットして、行者小屋から下山した。下山した美濃戸で雨になった。

- (参加者) 内田康夫 武蔵美美子 山藤勝美 中川光郎 柴田チヨコ 入江武史 多賀久子 久保田玲子 井上恭子 佐合礼司 野里マン代 田中幸子 宮野哲郎 伊東ナナ子 西村義朗 川田洋子 橋原良彦 山本博子 ○長比登美 (計20名) ◎村田智俊

比良 駅送岳・ヤケ山から権梅ノ滝 10月12日(中)くもり時々小雨 (集合) J R 比良駅9・40→47(バス) イン山口10・07(大津ワシゲル道) 南小松台合11・27(釈迦)12・49(昼食)13・25(ヤケ山)13・50(ヤケ山)14・35(寒風

峠15・08(涼峠)15・34(権梅ノ滝) 下車道16・04(北小松)16・34→51(解散)

大津ワシゲル道に登るにしたがい、琵琶湖はガスで見えなくなっていたが、釈迦岳では日差しが戻っておかしな天候だった。権梅ノ滝までの下りは思った以上にロングコースだった。

- (参加者) 堀江房勝 山根木登子 小林 稔 飯田寛子 松井トモ子 前田栄三 藤崎洗石 渡辺美代子 磯野重治 朽名生石 岡本美千子 山口喜弘 林 信男 中嶋日出男 山口喜弘 藤本桂吉 川北恵美子 暹井洋子 辻 行子 岩本いすゞ 山岸勝雄 飯田良子 中尾美智子 森澤照子 山口節子 森本康代子 藍田裕子 ○市野博文 (計29名) ◎小山長春

水舟の池新ルート (鈴鹿を歩く178) 10月13日(朝) 雨のちくもり (集合) 佐目大谷広場8・00(祥坂)9・15(門口)9・50(嵐穴谷)10・00(ハチノス谷)分岐10・10(尾根)11・10(水舟の池)11・55(昼食)13・00(獅子ヶ口)西峰13・20(旧大峠)13・30(天狗岩)14・05(

ハチノス谷)14・45(門口)15・30(佐目大谷)15・50(佐目大谷)17・15(解散)

雨のなかでも20名の参加があり実施。山は深い霧。佐目大谷では何回も渡渉。拝坂尻から門口に登り、風穴谷・ハチノス谷から尾根に取りつくと雨はやんだ。水舟の池は霧のなかで白く広がり幻想的。食後焚火で暖をとる。旧大峠からの道は消えていたが、天狗岩におりる古道が残っていた。静寂の霧のなかの秘境歩きはすばらしかった。

- (参加者) 後藤康幸 金谷 昭 池田繁美 服部 典 吉村 昭 太石秀美 岩本孝子 原 光一 磯部 純 永谷鉄治 武村千鶴 今井武司 小倉正昭 石田真由美 杉山修久 谷 守 友田美保子 友田 毅 ○山田泉三 (計20名) ◎岩野 明

福州・三重山 (ファミリーハイタ30) 10月16日(中) 晴れのちくもり (集合) 新大阪駅7・00(バス) 大通林道・三室高原林道分岐10・30(野外活動センター)10・40→50(給水タンク)登山口11・15(

25(溪流沿い)休憩地11・45→50(八丈岩)12・25→30(三重山)13・00(昼食)13・25(給水タンク)登山口14・40→45(野外活動センター)15・05→15(大通林道・三室高原林道)分岐15・25(バス) エイガイヤチくさの湯15・45(入浴)16・45(バス) 新大阪駅19・45(解散)

後継へ登りつめ町界尾根に出ると、ブナやドウクツツツジの木の葉が色づいていた。短い積雪を越えて山頂に立つと、突然にわか雨がきた。昼食を早目に切り上げ、下山していると雨が上がり、後山や日笠草山が姿を見せてくれた。

- (参加者) 柏木孝子 宮村孝次郎 宮西和子 巻田 晃 佐々木輝子 尾崎光子 森本幹雄 三上須美恵 松村雅子 東中次夫 成川みさお 眞田久子 渡部和美 中澤ちづ子 上野昭子 木村 豊 金藤千恵子 本間昭子 村上 伸 田所久美子 松井明忠 沖 伸 田所真里子 長友勝三 藤井裕子 松上美代子 中江清剛 妹尾一正 山中あさみ 西條良彦 河本英機 河本美千子 岩村香子 磯 敏子 長沢佑美 本務忠夫 ○青木一雄 (計38名) ◎木村太郎

105

朽木・三國岳から経ヶ岳

(平日ふれあいハイク・特別)
10月16日(木) くもりのち小雨

- (集合) 京都市鳥丸七条7・30
- (車) 朽木奥原橋9・30―三國岳11・00―15ノ越13・12・30(昼食)13・15―ミゴ越13・45―イチゴ谷山14・15―ミゴ越14・45―林道出合15・15―半良谷橋15・45(前夜)経ヶ岳の尾根は歩きやすく快適だが、ミゴ越からの下りは踏み跡も薄く危険だった。

- (参加者) 若林文夫 中川光昭 安良岡孝 本間 隆 山本千鶴子 栗柄君子 多田陽子 佐古田文子 松尾麗子 南 寛子 米見真砂子 細野欽也 吉藤孝次 堅田美奈子 磯部 純 加藤浩二 山盛加奈子 谷 守 菅生孝子 井上由紀晴 石原君子 泉山聖三 西 悦子 上田久子 山崎信雄 ○川上久登 (計27名)

湖北・大黒山

- 10月18日(日) 晴れ
- (集合) R365檜坂峠9・00―25―主線橋10・25―大黒山10・35―50―南尾根橋11・05(昼食)12・00―鯉谷の頭12・55―鯉谷源頭13・40―樹道出合14・20(解散)

紅葉の始まったブナ林の散策、南尾根からの湖北・若狭と日本海の展望、鯉谷源頭の秋の山菜採りを楽しんだ。

- (参加者) 林 一夫 松上英代子 吉藤孝次 北村 正 加納由紀子 森 俊夫 大石英美 野里マコ代 小松志雄 若原彰子 湯浅みゆ子 竹田善英 白木良弘 白木やす子 岩本彩子 池田繁美 山本久雄 ○磯部 純 ◎金谷 昭(計19名)

若狭の山・多田ヶ岳

- 10月18日(日) 晴れ
- (集合) 小浜市妙楽寺9・00(車)多田コース登山口9・45―55―多田ヶ岳11・25(昼食)13・10―登山口下山14・00―15(解散)

高島伸浩

(計9名)

シヤカ岳・武奈ヶ岳・コヤマノ岳 (比良を歩く26)

10月19日(日) くもりのち晴れ

- (集合) JR比良駅8・45―47(バス)比良リフト前(リフト)シヤカ岳10・00―ワンゲル道出合11・02―シヤカ岳10・50―カラ谷10・35―07―比良ロジ横川・28―八雲ヶ原11・36―45―スキーリフト終点平場12・10(昼食)12・40―線走路出合12・55―武奈ヶ岳13・08―20―線走路出合13・30―コヤマノ岳13・40―コッパ谷への分岐・鞍部14・10―大橋からの登山道出合14・29―金葉峠14・35―40―曹ガレ下15・03―イン谷口15・40(解散・バス)JR比良駅

カラ岳から見上げたときは山頂付近に薄くガスがかかっていたが、霧が晴れたが、われわれの登頂を待っていたかのようには、雲はずかり消えてしまい、360度の展望を楽しんだ。コヤマノ岳からは奇妙な形にねじ曲がった杉やブナの大木など、原生樹林のような原生林の雰囲気があったよう道を歩いた。荒れ道の正面谷を慎重にくだり、予定時間より早くイン谷口に着いた。

- (参加者) 蓮井洋子 柴田チロコ

西屋俊弥 西原君子 土井あつ子 野野穂子 小林 隆 小松きぬ子 川田洋子 田中善雄 市井ユリエ 和田穂子 長尾節子 川北恵美子 西 悦子 高松雅子 宮野哲朗 宮野穂子 フリツ知恵子 長尾一合 中川光昭 仲谷礼司 ○秦 康夫 ○宮下淳一 (計25名)

紀泉・四石山

- 10月19日(日) 晴れ
- (集合) JR和泉砂川駅10・45―金葉寺11・25―30―森の家11・47―鉄塔12・15―隣の尾根12・30(昼食)13・00―探石場13・30―四石山13・58―14・10―沢出合14・40―山中溪駅15・15(解散)

遠くから関空の飛行機が着陸している様子が見えたり、いっ山なのに意外と人が少なくて、もともと人が出てもよいのではと思っ

- (参加者) 宮西和子 中嶋日出男 若林文夫 岩鶴健司 山崎佐知子 藤本桂吉 柳川富雄 渡辺英代子 多賀久子 巻田 晃 ○市野博文 ○小出良春 (計12名)

播磨南部 雲彦山

- 10月19日(日) 晴れ
- (集合) JR西明石駅8・30(バス)坂根登山口10・00―15―大曲10・45―虹ヶ滝11・07―地蔵の頭11・35―大天井12・20(昼食)13・00(11・30(昼食)12・45―雲彦山頂点へ出歩)―天狗岩13・05―半線13・20―25(合流)―十畳14・00―15・00―鹿ヶ池15・10―鹿ヶ池山荘15・20―16・00(バス)明石駅19・00(解散) * (バス)明石駅19・00(解散) * (バス)明石駅19・00(解散) * (バス)明石駅19・00(解散) *

- (参加者) ①13名 ②21名
- 栗崎宗吉 栗柄君子 迫 恵美子 東山登夫 堀原直樹 桂 久美子 秋田福伸 長友登三 佐々木輝子 林 正義 石田賢一 小谷おる 熊木正雄 角田一江 口谷和子 森脇貞義 馬福忠男 森 瑞代 岩田育士 松村雅子 岡田恵美子 三井耕一 森本 勝 森本淳子 小林 桂 金藤節子 松上英代子 上西陽子 川上高雄 大田陽子

八木四郎 ○福崎 章

- 10月24日(日) 25日(日) 前後発日帰り
- (24日) (集合) JR岐阜駅23・00(バス) 白川村平

- (25日) 晴れ (バス) 白川村平 瀬原橋4・30(朝食休憩)5・30(バス)白山スパー林道電停ターミナル駐車場6・00―05―白川郷展望園地7・15―30―1590坪8・30―鞍部8・50―9・10―三方岩岳9・45―10・20―三方岩岳駐車場10・50―11・00(バス)白川郷の湯11・50(入浴)昼食13・30(バス)岐阜駅16・15(解散)

- (参加者) ①13名 ②21名
- 飛騨岩の独特な景観を眺めながら白山山系のブナ林の紅葉のなかに登った。登るにつれ、猫ヶ馬場山・初狩山・人形山・三ヶヶ山の背後に北アルプスが並び、やがて大門山・奈良岳・大笠山・笈ヶ岳が姿を見せた。三方岩岳頂上では、南に三方崩山、西に白山連峰がどっしりと構えていた。

- (参加者) 井上久子 岡田直規

緒方由子 金森節子 萩野美紀恵

- 10月25日(日) 26日(日) 泊2日
- (25日) 晴れ (集合) 近鉄八木駅8・00(バス)大又9・30―40―作業小原11・30―二階小原12・00―伊勢辻山12・15(昼食)13・00―ハンシ山14・00―雲ヶ湖山14・45―高見峠15・15―30(バス)スメール(泊)

- (26日) 晴れ スメール7・40(バス)高瀬橋布引谷コース登山口7・50―8・00―支尾根橋8・45―55―山の神10・30―迷沼11・55(昼食)12・50―廣谷川分岐13・20―廣谷川林道終点14・30―スメール15・15(入浴)16・30(バス)八木駅18・20(解散)

- 伊勢辻山は白いスキ原で、大展望が堪能できた。迷沼へは飯盛

山コースを予定していたが、最近整備されたと聞き、安全な布引谷コースを登った。山の神で左折するところをまっすぐ谷へ出、テープに導かれて急登の尾根を登ると、幸運にも正午に迷沼山頂場に出てびっくりにした。このコースをとってよかった。紅葉は真々盛り。

- (参加者) 入江武司 斎藤美奈子 東中次夫 岩田育士 斎藤よし子 大西幸孝 森 瑞代 中尾美智子 澤田高治 馬福忠男 市井ユリエ 長沢佑美 南 寛子 村田はる江 岩本彩子 楠原良彦 川田洋子 本家洗子 山本博子 宮路ちへ子 首藤君子 多賀周二 多賀久子 ○比呂裕美 ○村田智俊(計25名)

- 10月26日(日) 晴れ
- (集合) 阪南青屋川駅8・30―38(バス)東お多福山登山口8・49―9・10―東お多福山9・45―10・05―七穂湖10・12―鞍ヶ北山10・45―右側の室11・10(昼食)12・20―船越峠13・15―25―船越バス停14・05―18(バス)飯盛室探検14・40(解散)

- 六甲・蛇ヶ谷山 (地図読み山行39)

を地形図とコンパスの勉強をしなが
ら歩いた。秋晴れの山は少し色
づき始めていて、さわやかな一日
だった。

○中村 登 ◎塚元一彦(計1名)
英園・橋ヶ谷山から天狗登山
10月26日(日) 晴れ
(集合) JR名古屋駅8:00-03
(電車) 明知鉄道阿木駅9:35
(タクシー) ゲート10:00-宮林
小屋10:40-御次口・00-1峠11:
17-橋ヶ谷山11:57(昼食) 12:
30-天狗登山13:15-宮林小屋14:
05-風神神社15:00(タクシー)
阿木駅16:30-16:18(電車) 名
古屋駅17:58(解散)

タクシードで宮林小屋までと思っ
たが、ゲートが閉っていてここ
から歩き出す。マイナーな山なので
私たち以外人はいなくて幸せだと
思った。けれど、どうして人がい
ないのかなあ。

徳田暢子 近田智子 伊藤重美子
(参加者) 石原順次 森 美奈子
徳田暢子 近田智子 伊藤重美子
(計21名)

●小出良春 (計8名)
油日岳・那須ヶ原山・高畑山
(鈴鹿を歩く179)

10月26日(日) 晴れ
(集合) 鈴鹿時8:00(置き車・
車) 油日林道登山口8:35-油日
岳9:20-三國岳9:45-那須ヶ
原山11:20-1ガレの尾根11:50
(昼食) 12:25-坂下峠13:05-
湖ノ山13:40-高畑山14:15-鈴
鹿峠15:20(解散)

爽やかな秋晴れ。油日岳から鈴
鹿峠までの長大な直線道路はキレッ
ト、岩尾根、ガレ場、ナイフリッ
ジ等、ロープを頼りに激しいアッ
プダウンの連続。しかし、随所で
大パノラマが展開し、高畑山では
リンドウの花が开出迎える。爽やか
な風に吹かれ、南鈴鹿の秋を十二
分に堪能した。

(参加者) 後藤康幸 池田繁美
吉村 昭 大石裕美 奥野太一郎
森本 勝 森本淳子 永戸鉄治
谷 守 栗本敏夫 武村十鶴
北村 隆 谷 久雄 石田真由美
今井武司 白木良弘 白木やす子
杉山修久 原 光一 炭田明美
◎岩野 明 (計21名)

百井谷から天ヶ岳
(北山ちよっと歩き50)

10月29日(木) 晴れ
(集合) 飯沼出町駅8:30-40
(電車) 鞍馬駅9:20-扶桑9:
40-百井峠11:20-鉄塔広場11:
40(昼食) 12:40-天ヶ岳13:30
-シタナゲ尾根14:10-車道15:
15-小出石15:40(解散) 地下鉄
国際会館駅16:20(集合)

紅葉にはちよっと早かったが、
天ヶ岳手前の鉄塔広場からは見晴
らしがよく、ゆっくりと昼休憩が
できた。

(参加者) 長友勝三 西 悦子
市野博文 田中善雄 井上由紀新
中村 保 山岸勝雄 松井トキ子
宮野敏子 角江朝子 中嶋日出男
和田直樹 妹尾一正 宮村孝次郎
渡部和美 安良陽子 波多野恵子
森田久子 小川明美 大久保秀子
岩本彩子 石原君子 中上紀代子
長尾一令 吉野栄子 高岡富美子
石井重美子 ○谷 守
○本間 隆 ○磯部 純
◎奥山盛三 (計31名)

例会参加の注意点

山行例会参加の場合は、新ハ
イキングの規定があります。89
ページの山行計画欄を参照に
し、十分にご理解のうえ申し込
んでください。規定に反します
と、係や参加の他の人にも迷惑
をかけることになります。気持
ちよく山行するため、みんなで
ルールを守りましょう。
特に次の2点をよろしく。

★計画を自分で決め、必ず7日
前には申込先に到着するよう、
往復ハガキに必要事項をすべ
て記入のうえ申し込んでくだ
さい。直前や飛び込みはお断り
します。また電話やファクシミ
リでは、名簿作成や山行案内の
返信に困ります。
★雨天に歩くのが嫌な方は始
めから小雨決行・雨天決行の
計画には申し込まないように。
また、当日の決行中止かは、
返信案内の降水確立を見て、必
ず前夜の気象情報で確認し、判
断ください。

新ハイキングクラブ関西 入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西
の山」(隔月刊・年6号発行)の
定期購読者を中心としたハイキン
グの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイ
ドなどで、関西のハイキングコー
スや山の情報を発信しています。
山の知識を深め、健康な身体をつ
くり、自然のなかに歩く喜びをと
もに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和
25年発足以来、東京を中心に50年
間余、好評のうちに活動していま
す。関西は平成3年発足で13年目
に入りますが、すでにたくさんの方
が活動しています。

会員は当会の山行例会に優先し
て参加できます。この山行例会を
通じて正しい山歩きを、楽しい山
仲間たちと味わいませんか。
リーダー(係)はすべて無償の
奉仕で、各自で切符を買い茶代を
払い、宿泊料もすべてワリカンで
す。

会員には「新ハイキング関西の
山」を毎月お送りします。
四季の自然に触れながら歩き

若々しい心と健康をいつまでも持
続するのは素晴らしいことです。
これから始めてみたい人も、すで
にベテランの人もみなさんご入会
いただけます。

年会費 5000円(バッジ代)
入会金 3000円(送料共)
入会の申し込み(随時)はこの
雑誌に挿入の振替用紙をご利用く
ださい。氏名(ふりがな)及び第
何号からの送本かを忘れずに記
入ください。

なお、定期購読をご希望される
方も会員になっていただけますと、
毎号確実にお手元に届きますので
便利です。
切手530円分をお送りになれ
ば、「新ハイキング関西の山」見
本誌1冊送ります。

○山行リーダー募集

リーダーは2ヶ月に1回程度
の山行例会を計画・実施してい
ただきます。
無償の奉仕ですが、やりがいも
あり、楽しいものです。経験のある
方や、やってみたいと思われる
方は、新ハイキング関西までご連絡
ください。マニュアル「リーダー
募集」をご参考に送ります。

○新入会員(定期購読者)紹介

新しいお仲間のみなさんです。
会員番号4909番から4934
番まで

【愛知】 五穂月子 一芝美知子
【三重】 荒木貞夫
【京都】 稲葉大太郎
稲葉美知子

【大阪】 稲葉美知子
榎庭 栄 榎庭和子
寺岡さち 菅 キヤウ
宮野敏子 多久島 博

【兵庫】 川俣 融 伊藤三千代
森田久子 峯松和枝
榎浦優夫 西谷美保子

【奈良】 北谷敏子 山崎佐知子
新垣 繁

【和歌山】 増田 正 酒見祥子
山口信子

【広島】 佐藤和子 上中昭一
正路勉久生 (26名)

訂正とお詫び

73号(晩秋)11ページ下段15行
目「山地を形成した。」のあとに
「ただし、麓下しの火打岩はチャー
トの一種であるが、赤白珪石とか
青白珪石とか呼ばれる珪岩で、放
散型化石はまったく含まれない。
海成噴火で文武宿岩が固まったも

のである。」の文章を追加する。

73号(晩秋)24、25ページ「宛
誌」は「宛誌」が正しい。

73号(晩秋)46ページ上段6行
目「7行目「天野参詣道となる。」
は「高野参詣道となる。」が正し
い。

73号(晩秋)52ページ下段19行
目「……の挿絵を参考」は「……
の挿絵を参考」が正しい。

73号(晩秋)78ページ上段タイ
トルの副題「豊野町の最高峰」は
「豊能町の最高峰」が正しい。

○新サービステーション (編集者)

尾瀬登山ハイキング入山口
天然温泉で山の疲れを

水芭蕉の湯

グイラ風花(KAZAHANA)

T378-0411
群馬県利根郡片品戸倉446
0278-15817051

毎月お求めになりたい方へ
前もって書店に毎月ほしい
と「購読予約」をお買いますと、
どこの書店でもお買い求めい
ただけます。購読月の20日ごろ
(隔月刊)の発売です。